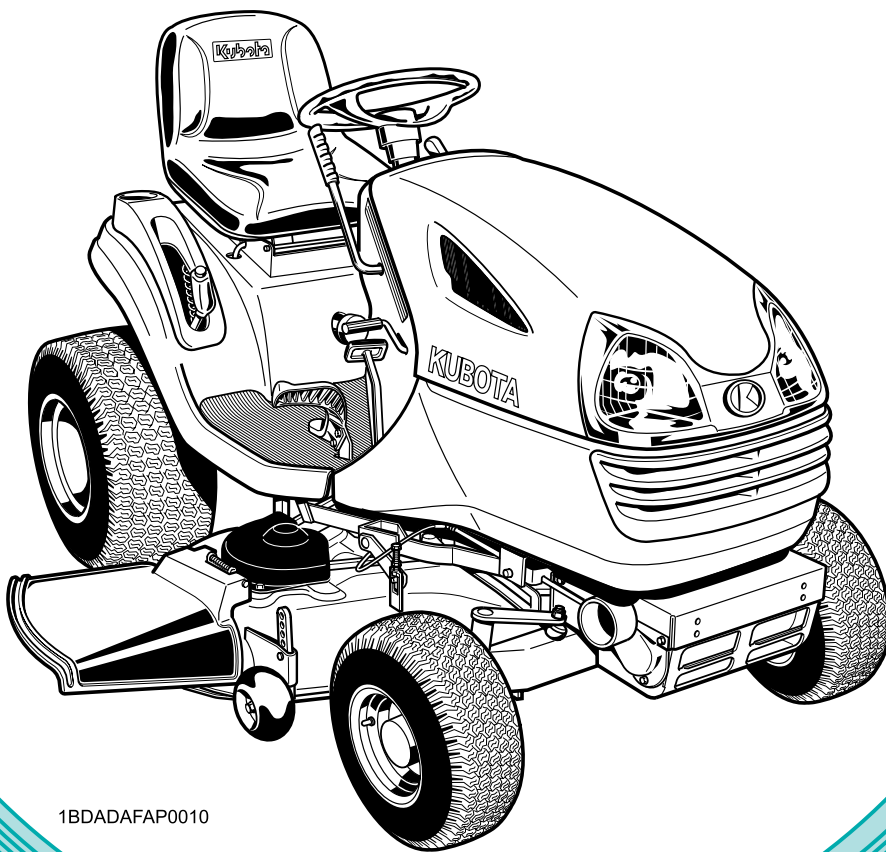


クボタローントラクタ

取扱説明書

T1880



1BDADAFAP0010

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

取扱説明書の
目次

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



注意マーク



ガソリン



ブレーキ



駐車ブレーキ



エンジン停止



エンジン運転



エンジン始動



PTO “切”



PTO “入”



モータ下げ



モータ上げ



刈高さ



ヘッドランプ



ヘッドランプ “入”



ヘッドランプ “切”



高速



低速



エンジン回転調整位置



チョーク



バッテリー



エンジンオイル圧力

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取出ししてお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。



安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、 表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

専門用語の説明

- rpm 1 分間の回転数（レボリューションパーミニッツ）
- PT0 動力取出し（パワーテイクオフ）
- HST 油圧変速装置（ハイドロスタティックトランスミッション）

目 次

安全に作業するために

サービスと保証について

主要諸元

運転に必要な各部の名称

モータの着脱のしかた

モータデッキの装着	5
モータデッキの調節	7

エンジンの始動と停止

エンジンの始動	9
駐車ブレーキロックペダル	9
スロットルレバーとチョークノブ	10
キースイッチ	10
寒冷時の始動	11
安全装置の点検	11
エンジン運転中の点検	12
エンジンの停止	12
暖機運転	13
低温度領域での暖機運転とトランスミッションオイル	13
バッテリーあがりの処置	14

運転のしかた

ならし運転（最初の約 50 時間）	15
新しい機械の潤滑油の交換	15
始動	16
シート	16
ライトスイッチ	16
昇降レバー	16
スロットルレバー	17
駐車ブレーキ	17
速度調整ペダル	17
停止	18
運転中の確認事項	18
以下の場合、直ちにエンジンを停止してください	18
イージーチェッカ	18
アワメータ（オプション）	18
駐車	19
駐車	19
搬送	19
HST バイパスロッド	19

モータの使い方

モータの上手な使い方	20
刈高さ調整方法	20
刈高さ調整ダイヤル	20
モータの操作方法	21
KRA システム通常操作モード	21
PTO レバー	22
KRA システム無効モード	22
マルチング機能の使い方	23
マルチングから右側放出に変更する方法	25
マルチングカバー締付けバンドの調整	26
右側放出位置での調整	26
マルチング位置での調整	26

メンテナンス

廃棄物の処理について	27
洗車時の注意	27
定期点検箇所一覧表	28
給油（水）一覧表	30
給油（水）	30
推奨グリース	30
HST	31

定期点検

ボンネットの開け方	32
ボンネット	32
エンジンカバー	32
日常点検	32
燃料の量の点検と給油	33
エンジンオイルの量の点検	34
冷却吸気スクリーンの点検	35
注油	35
25 時間ごとの点検	37
エアクリーナの清掃	37
50 時間ごとの点検	38
PTO ベルトのテンション調整および交換	38
モータブレーキの点検およびモータブレーキワイヤの調整	39
ブレーキペダルの点検	40
グリースの注入	41
タイヤの空気圧の点検	41
空気圧	41
100 時間ごとの点検	42
エンジンオイルの交換	42
エンジンカバーの清掃	43
点火プラグの点検	43
燃料ホースの点検	44
スロットルケーブルの点検	45
バッテリー	45
エアクリーナペーパーエレメントの交換	47
燃料フィルタの交換	48

目 次

エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	48
200 時間ごとの点検	49
ベンディクススタータの清掃	49
600 時間ごとの点検	49
トランスアクスルオイルフィルタの交換 ..	49
トランスアクスルオイルの交換	50
2 年ごとの点検	50
燃料ホースの交換	50
必要に応じた点検・整備	51
ヒューズの交換	51
ランプの交換	51
バッテリーの交換	52
刈刃の点検と交換	52
一般締付けトルク	54
締付けトルク一覧	54

格納

不調と処置

エンジンの不調と処置	56
バッテリーの不調と処置	57
トラクタの不調と処置	57
モータの不調と処置	58

付表

主な消耗部品一覧表	59
-----------------	----

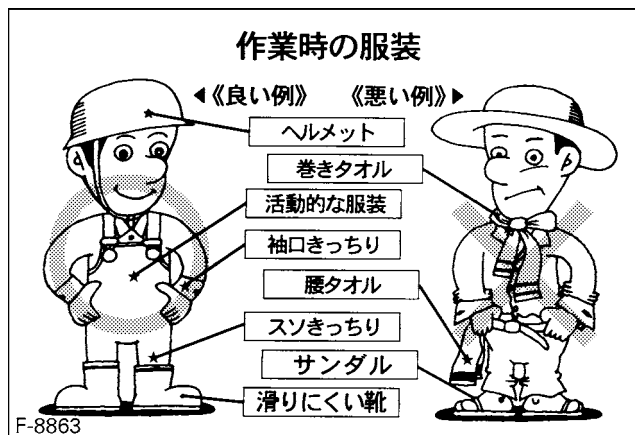
本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で ▲ 危険 ・ ▲ 警告 ・ ▲ 注意 ・ 重要 ・ 補足 としてそのつど取上げています。

1. 運転前に

1. トラクタを動かす前に、トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある ▲ 表示ラベルをよく読み、理解した上で運転してください。
2. モーア及び、エンジンをすばやく停止する方法を知っておいてください。
どのような緊急事態にも対応できるようにしてください。
3. トラクタ、作業機を他人に貸すとき、又、運転させるときは、事前に運転のしかたを教え、本書を読ませてください。
4. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



5. 飲酒時や体調が悪いとき、病気や妊娠しているときは、トラクタを運転しないでください。
6. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため、ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護めがね、耳せんや手袋などを使用して、安全作業を行なってください。

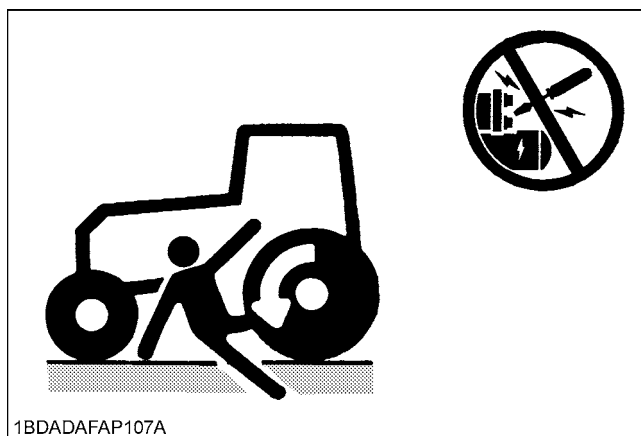


7. トラクタを改造しないでください。改造すると、トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
8. 安全カバー類を外した状態でトラクタ、作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ、ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば、交換してください。
又、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は“メンテナンス”の章参照）
9. 作業前にすべてのボルト、ナットなどを、確実に締めてください。
10. すべてのカバーや、ガードを所定位置に付けないで作業しないでください。
11. トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリー、配線、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。
又、燃料パイプ及び電気配線を定期的に点検整備してください。火災などの原因になります。
12. 作業前に、モーアによって拾いあげられたり、飛ばされたりすると思われるすべての障害物を作業場所から取除いてください。
13. モーアの上に物を載せたり、人が乗ったりしないでください。

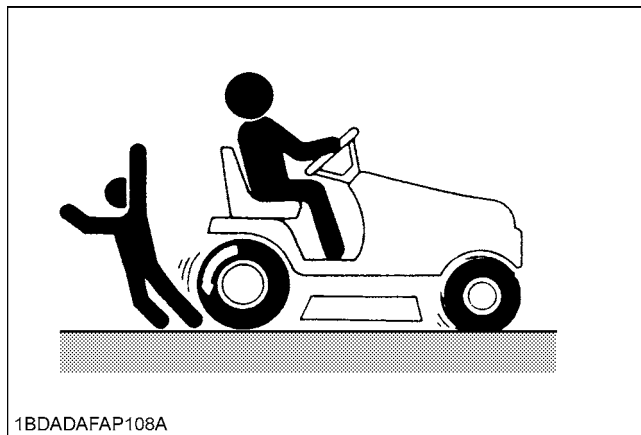
14. クボタ推奨作業機以外は装着使用しないでください。
15. 作業機装着時はその取扱説明書、警告ラベルにある注意事項に従ってください。

2. 始動時に

1. エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、各レバーや速度コントロールペダルが“中立”かどうか、又、駐車ブレーキが掛かっているか、そして PTO が確実に“切”の位置になっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出すおそれがあります。

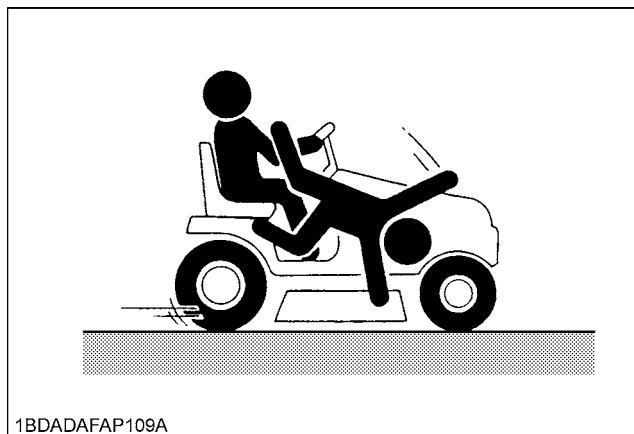


3. トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし速度コントロールペダルを踏んでいると、車体が動いたりして事故になるおそれがあります。

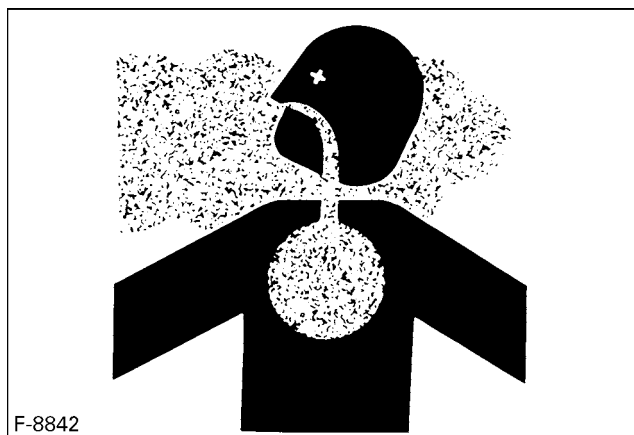


3. 運転時に

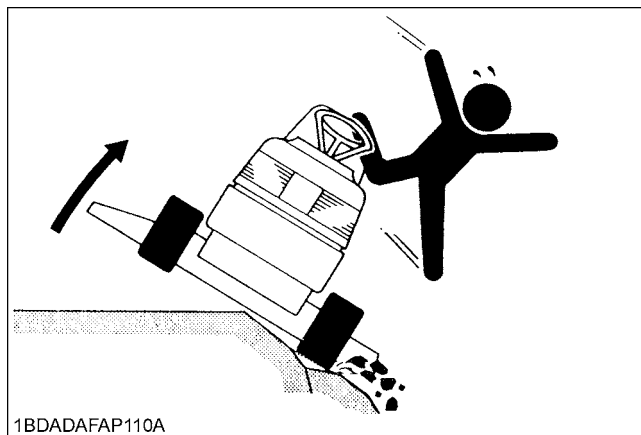
1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又、必ずシートに座って運転してください。



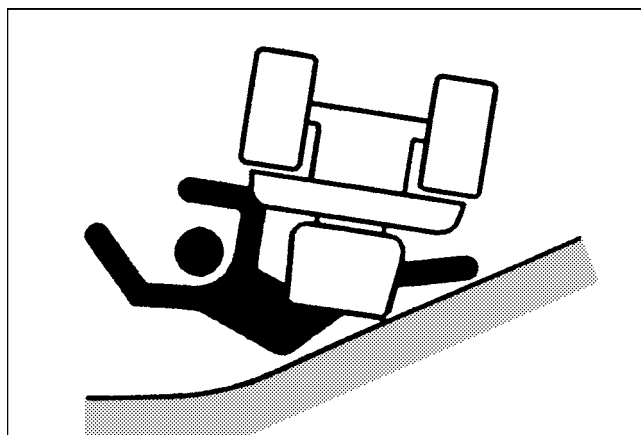
2. 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



3. 溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。

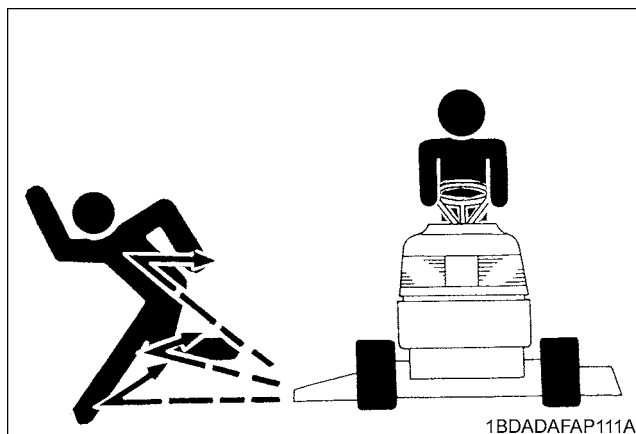


4. 傾斜地や凹凸地、ぬかるんだ場所、湿った草ではスリップし転倒しやすいので、特に運転操作に注意してください。

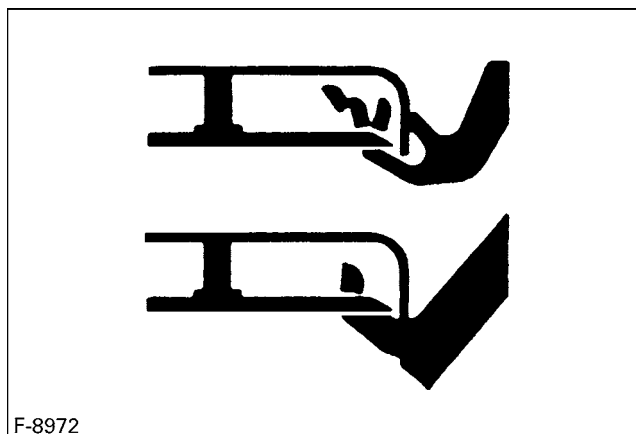


5. 転倒やスリップのおそれがある場所で使わないでください。
6. 高速・急発進・急停止・急旋回など、急激な運転操作をしないでください。
7. 移動状態（モータ吊上げ状態）で作業をしないでください。
8. 草刈りは昼間、又は良好な照明を使用して行なってください。
9. 起伏地での作業中に旋回するときは、トラクタの速度を落としてください。
10. 傾斜地作業は危険で、おすすめできません。傾斜地で作業する必要があるときは、特に注意を払ってください。
11. 斜面では上下方向に刈り、等高線刈りはしないでください。
12. 登坂不能時は刈刃を止め、ゆっくり真直ぐに降りてください。駆動を切り惰性で斜面を降りたりしないでください。

13. 作業場所を点検して、針金、石など飛散のおそれがある物は除去してください。
14. 起伏地や高い草を刈るときは、異物や、かくれている障害物に当たる危険性を少なくするため、刈高さを高くセットしてください。
15. 障害物に当たったときは、エンジンを停止し、トラクタとモータの破損を点検してください。作業を再開する前に、破損部を修理してください。



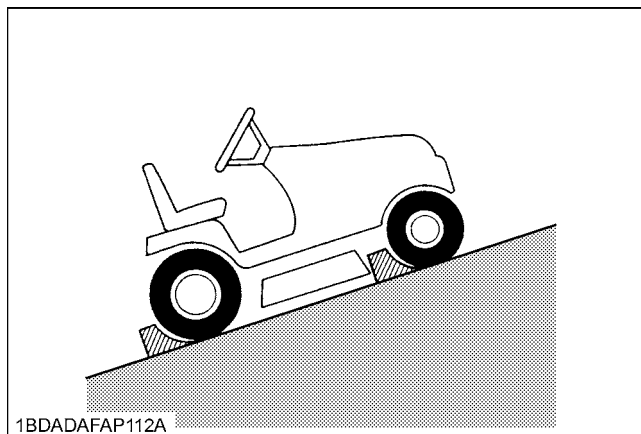
16. 機械の周囲や、草の吐出し方向に人がいないことを確認しながら作業してください。
17. 周囲の人や動物に放出口を向けないでください。
18. 後進時は後方の安全を充分確認しかつ、必要な場合以外は刈刃を停止して後進してください。
手足を刈刃に近づけるときはエンジンを停止しキーを抜いてください。
19. トラクタを後退させるときは、区域内に障害物がないかを確認してください。



20. 集草機の脱着や芝草の詰まり掃除などは、エンジンを止め、さらに刈刃が完全に停止したことを確かめて、行なってください。
21. 火災のおそれがあるので排気を草や木の葉の堆積物などの可燃物には近づけないでください。
22. 公道は走行しないでください。公道での移動はトラックに積載して行なってください。
23. 急な斜面では、集草機などは使用しないでください。
24. KRA システムを無効にする前に、後方の安全を充分確認してください。
クボタは、KRA システムを無効にしないことを強く推奨します。KRA システムは、絶対に必要かつ安全な場合を除き、無効にしないでください。

4. 駐車、格納時に

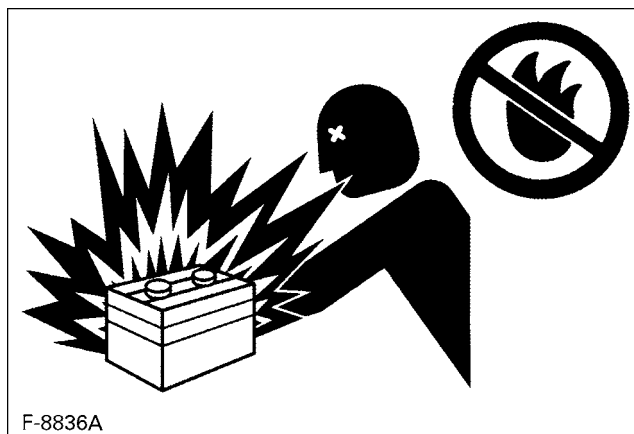
1. 駐車するときは、平坦でトラクタが安定する場所を選び、PTO を“切”，作業機を“下げ”，各レバー及び速度コントロールペダルを“中立”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。



2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。

5. 点検・給油・整備時に

1. 平坦な場所に駐車し、作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，各レバー及び速度コントロールペダルを“中立”，PTO を“切”にし、そしてエンジンを停止してください。
2. トラクタ及びモータが動いているときは、いかなる調整も修理もしてはいけません。
3. エンジン・マフラなどが十分冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。
4. ガソリン燃料の取扱いには特に注意してください。燃料は可燃性で、蒸気は爆発性です。
 - a) 承認された容器以外は使用しないでください。ガソリンの保管・給油にはポリタンクは使用しないでください。
 - b) エンジンが作動している状態で燃料キャップを外したり、燃料を補給したりしないでください。燃料を補給する前にエンジンを冷やしてください。
燃料を補給するときや燃料の付近に立っているときは、タバコを吸わないでください。
 - c) 屋内で機械に燃料補給しないでください。また、燃料やオイルがこぼれた場合は必ずきれいにふき取ってください。
 - d) 機械または燃料容器は、給湯器など裸火がある内部に保管しないでください。
5. 燃料を補給するときやバッテリーを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。
バッテリーは充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。



6. 放電したバッテリーにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの始動と停止の章“**バッテリーあがりの処置**”を参照)

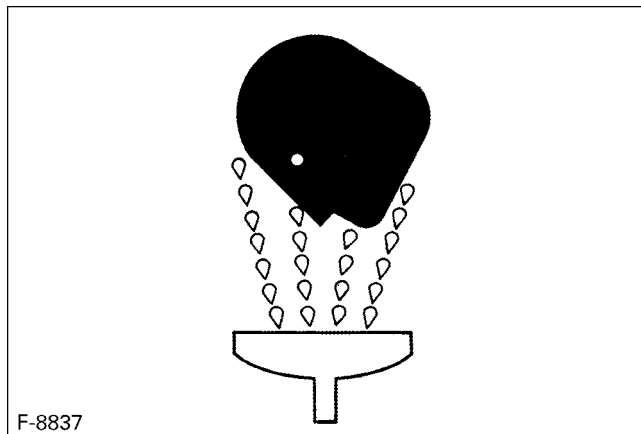
7. バッテリーは液面が LOWER (最低液面線) 以下になったままで使用や充電をしないでください。

LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。

すぐに UPPER LEVEL (上限) と LOWER LEVEL (下限) の間に補水してください。(補水可能なバッテリーの場合)

8. バッテリーを外すときは、短絡事故を防ぐため、最初にバッテリーのマイナスコードを外し、接続するときは最後に接続してください。

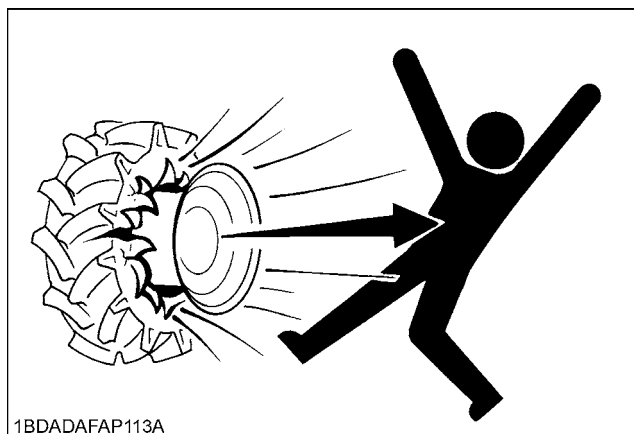
9. バッテリー液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って、すみやかに医師の診療を受けてください。



10. タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。

11. タイヤに傷があり、その傷がコード (糸) に達している場合は、使用しないでください。

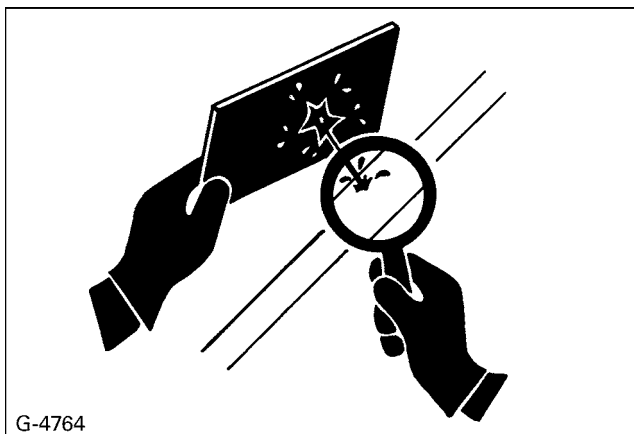
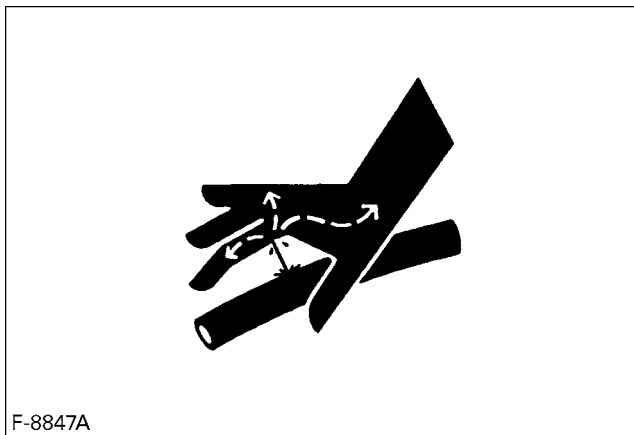
12. タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)



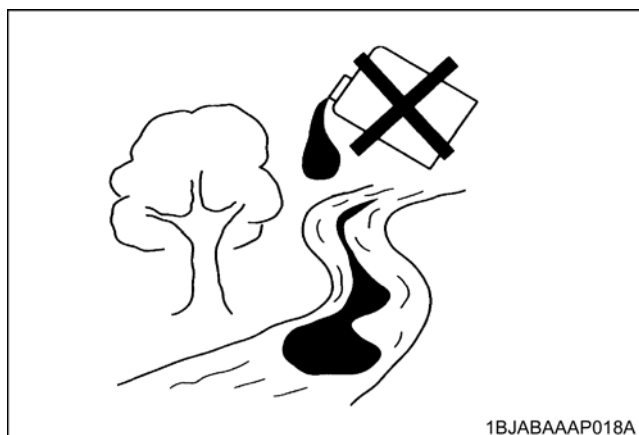
13. 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは、必ず残圧を抜いてください。

14. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。

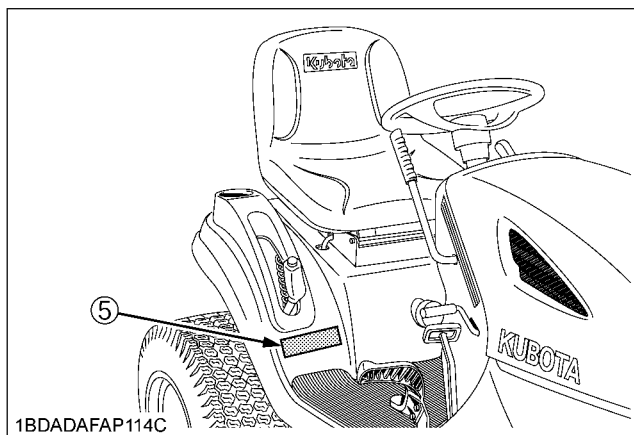
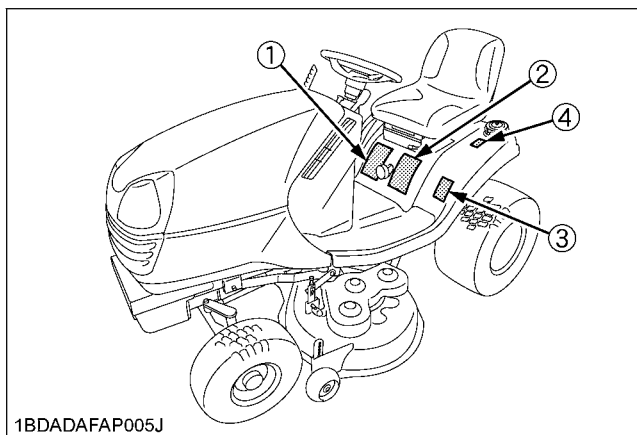
万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



15. 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。



6. 表示ラベルと貼付位置



(1) 品番 K2058-6552-1

警告

傷害事故防止のため、正しい取扱いをしてください。

- 転倒やスリップの恐れがある斜面や凹凸のある場所では使用しないこと。
- 斜面では上下に登り降りし、等高線走行はしないこと。
- 特に高速時や斜面・凹凸地では急旋回は避けること。
- 斜面途中で登坂不能時は刈刃を止め、ゆっくり降りること。
- 運転者以外の人や子供を同乗させないこと。
- 人や子供が周囲にいる時は作業をしないこと。
- 後進時は刈刃を止め、後方の安全を確認すること。
- 安全カバーや安全装置を取り外して使用しないこと。
- 刈刃で飛散する小石等を除去して作業すること。

(2) 品番 K2058-6553-1

注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

- 使用前に操作装置と操作方法を確認すること。
- エンジン始動時はシートに座り、PTOが「切」になっていることや、機械の近くに人がいないことを確認すること。
- 火災防止のため、排気口近くには草や木葉の堆積物等の可燃物を近づけないこと。
- 換気の不十分な場所では使用しないこと。
- 降車時はインブルメントを降ろしPTOを「切」にし、各変速レバーの中立を確認して駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してキーを抜くこと。
- 点検、整備はエンジンを止め、機械の各部が停止してから行うこと。
- この機械は法規上、一般公道は走行できません。

(3) 品番 K1028-6537-1

危険

回転している刈刃で手や足を切断する恐れがあります

- ・ 刈刃が回転していなくても、決して子供を乗せないでください。
- ・ 周囲に人がいるときは草刈作業を行わないでください。
- ・ 後進する前と後進中は下と後方を見て危険がないことを確認してください。

1BDADAFAP100A

(4) 品番 K1028-6536-1

警告

ガソリン 火気厳禁

火災の危険があるので給油時 エンジン停止

1BDADAFAP099A

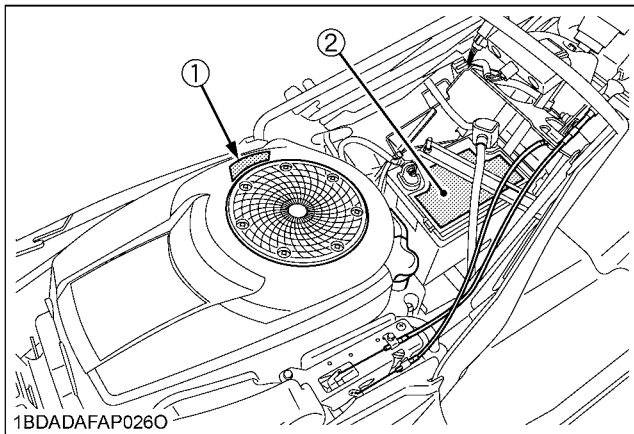
(5) 品番 K2058-6554-1

警告

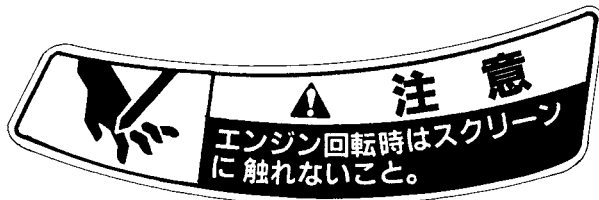
トラクタが突然動き出す恐れがあるため：

- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと

1BDADAFAP104A



(1) 品番 K1028-6535-1



(2) 品番 K1221-6118-1



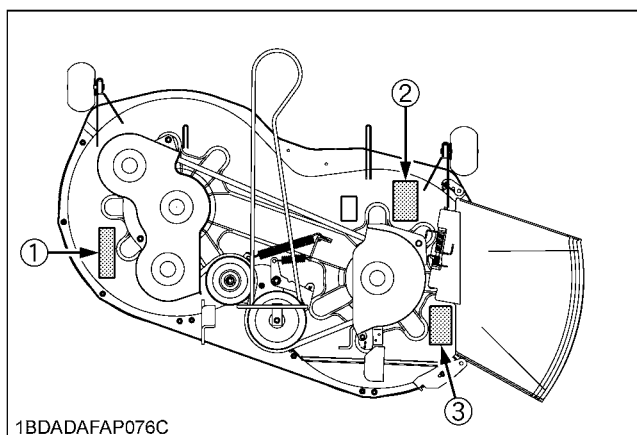
1BDABDAP013A

1BDADAFAP105A

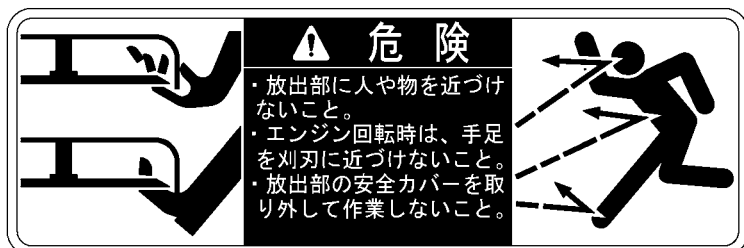


- 火気禁止
- メガネ着用
- こども禁止
- 硫酸注意
- 説明書熟読
- 爆発注意

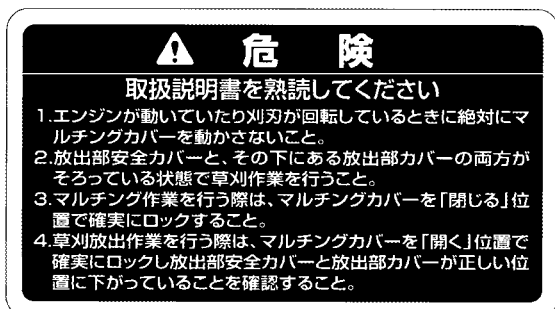
1BDABANAP085A



(1) 品番 K5128-7312-1



(3) 品番 K5128-7313-1



(2) 品番 K5128-7314-1



7. 表示ラベルの手入れ

1. ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
ラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 損傷や紛失したラベルは、新しいラベルを購入先から入手して交換してください。
4. ラベルがある部品を新しい部品と交換する場合は、新しいラベルを交換する部品と同じ場所に貼付けてください。
5. 新しいラベルは、汚れていない乾燥した面に貼付け、気泡を端から押し出して貼ってください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので
使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスにつ
いてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそ
れぞれ“**ご相談窓口**”を設けておりますのでお気
軽にご相談ください。

その際銘板に記載している

1. 型式名と車台番号
2. エンジン名称とエンジン番号
3. モーア名称とモーア番号

を併せてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を
準備しておりますので、そちらでご相談くださ
い。



警 告

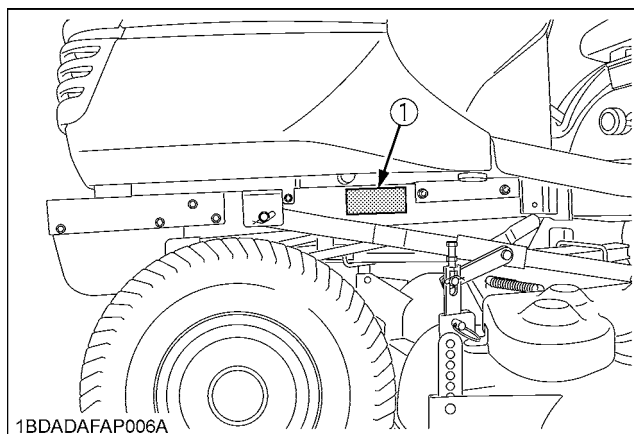
*** 機械の改造は危険ですので、改造しないで
ください。改造した場合や取扱説明書に述
べられた正しい使用目的と異なる場合は、
メーカー保証の対象外になるのでご注意く
ださい。**

■ 補修用部品の供給年限について

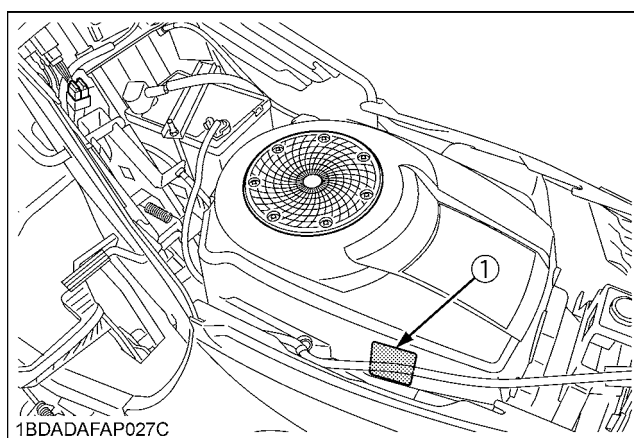
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造
打ち切り後 12 年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につつま
しては、納期などについてご相談させていただく
場合もあります。

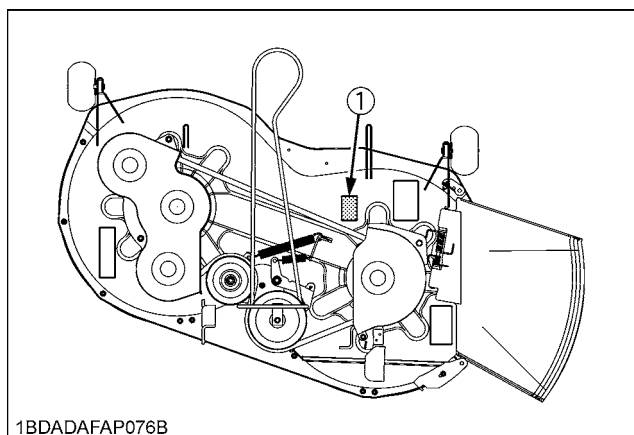
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で
終了致しますが、供給年限経過後であっても部品
供給のご要請があった場合には、納期及び価格に
ついてご相談させていただきます。



(1) 型式名，車台番号



(1) エンジン名称，エンジン番号



(1) モーア名称，モーア番号

主要諸元

型式名				T1880-J	
エンジン	機関型式			GH540V	
	最大出力		kW (PS)	13.4 (18.2)	
	形式			OHV 空冷ガソリンエンジン	
	シリンダ数			1	
	シリンダ内径×行程		mm	94 × 86	
	総排気量		cc	597	
	使用燃料			自動車用無鉛またはレギュラーガソリン	
	始動方式			セルモータ式	
	潤滑方式			全圧潤滑	
	冷却方式			強制空冷式	
	バッテリー			34A19R	
	点火プラグ			Champion RC12YC	
容量	燃料タンク		L	13.5	
	エンジンクランクケース		L	1.5	
	ハイドロスタティックトランスミッションケース		L	2.75	
機体寸法	全長		mm	1850	
	全幅(モータ含む)		mm	1392	
	全高		mm	1090	
	軸距		mm	1290	
	輪距	前輪	mm	783	
		後輪	mm	727	
質量(モータ搭載時)			kg	280	
走行系	タイヤ		前輪	15 × 6.00-6	
			後輪	22 × 11.00-10	
	走行速度	前進	km/h	0 ～ 9.0	
		後進	km/h	0 ～ 5.0	
	変速方式			油圧無段変速 (HST)	
	制動方式			ディスクタイプ	
PTO	PTO			ベルト駆動	
	回転方向			上から見て時計回り	
	回転数 (PTO速度)		rpm	3200	
	PTO クラッチ方式			ベルトテンションクラッチ	

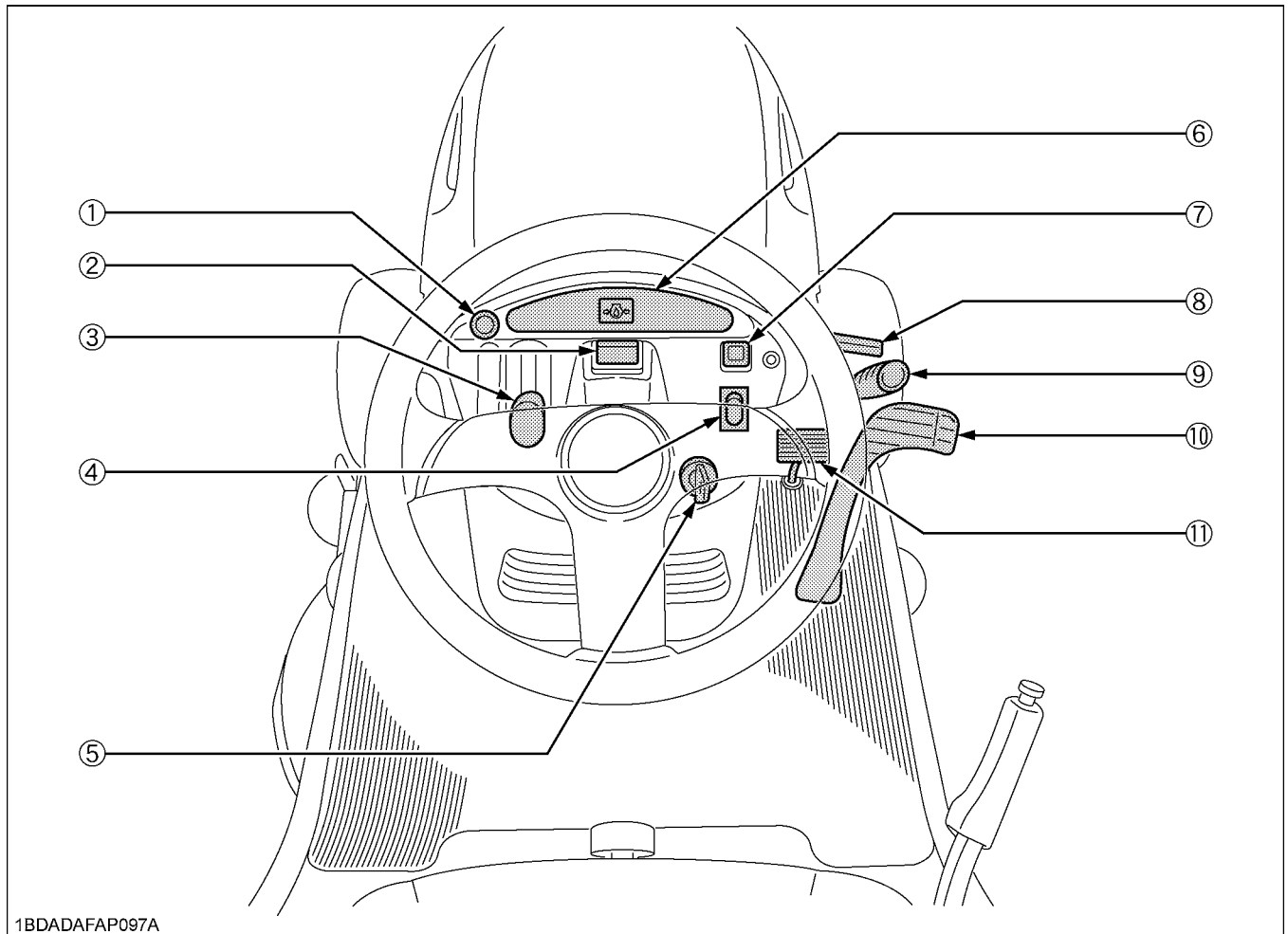
主要諸元

型式名			T1880-J
モーア	型式名		RCK42-LT20
	装着方式		平行リンク
	刈高さ調整方式		ダイヤル式
	刈幅	mm	1067
	刈高さ	mm	25 ～ 102
	質量(約)	kg	51
	刈刃枚数		2
	全長	mm	868
	全幅	mm	1358
	全高	mm	295
	刈草放出方向		右側

この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

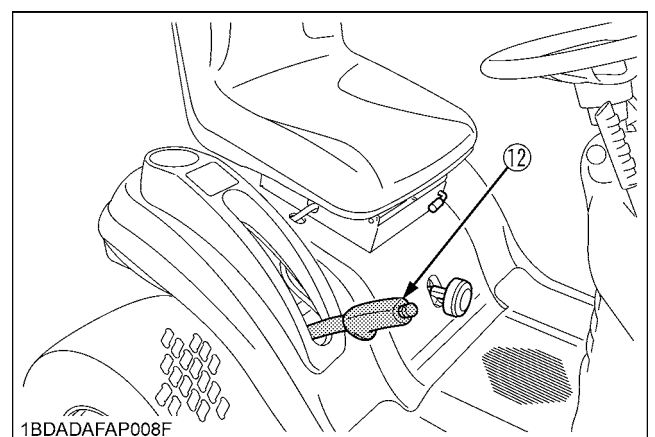
運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。ご不明な点があれば、その名称に記してある参照ページをご覧ください。



参照ページ

(1) チョークノブ.....	10
(2) アワメータ (オプション)	18
(3) スロットルレバー.....	17
(4) ライトスイッチ.....	16
(5) キースイッチ.....	10
(6) イージーチェッカ.....	18
(7) KRA システムスイッチ.....	21
(8) 駐車ブレーキロックペダル.....	9
(9) PTO レバー.....	22
(10) 速度調整ペダル.....	17
(11) ブレーキペダル.....	17
(12) 昇降レバー.....	16



モアの着脱のしかた

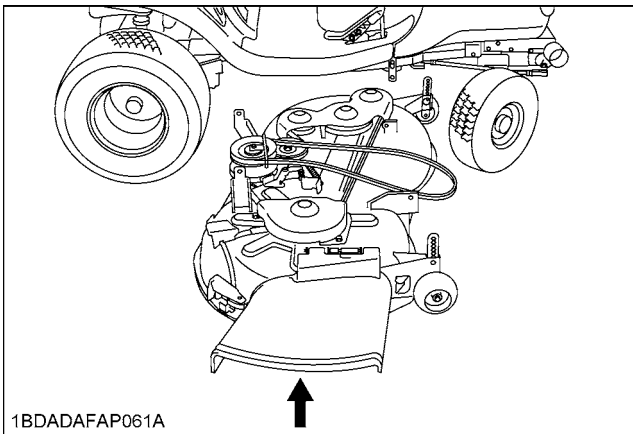
モアデッキの装着



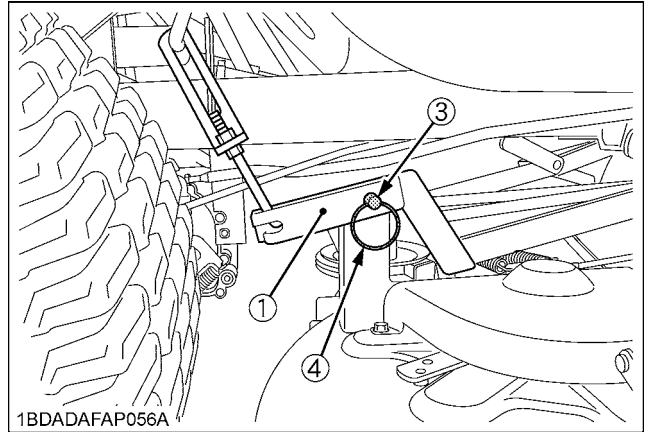
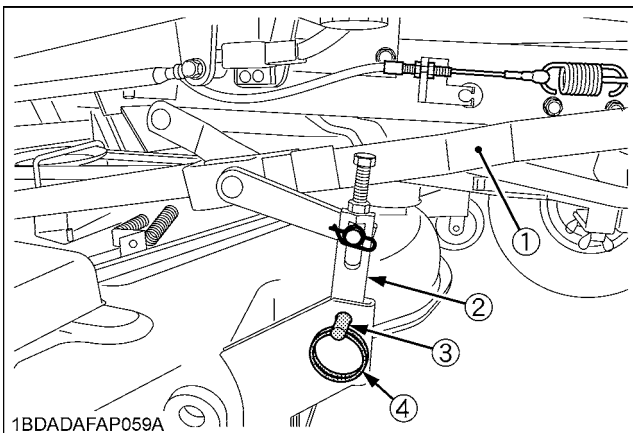
注意

*** モアを取付ける前に、エンジンを停止しキーを抜いてください。**

1. 機械を水平な場所に駐車し、機械の右側にモアデッキを置いてください。
昇降レバーを上げ、上げた位置にロックしてください。
2. 前輪を左に切ってください。モアを機械の下に滑り入れて、車輪をまっすぐの位置に戻してください。刈高さ調整ダイヤルを“1”に合わせ、昇降レバーを下げ、下げた位置にロックしてください。

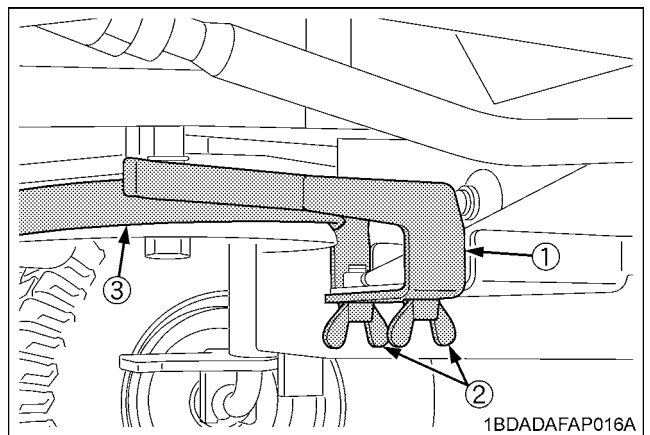


3. モアデッキをリンクに取付け、モアリンクを 4 個の頭付きピンとスナップリングで取付けてください。



- (1) モアリンク
- (2) リンク
- (3) 頭付きピン
- (4) スナップリング

4. PTO ベルトをエンジンプーリに取付けてから、ベルトサポートブラケットを取付けてください。



- (1) ベルトサポートブラケット
- (2) 蝶ボルト
- (3) PTO ベルト

モータの着脱のしかた

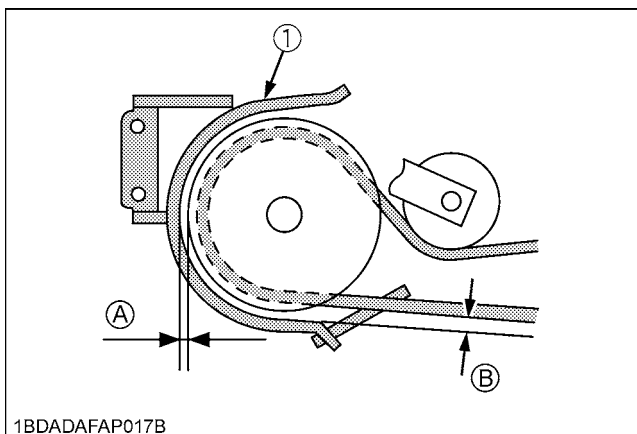
〔ベルトサポートブラケットの取付けと調整〕

PTO レバーを“入”の位置にして、ベルトサポートブラケットを次の指示された位置に調整して、ベルトサポートブラケットを締め付けます。



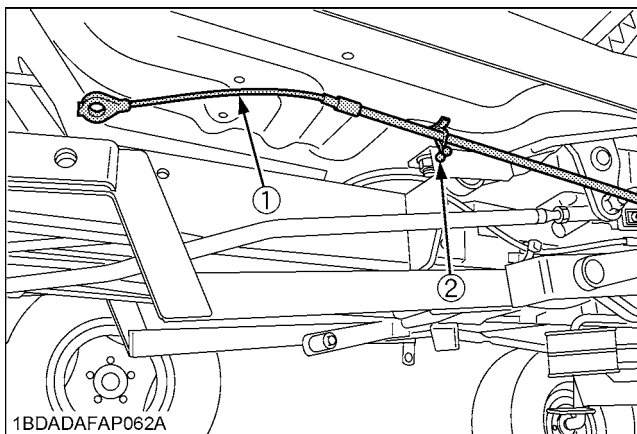
注意

* エンジンが始動していないことを確認してください。



- (1) ベルトサポート
ブラケット
- (A) ベルトサポートブラケット
とプーリの隙間 1～2 mm
(B) ベルトサポートブラケット
とベルトの隙間 6～7mm

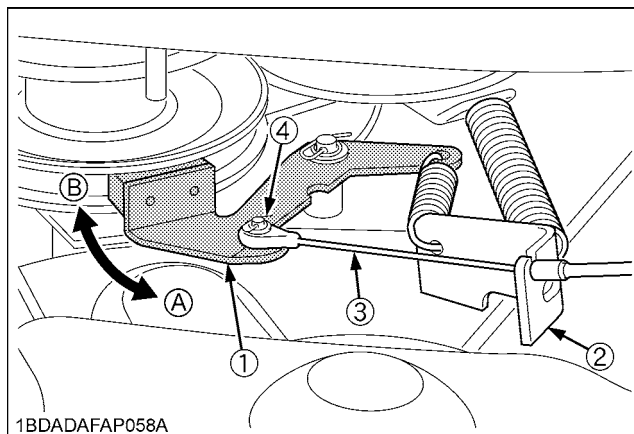
5. ステップの下に固定されたモーアブレーキワイヤを取外します。



- (1) モーアブレーキワイヤ
(2) 締め付けバンド

6. モーアブレーキワイヤをワイヤホルダに通してから、ルーリングコッタピンでモーアブレーキワイヤをモーアブレーキに取付けます。

7. モーアブレーキは、刈刃を停止する安全装置です。PTO レバーが“切”の位置のとき、プーリの溝にブレーキが当たり、5 秒以内に刈刃の回転が停止します。PTO レバーが“入”の位置のとき、プーリの溝からブレーキが離れており、プーリは回転できます。



- (1) モーアブレーキ
(2) ワイヤホルダ
(3) モーアブレーキワイヤ
(4) ルーリングコッタピン
- (A) PTO レバー “入”
(B) PTO レバー “切”



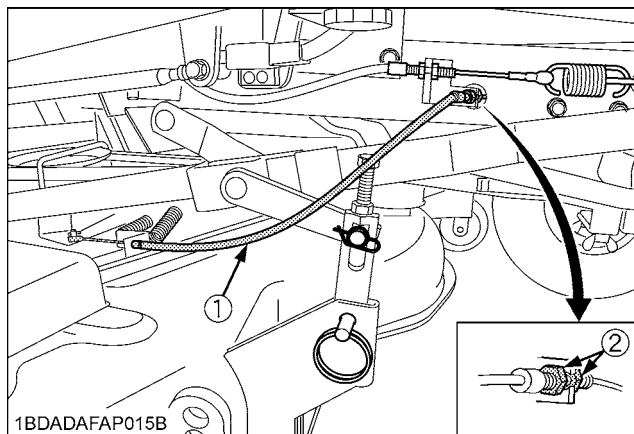
警告

* ブレーキの調整中は、エンジンが始動していないことを確認してください。

* ブレーキが適切に調整されていないときはモータを操作しないでください。

8. PTO レバーが“入”でブレーキがプーリの溝から外れ、“切”の位置ではまるようにモーアブレーキワイヤを調整ナットで調整してください。

PTO レバーを数回“入”“切”にしてモーアブレーキのきき具合を調べてください。



- (1) モーアブレーキワイヤ
(2) 調整ナット

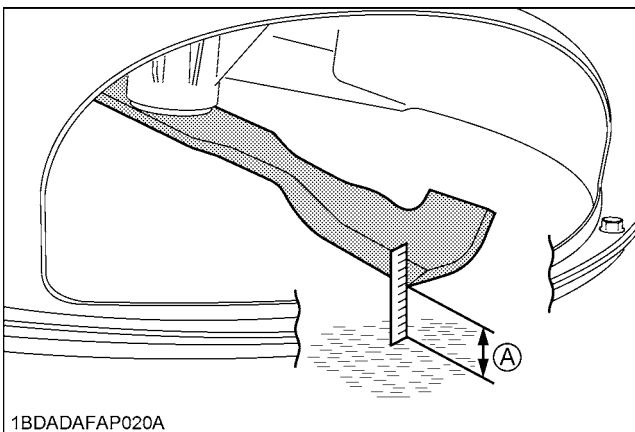
モアデッキの調節



注 意

- * エンジンを停止し、キーを抜いてください。
- * 駐車ブレーキを掛けてください。
- * 刈刃が停止してから調整してください。
- * 刈刃は鋭くなっています。刈刃に触るときには厚手の手袋をするか、刈刃の端を布で覆ってください。

1. 機械を水平に駐車してください。
2. タイヤの空気圧は規定圧力にセットしてください。
（“定期点検”の章の“50 時間ごとの点検”を参照してください。）
3. 昇降レバーを上の方位置に移動してください。刈高さ調整ダイヤルを希望の高さに調整してください。
4. 昇降レバーを下方に押して、モアデッキを下げてください。
5. 後車軸と平行になるように左の刈刃を回してください。
モア駆動ベルトを固定し、右刈刃を後車軸と平行になるように回してください。
6. 左の刈刃の外端と平らな地面までの高さを測定してください。同様に、右の刈刃の外端と平らな地面までの高さを測定してください。測定値の差は 3 mm 未満である必要があります。

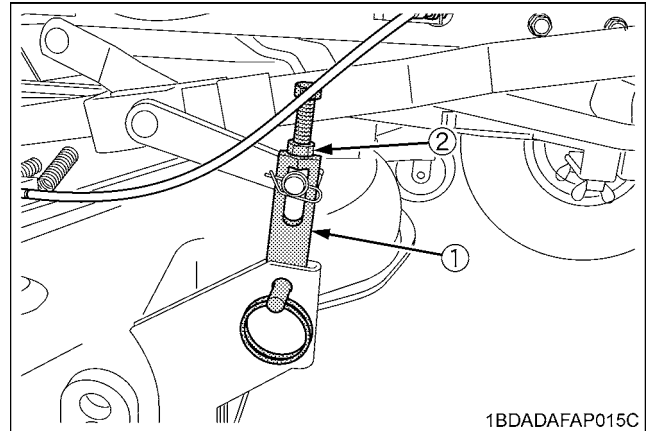


1BDADAFAP020A

(A) 刈刃の端の高さ

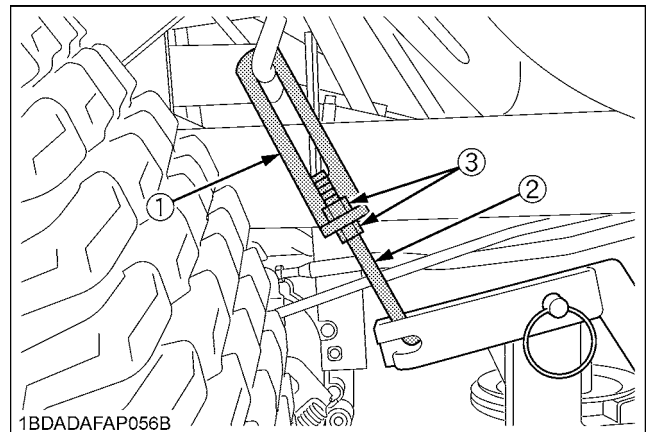
7. ナットをゆるめます。

（左）と（右）の測定値の差が 3 mm 未満になるように、リンク、昇降リンク、昇降ロッドの長さを調整してください。



1BDADAFAP015C

- (1) リンク
(2) ナット



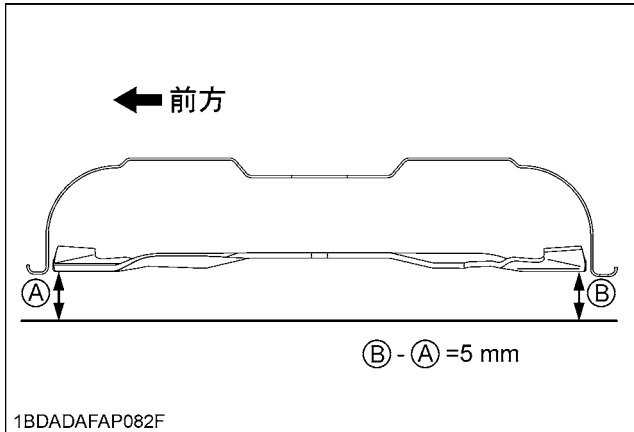
- (1) 昇降リンク
(2) 昇降ロッド
(3) ナット

8. 機械の前後方向と平行になるように刈刃を回してください。刈刃の後側が刈刃の前側より 5 mm 高くなるように刈刃高さを調整してください。

補 足

- * 美しい仕上がりのため、刈刃の後側が刈刃の前側より高いことを確認してください。

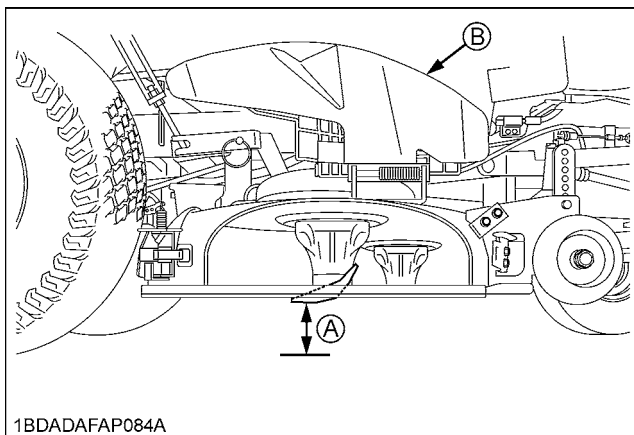
モーターの着脱のしかた



(A) 前
(B) 後

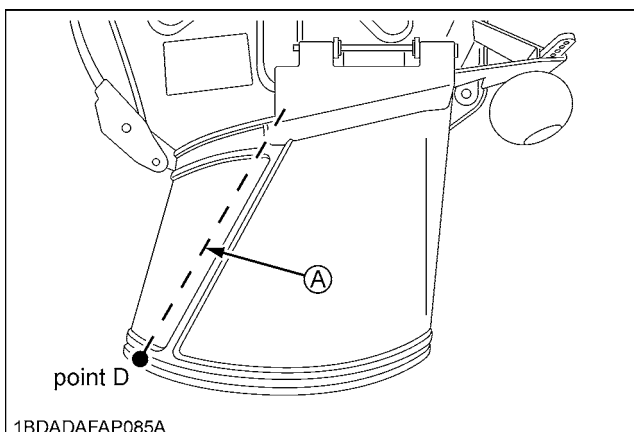
9. ナットを締めてください。

10. 右の刈刃の外端から平らな地面までの高さを測定してください（刈刃が後車軸と平行な状態で）。これが測定値 C になります。

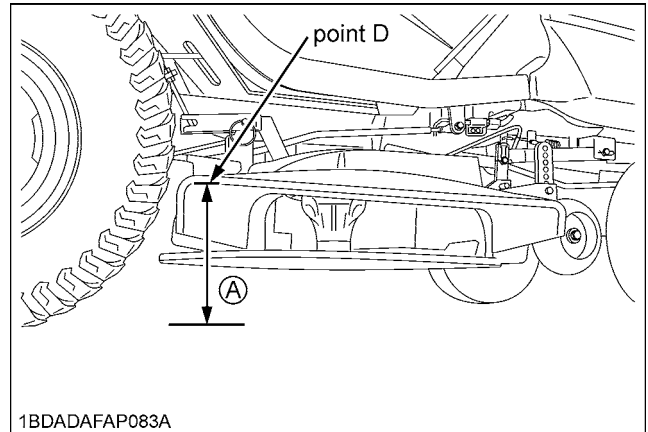


(A) 測定値 C
(B) 放出部カバー

11. 下図のように、平らな地面から放出部カバーまでの高さを測定してください。これが測定値 D になります。



(A) カバー曲げ線



(A) 測定値 D

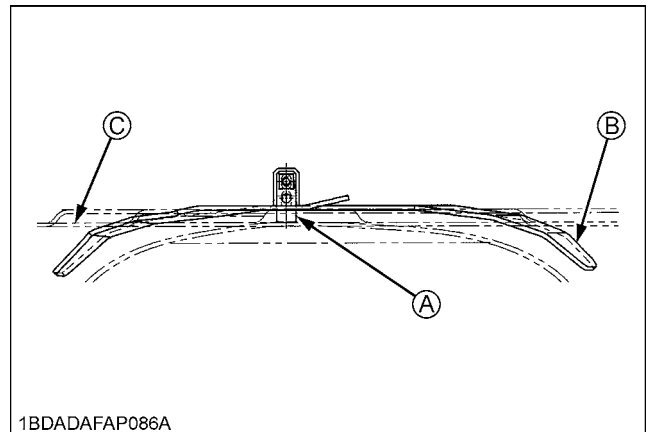
12. 測定値 D と C の差は 88mm 未満である必要があります。

それ以外の場合は、ボルトをゆるめてプレート排出ストッパを移動して調整してください。



注意

* D と C の距離が 88mm 以上ないことを確認してください。



(A) プレート排出ストッパ
(B) 放出部カバー
(C) モーターデッキ上面

エンジンの始動と停止



注意

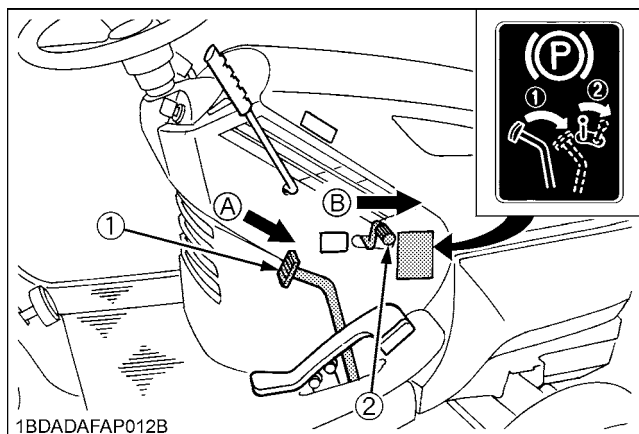
- * この取扱説明書の“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
- * 本機に貼ってある危険ラベル、警告ラベル、注意ラベルの内容を必ずお読みください。
- * 有害な排気ガス中毒の危険を避けるため、換気の不十分な屋内でエンジンをかけないでください。
- * 地上に立ってエンジンを始動しないでください。必ずシートに座ってエンジンを始動してください。

エンジンの始動

1. 駐車ブレーキを掛けてください。

■駐車ブレーキロックペダル

- 駐車ブレーキを掛けるには、右足でブレーキペダルと駐車ブレーキロックペダルを同時に踏込んでください。次に、駐車ブレーキロックペダルを踏込んだままブレーキペダルを離します。
- 駐車ブレーキを解除するには、右足でブレーキペダルを踏み込み、ゆっくり離してください。



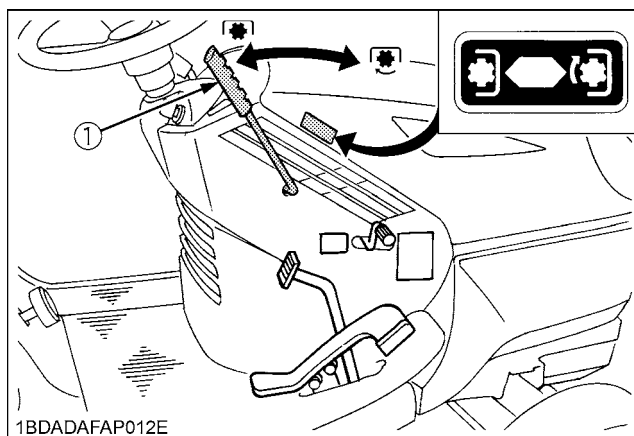
- 1BDADAFAP012B
- (1) ブレーキペダル
 - (2) 駐車ブレーキロックペダル

- (A) 踏込む
- (B) (1) を踏込んだ状態で前方に押す

補足

- * 本機は安全装置を装備しています。
シートから降りたときに駐車ブレーキがかかっていないと、エンジンが自動的に停止します。(運転者感知コントロール)

2. PTO が確実に“切”の位置になっているかを確認してください。



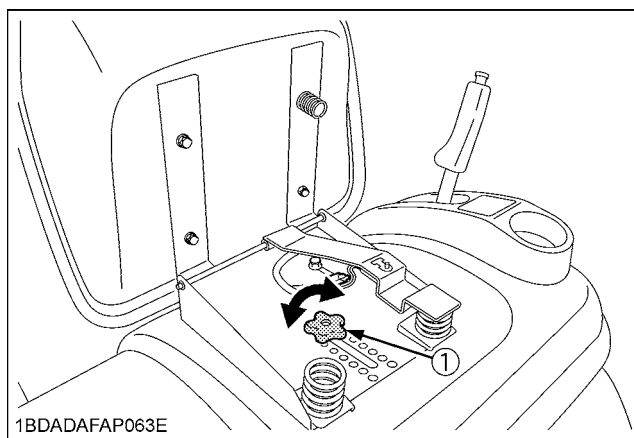
1BDADAFAP012E

(1) PTO レバー

☑ “入”
☑ “切”

3. シートの位置を調整してください。

シートの位置は前後に調節できます。シート調整ノブをゆるめてシートをスライドさせ、ノブを締め直してください。



1BDADAFAP063E

(1) シート調整ノブ

エンジンの始動と停止

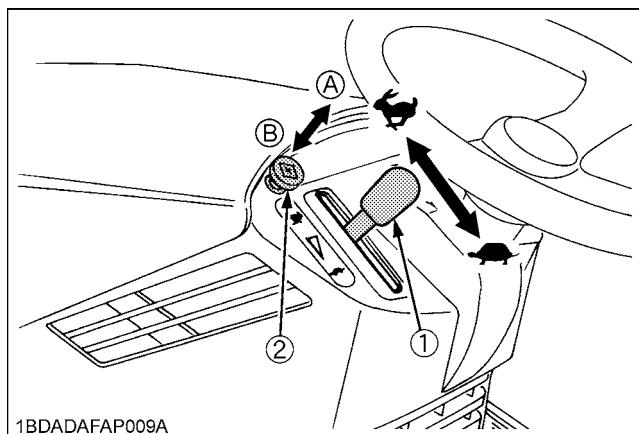
4. スロットルレバーを次のようにセットしてください。

- エンジンが冷えている場合はチョークノブを引き出します。
- エンジンが温かい場合はスロットルレバーを“中速”の位置に移動してください。

■スロットルレバーとチョークノブ

スロットルレバーを下側に引くとエンジン速度が下がり、上側に押すとエンジン速度が上がります。

低温状態でエンジンを始動するには、必ずチョークノブを“入”の位置まで引出してください。エンジン始動後は、必ずチョークノブを“切”の位置まで押込んでください。



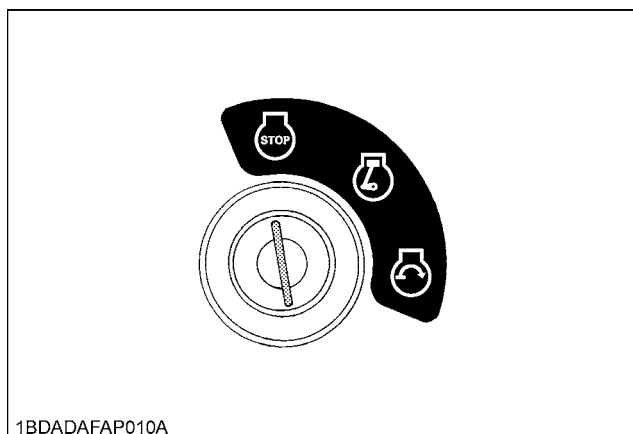
- (1) スロットルレバー
(2) チョークノブ

- 🔼 : “高速”
🔽 : “低速”
(A) 引出す: “入” 位置
(B) 押込む: “切” 位置

5. キーをキースイッチに差込んでください。キースイッチを“始動”の位置まで回し、エンジンが始動したら“入”位置で手を離してください。

■キースイッチ

- 🔑 切... キーの抜き挿しができます。(キーをこの位置までまわすとエンジンが停止します。)
- 🔑 入... エンジンが始動しています。
- 🔑 始動... ブレーキペダルをいっぱい踏込み、PTO レバーを“切”の位置に引き、キースイッチをこの位置に回してエンジンを始動します。



- 🔑 “切”
🔑 “入”
🔑 “始動”

重 要

- * スタータへの損傷を防ぐため、一度に 5 秒以上スタータを操作しないでください。エンジンが始動しない場合、10 秒待ってからもう一度試してください。
- * エンジンが作動中、キーを“始動”の位置に回さないでください。
- * 0℃以上の温度で 2～3 分十分に暖機されるまで、機械を全負荷状態で操作しないでください。

寒冷時の始動

外気温が0℃以下のとき又はエンジンが非常に冷えているときには以下のようにして始動してください。

1. チョークノブを引き出します。
2. キースイッチを“始動”の位置に回してください。
 - スタータを5秒間操作してください。
 - エンジンが始動しない場合、10秒待ってください。
 - エンジンが始動するまでこの手順を繰り返してください。
3. エンジンが始動したら“入”位置で手を離してください。
4. スロットルレバーを“中速”の位置に移動してください。

重 要

- * 温度が0℃以下の場合。エンジンを数分間中速に保ち、エンジンの潤滑油とトランスミッションを10分以上温めてください。エンジンの潤滑油とトランスミッションが十分に温まる前に機械を操作すると、機械の寿命が縮まります。
- * 十分に暖機されるまで、機械を全負荷状態で操作しないでください。

安全装置の点検

1. モーアを操作する前に以下のテストを確認してください。
すべてのテストは、運転者がシートに座って実施してください。
2. 機械が以下のテストのいずれかに合格しない場合、機械を操作しないでください。
購入先にお問い合わせください。

◆ 安全始動コントロール 1

1. ブレーキペダルを目いっぱい踏んでください。
2. PTO レバーを“入”にしてください。
3. キースイッチを“始動”の位置に回してください。
4. エンジンは始動しません。

◆ 安全始動コントロール 2

1. PTO レバーを“切”にしてください。
2. ブレーキペダルを離してください。
3. キーを“始動”の位置に回してください。
4. エンジンは始動しません。

◆ シート安全コントロール 1

1. エンジンを低速で始動してください。
2. PTO レバーを“入”にしてください。
3. 立ち上がってください。(機械から降りないでください。)
4. エンジンは止まります。

◆ シート安全コントロール 2

1. エンジンを低速で始動してください。
2. PTO レバーを“切”にしてください。
3. ブレーキペダルを離してください。
4. 立ち上がってください。(機械から降りないでください。)
5. エンジンは止まります。

◆ クボタ後進認識システム (KRA システム) 1

1. エンジンを低速で始動してください。
2. PTO レバーを“入”にしてください。
3. 速度調整ペダルの後進側をわずかに踏みませす。
4. エンジンは止まります。

◆ クボタ後進認識システム (KRA システム) 2

1. エンジンを始動し、スロットルを1/4の位置にしてください。
2. PTO レバーを“入”にしてください。
3. KRA システム無効スイッチを押してください。
4. KRA インジケータランプが点滅します。

エンジンの始動と停止

5. 速度調整ペダルの後進側をわずかに踏みます。
6. エンジン は 止 ま り ま せ ん 。

テスト 3 の 前 に シー ト の 下 か ら ヒューズ を 取 外 し て く だ さ い 。

◆ クボタ後進認識システム (KRA システム) 3

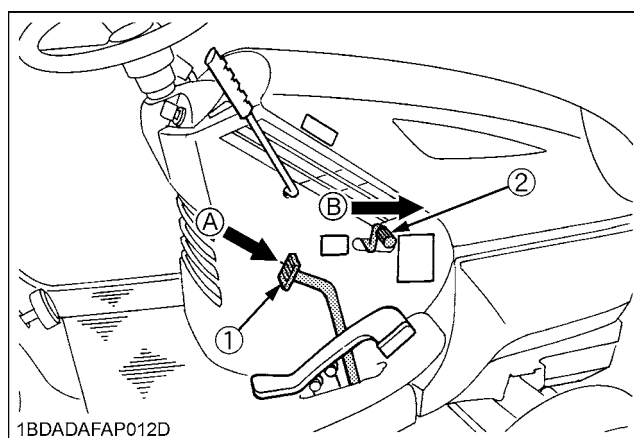
1. エンジン を 始 動 し、スロットル を 1/4 の 位 置 に し て く だ さ い 。
2. PTO レバー を “入” に し て く だ さ い 。
3. KRA システム 無効 スイッチ を 押 し て く だ さ い 。
4. KRA インジケータ ランプ が 点 滅 し ま せ ん 。
5. 速度調整ペダルの後進側をわずかに踏みます。
6. エンジン は 止 ま り ま す 。

エンジン運転中の点検

- 排気ガスの色を点検してください。
- ヘッドライトを点検してください。
- PTO クラッチの作動を点検してください。
- 安全装置を点検してください。
これらのいずれかが適切に作動しない場合、
直ちに購入先にお問い合わせください。
- 異常音および振動を点検してください。
- イージーチェッカを点検してください。

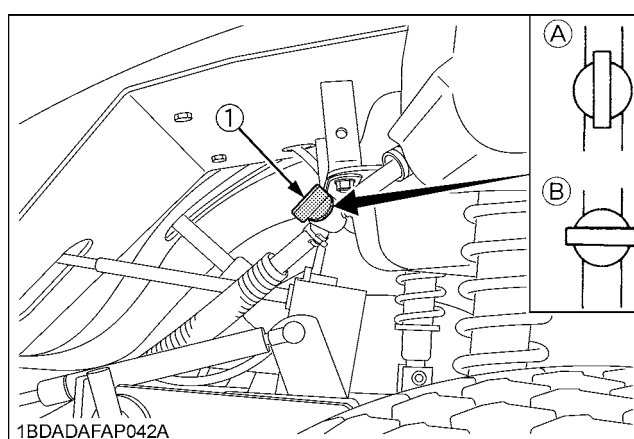
エンジンの停止

1. エンジン を スロットルの 1/2 ～ 3/4 の 位 置 に し て、キースイッチ を “切” の 位 置 に 回 し て く だ さ い 。
2. キー を 抜 き ま す 。
3. エンジン が 運 転 し て い な い と き は バッテリ が 放 電 す る た め、キースイッチ を “入” (キー が “入” の 位 置) の ま ま に し な い で く だ さ い 。
4. 駐車ブレーキを掛けてください。



- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| (1) ブレーキペダル | (A) 踏込む |
| (2) 駐車ブレーキロック
ペダル | (B) (1) を 踏 込 ん だ 状 態 で
前 方 に 押 す |

5. 燃料バルブを閉じてください。



- | | |
|-----------|---------|
| (1) 燃料バルブ | (A) 開く |
| | (B) 閉じる |

暖機運転



注 意

*** 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

始動後、約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。これにより、エンジンの各部にオイルが十分行き渡ります。始動してからすぐ負荷をかけると、焼付き、破損、早期摩耗など故障の原因になりますのでご注意ください。

■低温度領域での暖機運転とトランスミッションオイル

油圧オイルは、トランスミッションオイルとしても使われます。寒冷地では、オイルの温度が下がり、粘度が大きくなります。

そのためエンジン始動後、しばらくの間オイルの循環速度が遅くなり、油圧が異常に低くなる可能性があります。これにより油圧システムのトラブルにつながる可能性があります。

上記のことを避けるために以下の指示に従ってください。

下の表により、スロットルレバーを中速の位置にしてエンジンを温めてください。

周囲温度	必要な暖機運転時間
0℃以上	約5分
-10～0℃	5～10分
-20～-10℃	10～15分
-20℃以下	15分以上

重 要

*** 十分に暖機されるまで、機械を全負荷状態で操作しないでください。**

エンジンの始動と停止

バッテリーあがりの処置

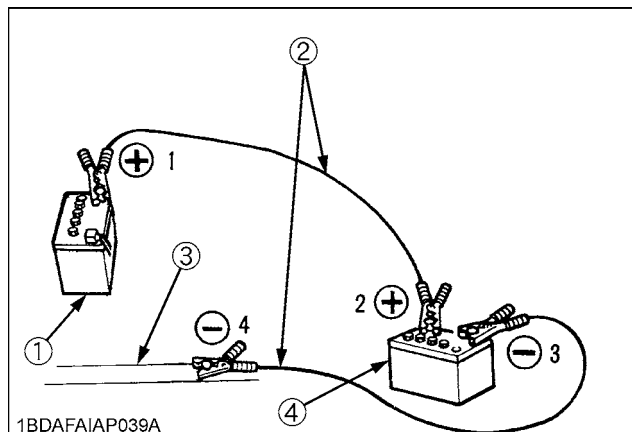


注 意

- * バッテリーのガスは爆発することがあります。バッテリーからたばこ、火花、その他の火気を遠ざけておいてください。
- * バッテリーが凍っている場合にはこの処置はしないでください。
- * ブースタケーブルのマイナス⊖端子を機械のバッテリーのマイナス⊖端子に接続しないでください。

エンジンをブースタケーブルを使って始動するときは、以下の指示に従い、安全にエンジンを始動してください。

1. トラブル車とバッテリーの電圧が同じ救援車をケーブルが余裕を持って届く場所に移動します。(車両同士が触れないようにしてください。)
2. 両方の車両の駐車ブレーキを掛け、シフトレバーを中立に入れます。エンジンを停止させてください。
3. 保護めがねおよびゴム手袋を着用します。
4. ベントキャップが所定の位置に固定されていることを確認してください。(装備されている場合)
5. 赤いクランプを放電したバッテリーのプラス(赤, ⊕または正)端子に、同じケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーのプラス(赤, ⊕または正)端子にクランプで接続します。
6. もう1本のケーブルを救援車のバッテリーのマイナス(黒, ⊖または負)端子にクランプで接続します。
7. もう一方の端をトラブル車のエンジンブロック、または放電したバッテリーからできるだけ離れた場所のフレームにクランプで接続します。
8. 正常車を始動させ、数分エンジンを作動させてください。バッテリーあがりの車を始動させてください。
9. 接続した手順と逆の順序でブースタケーブルを外します。(手順8, 7, 6)。



- (1) 放電したバッテリー
- (2) ブースタケーブル
- (3) エンジンブロックまたはフレーム
- (4) 救援車のバッテリー

ケーブルを数字順に接続します。
使用後は逆の順序で取外します。

重 要

- * 本機は、12V マイナス⊖アース始動システムを備えています。
- * 高い電圧のバッテリーを使用すると、機械の電気システムに重大な損傷を招くおそれがあります。残量が少ないまたは放電したバッテリーでブースタケーブルを使って始動する時は、電圧が同じバッテリー以外は使用しないでください。

運転のしかた

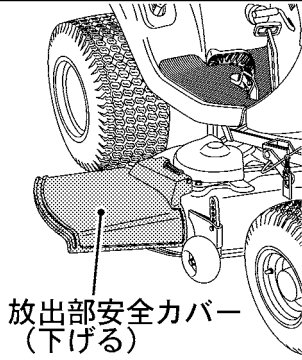
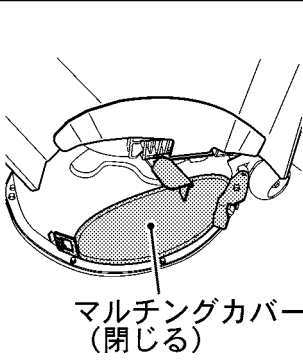
ならし運転（最初の約 50 時間）

本機はこの期間中の扱い方でその後の寿命が決まります。工場から出荷された直後の本機はテストされていますが各部品が充分になじんでいませんので約 50 時間のならし運転が必要です。

本機の性能を充分に発揮し、お客様に長く使っていただけるよう、ならし運転の期間中は特に次のことを厳守してください。

■新しい機械の潤滑油の交換

潤滑油は、新しい機械の場合特に重要です。さまざまな部品が充分になじんでいないため、機械の操作中に小さな金属粒が発生し、これにより部品が摩耗したり損傷したりすることがあります。そのため、通常の交換間隔よりやや早めに潤滑油を交換してください。交換間隔の時間に関する詳細については、“メンテナンス”の章の“定期点検箇所一覧表”を参照してください。

 危険	
* 放出部安全カバーを下げていない状態やマルチングカバーを閉じてない状態でモータを操作しないでください。	
右側放出時	マルチング機能使用時
 放出部安全カバー (下げる)	 マルチングカバー (閉じる)
1BDADAFAP114B	1BDADAFAP038C



警告

- * 機械に運転者以外の人を乗せないでください。
- * 溝や土手の近くなど機械の重みでくずれやすい所、特にぬかるんだ場所や湿った場所では、機械を運転しないでください。
- * 旋回する前には減速してください。
- * 転倒を避けるため、斜面では上下方向に作業し、等高線方向には作業しないでください。坂道での急発進や急停止は避けてください。坂道で方向を変えるときは減速し、特に注意してください。急な坂道で機械を使用しないでください。
機械は固い平たんな場所に駐車してください。
- * 運転中はたえず周囲に注意し、障害物を避けてください。縁石、木やその他の障害物および隠れた危険箇所の近くでは特に注意が必要です。
- * 街路や幹線道路で機械を運転しないでください。道路の横断や道路付近で作業するときには交通に注意してください。
- * 後進するときは、後ろに注意してください。すぐ後ろに障害物や穴および小さな子供がいないことを確認してください。機械が集草機を装備しているときは、特に注意してください。



注意

- * 作業区域から、刈刃が拾い上げて飛ばす可能性がある物を除去してください。
- * 放出部安全カバーの開口部を周囲の人や動物に向けしないでください。放出された物がケガの原因になるおそれがあります。作業を開始する前に、草刈りを注意深く計画してください。
- * 作業区域に周囲の人、特に子供や動物を近付けないでください。
- * エンジンを始動する前に、必ず PTO レバーを“切”の位置にセットし、シートに座ってください。

運転のしかた

始動

本機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

1. シートの位置を調整してください。

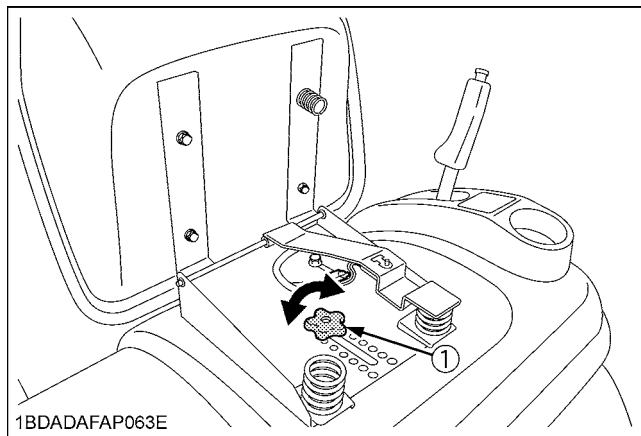
■シート



注 意

- * 毎回の調整後、シートが完全に固定されていることを確認してください。
- * 機械に運転者以外の人を乗せないでください。

シートの位置は前後に調節できます。シート調整ノブをゆるめてシートをスライドさせ、ノブを締め直してください。

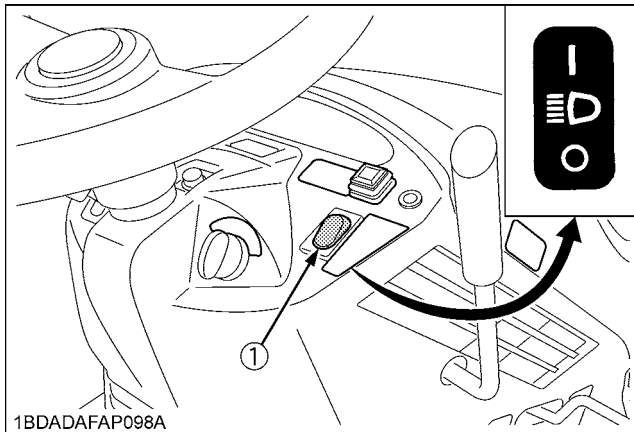


(1) シート調整ノブ

2. ライトスイッチの位置を選択してください。

■ライトスイッチ

ライトスイッチを押上げるとヘッドライトが点灯し、押下げると消灯します。



(1) ライトスイッチ

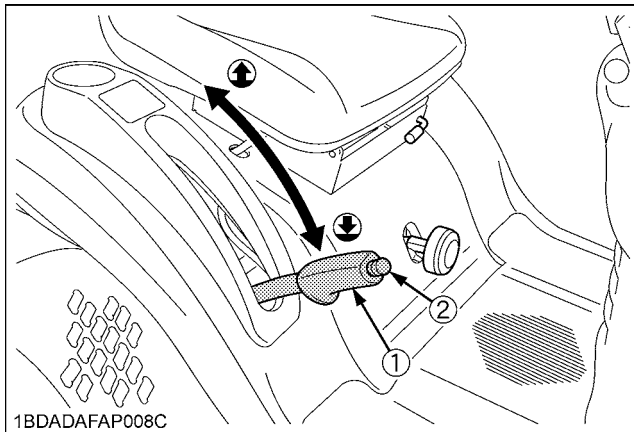
⬆ : “入”
○ : “切”

3. モーアを上げてください。

■昇降レバー

昇降レバーはモーアデッキを上げ下げするときに使用します。モーアデッキを上げるには、レバーをわずかに持ち上げ、昇降レバーの上部にあるボタンを押して、レバーを上へ引上げてください。

モーアデッキを下げるには、レバーをわずかに持ち上げ、昇降レバーの上部にあるボタンを押して、ボタンを押し続けたままレバーを下げてください。



(1) 昇降レバー
(2) ボタン

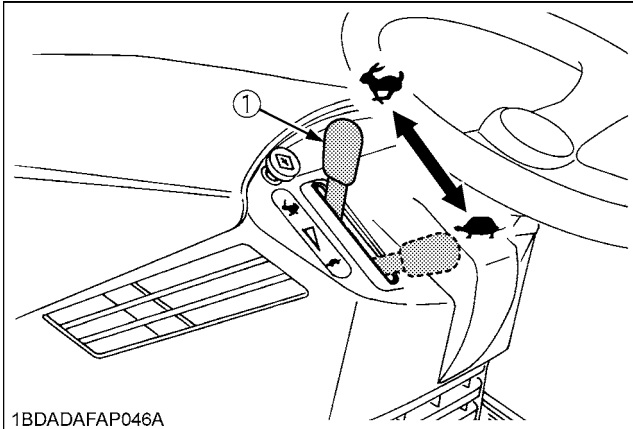
⬆ : 上げる
⬇ : 下げる

4. エンジンを始動します。

5. エンジンを加速します。

■スロットルレバー

スロットルレバーを後側に引くとエンジンの回転数が下がり, 前側に倒すとエンジンの回転数が上がります。

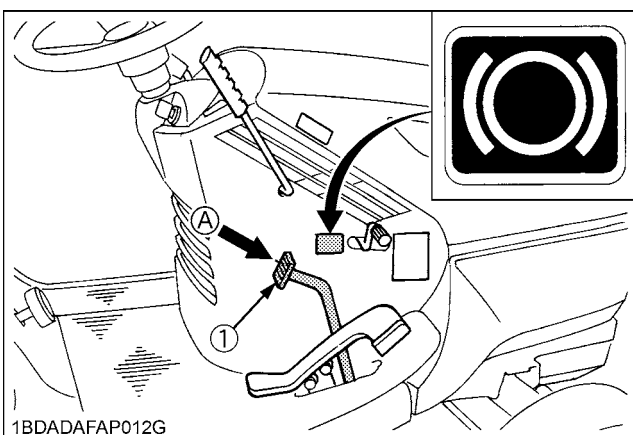


(1) スロットルレバー ← : “高速”
→ : “低速”

6. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを踏込むと駐車ブレーキが解除されます。



(1) ブレーキペダル (A) 踏込む

7. 速度調整ペダルを踏込みます。

■速度調整ペダル

“前進” ①

右足のつま先で速度調整ペダルを踏むと前進します。

“後進” ②

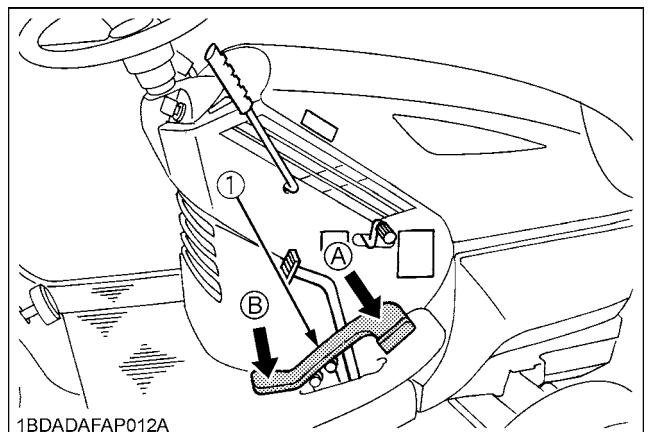
右足のかかとで速度調整ペダルを踏むと後進します。

速度調整ペダルを少し踏込むと, ゆっくり運転できます。

走行速度を上げるには, 希望の速度に達するまで速度調整ペダルを踏込みます。

補 足

* 駐車ブレーキがかかっているときは速度調整ペダルは中立位置にロックされています。



(1) 速度調整ペダル (A) “前進”
(B) “後進”

運転のしかた

停止

1. 速度調整ペダルを離し、ブレーキペダルを踏込むと機械は停止します。
2. PTO レバーを“切”の位置まで引いてください。
3. エンジンを減速してください。

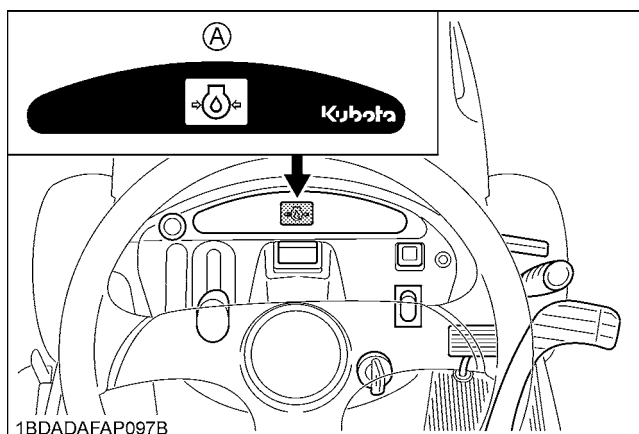
運転中の確認事項

■以下の場合、直ちにエンジンを停止してください

- エンジンが急に減速または加速する。
- 急に異常音が聞こえる。
- 排気ガスが急に変色する。

運転中、すべての部品が正常に機能していることを確認するために以下を確認してください。

■イージーチェッカ



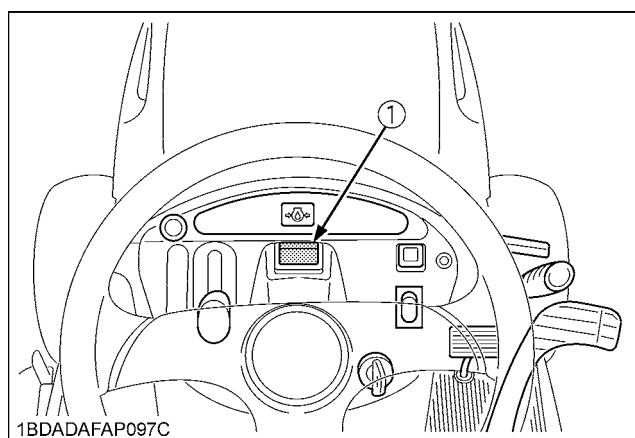
- (A) 作業中に警告ランプが点灯した場合、直ちにエンジンを停止し、エンジンオイルの量を確認してください。
（“定期点検”の章の“日常点検”の項の“エンジンオイルの量の点検”を参照してください。）

■アワメータ（オプション）

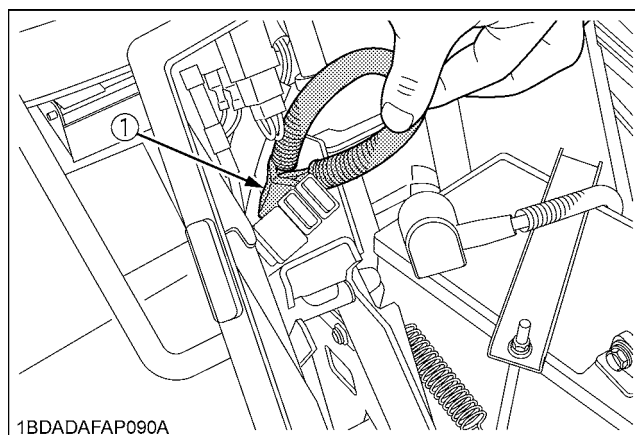
アワメータは、機械の使用時間を5桁で表示します。最後の桁は1/10 時間（6倍すると“分”単位）を示します。

補 足

- * アワメータは電氣的に作動するため、エンジンが始動しているかどうかに関わらず、キースイッチを“入”に回すと作動を開始します。
- * 表示される使用時間が不正確に加算されないようにするには、エンジンが始動していないときは、キースイッチを“切”の位置に回してください。



(1) アワメータ



(1) アワメータのコネクタ

駐車

■ 駐車



注 意

シートから離れる前に：

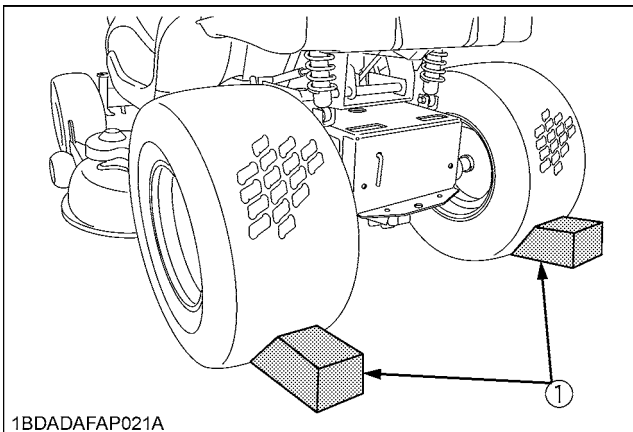
- * 駐車ブレーキを掛けてください。
- * すべての作業機を地面に降ろします。
- * エンジンを停止させてください。
- * キーを抜きます。

1. 駐車時には、必ず駐車ブレーキを掛けてください。

駐車ブレーキを掛けるには；

右足でブレーキペダルと駐車ブレーキロックペダルを同時に踏込んでください。次に、駐車ブレーキロックペダルを踏込んだままブレーキペダルを離します。

2. 機械から降りる前に、PTO を止め、すべての作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを止め、キーを抜いてください。
3. やむをえず坂道で駐車する場合は、誤って機械が動かないようにタイヤに車止めをしてください。



1BDADAFAP021A

(1) 車止め

搬送

重 要

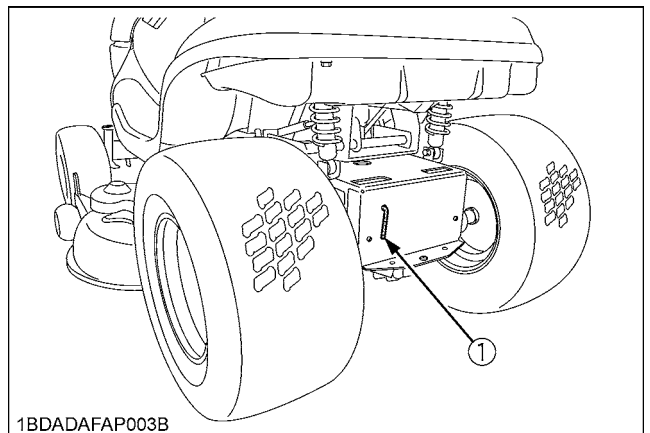
1. 機械をトラックに乗せて搬送してください。
 - * 機械をトラックに固定してください。
 - * 搬送中に風でボンネットが開かないように、機械を前向きに乗せるかボンネットを適宜縛り付ける必要があります。
2. 本機はけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

■ HST バイパスロッド

重 要

- * バイパスロッドを引かずに機械を押さないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- * 決してエンジンが運転している状態でロッドを引かないでください。

1. 機械を押すには、HST バイパスロッドを引いて保持してください。
2. 機械を移動した後、ロッドを離すと自動的に通常の位置に戻ります。



1BDADAFAP003B

(1) HST バイパスロッド

モアの使い方

モアの手順な使い方

1. 初めてモアを使用するときは、平坦地を選びゆっくりと少し重複するようにまっすぐに刈ってください。
2. 適切な草刈方法は、作業区域の大きさや形で決まります。木やフェンス、建物のような障害物を考慮してください。
3. 障害物の周囲を最初に刈るときは、必ずモアの左側が木、ポスト、またはその他の障害物側になるようにしてください。
4. 刈取は草が 50 ～ 80 mm の高さを保つようにおこなってください。あまり短く刈らずに、たびたび刈る方が良い仕上がりになります。緑の芝を保つために草丈の 1/3 以上もしくは一回で 25 mm 以上の草刈はしないでください。極度に草丈の高い場合、最大刈高で作業し、次に希望の刈高さにセットし、刈ってください。
5. 刈り跡が美しく見えるようにするには、湿気の少ない午後又は夕方に作業するのがよいでしょう。



注 意

- * 刈刃が拾い上げて飛ばす可能性がある物は作業区域から除去してください。
- * 作業区域に周囲の人や動物を近付けないでください。
- * エンジンを始動する前に必ず PTO レバーを“切”の位置にセットし、シートに座ってください。

刈高さ調整方法

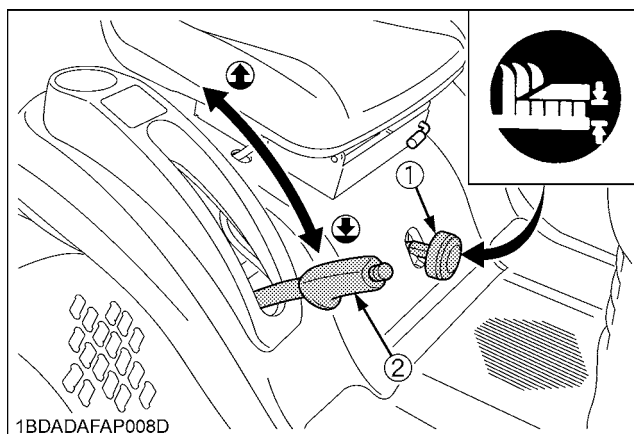


危 険

*** 一番上まで上げた位置でモアを操作しないでください。**

■刈高さ調整ダイヤル

昇降レバーを上げてください。希望の刈高さに刈高さ調整ダイヤルを回してください。昇降レバーを下げると、モアデッキが希望の刈高さにセットされます。



(1) 刈高さ調整ダイヤル

(2) 昇降レバー

↑ : 上げる
↓ : 下げる

1. 刈高さを調整する前に、すべてのタイヤの空気圧が正しいことを点検してください。必要に応じて、正しいタイヤの空気圧に調整してください。
2. 刈高さをセットするには、昇降レバーを引き上げてモアデッキを一番上まで上げた位置まで持上げてください。
3. 刈高さ調整ダイヤルを回して刈高さをセットしてください。
4. 補助輪と地面の間の隙間が 6 mm 以上を維持するように、次の図のように補助輪の高さをセットします。

モアの操作方法

補 足

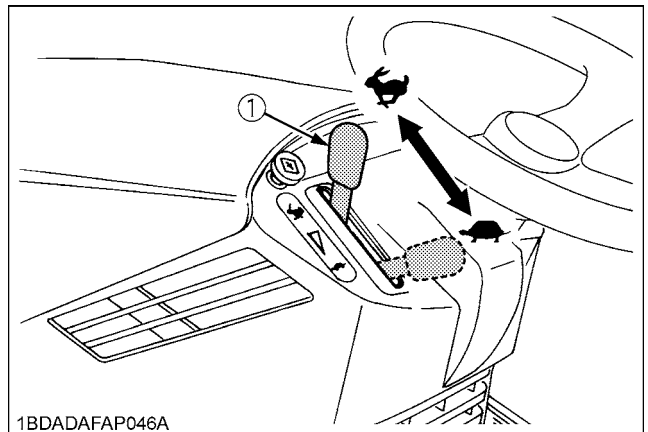
* 本機は KRA（クボタ後進認識）システムを装備しています。

これは、PT0 駆動の作業機が作動している間に運転者が後進走行しようとするとうとエンジンが停止する機能です。KRA システムの目的は、運転者に後進時の危険性を深く認識してもらうことです。

KRA システムには、運転者がシステムを無効にして、後進走行中に PT0 の作動を維持できる無効スイッチが組み込まれています。クボタは KRA システムを無効にすることを推奨しません。運転者が絶対に必要かつ安全とみなした場合のみ無効スイッチを作動させてください。無効スイッチランプは、後進走行中に PT0（モア、集草機など）が作動したままであることを運転者に知らせるために、作動中点滅します。運転者は、できる限り早く PT0 を一時的に停止して、KRA システムを通常の操作モードに戻す必要があります。

■ KRA システム通常操作モード

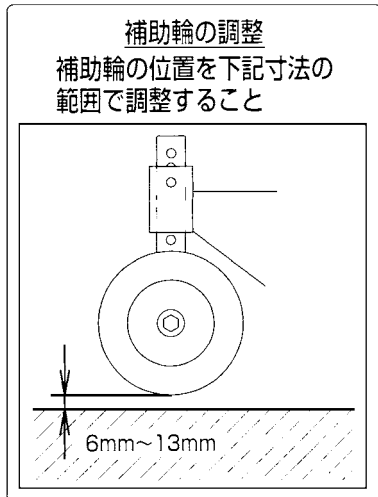
1. エンジンを始動します。
2. スロットルレバーを“**高速**”の位置にセットしてください。



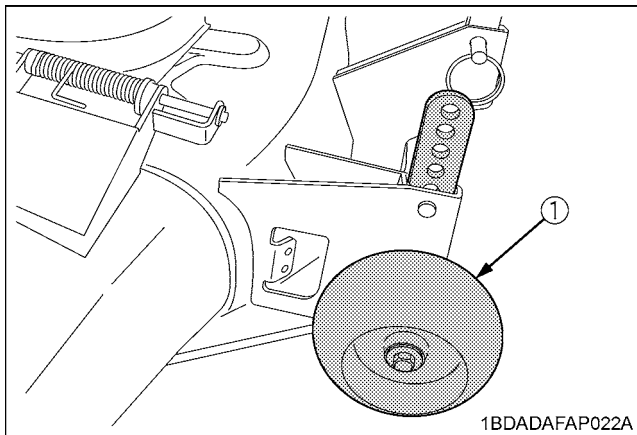
(1) スロットルレバー

⬆️ : “高速”
⬆️ : “低速”

3. PT0 レバーを“**入**”の位置まで押し下げてください。



5. 昇降レバーを下げて、モアデッキを下げてください。これによりモアデッキが“**一番上まで上げた位置**”から“**セットした刈高さ位置**”に下がります。
6. 起伏のある区域で草刈り作業を行なう場合、または高い草を刈る場合は、高目の刈高さを使用します。低い刈高さは、短い草が望ましい平たんな芝生でのみ使用します。

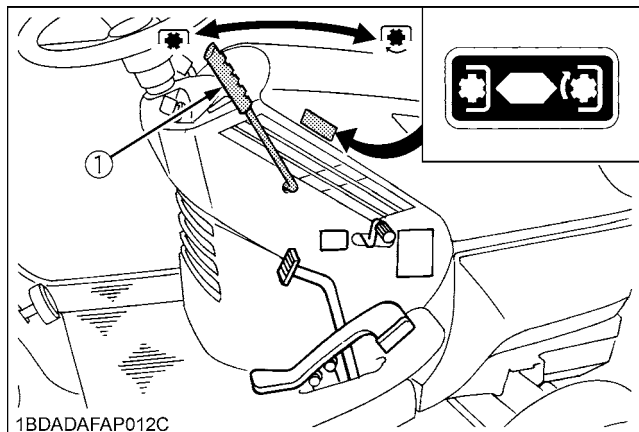


(1) 補助輪

モアの使い方

■ PTO レバー

刈刃を回転させるには、PTO レバーを“入”の位置まで動かしてください。刈刃を止めるには、PTO レバーを“切”の位置まで引いてください。



(1) PTO レバー

☑ : “入”
☐ : “切”

補 足

- * PTO が作動している状態かつ KRA システムが有効な時に、機械を後進に操作しようとすると、エンジンが停止します。
- * PTO が作動中にシートから降りると、エンジンが自動的に停止します。(運転者感知コントロール)
- * エンジンを始動する前に、PTO レバーを“切”の位置に引き、ブレーキペダルを踏込んでください。この操作を行わなければ、スタータは作動しません。
- * 最も良い刈り性能を発揮するためには常にスロットルレバーを“高速”の位置で刈ってください。

速度調整ペダルを使用して、希望の草刈り速度にしてください。

- (1) 負荷が大きい場合、機械を低速で運転するか、その場所を2度刈りしてください。最初は最も高い刈高さに、その後、目的の刈高さに刈ってください。
- (2) 車速が速すぎたり、過負荷により刈刃の速度が落ちた場合にはきれいに刈れません。

補 足

- * モアが回転していないときは、モアデッキを一番上に持上げてください。

■ KRA システム無効モード

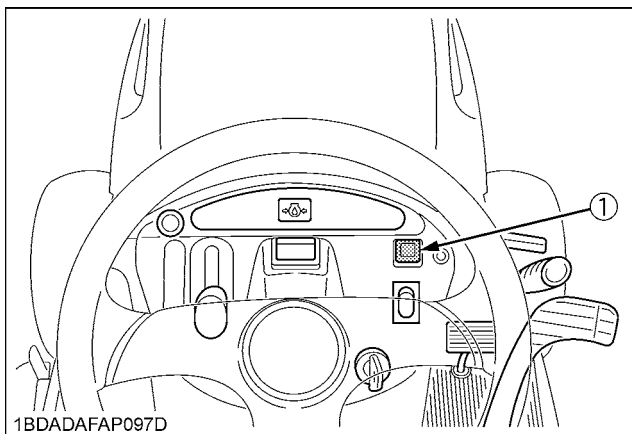


- * 後進する前および後進時は、機械の下と後方を見て、周囲の人、特に子供が作業区域に入っていないことを確認してください。

補 足

- * 運転者が絶対に必要かつ安全とみなした場合、KRA システム無効スイッチを使用して、後進しながら草を刈ったりアタッチメントを操作したりすることができます。(周囲の人、特に子供が作業区域に入っていないことをよく確認してください。)
無効スイッチを使用できないようにシステムからヒューズを取外すこともできます。(以下の補足 (4) を参照)

1. エンジンを始動します。
2. スロットルを“高速”の位置にセットしてください。
3. PTO レバーを“入”の位置まで押してください。
4. 機械を停止(速度調整ペダルを“中立”にセット)するか、または速度調整ペダルを踏んで前進してください。
5. KRA システム無効スイッチを押してください。

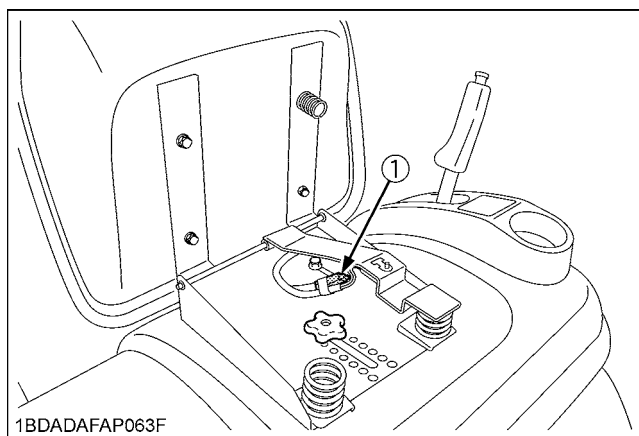


(1) KRA システムスイッチ (無効モードの時、ランプ点滅)

6. 機械の下と後方を見て、周囲の人、特に子供が作業区域に入っていないことを確認してください。
7. 右足のかかとで速度調整ペダルを踏むと後進します。

補 足

- (1) 後方への動きを開始するために速度調整ペダルを踏んでいる間、スイッチを押しても KRA システム無効モードを作動させることはできません。
- (2) KRA システムスイッチのランプは、後進走行中に PTO（モータ、集草機など）が作動したままであることを運転者に知らせるために作動中点滅します。
- (3) PTO レバーを “切” 位置に戻すまで、KRA システム無効モードは作動したままです。
- (4) KRA システム無効モードを使用できないようにするには、シートの下にあるヒューズを外してください。
 - エンジンを始動できます。
 - 速度調整ペダルが “中立” または “前進” 位置にある場合、機械の PTO を作動させられます。
 - 後進走行中に PTO 操作（モータ、集草機、除雪機など）を選択することはできません。



(1) ヒューズ

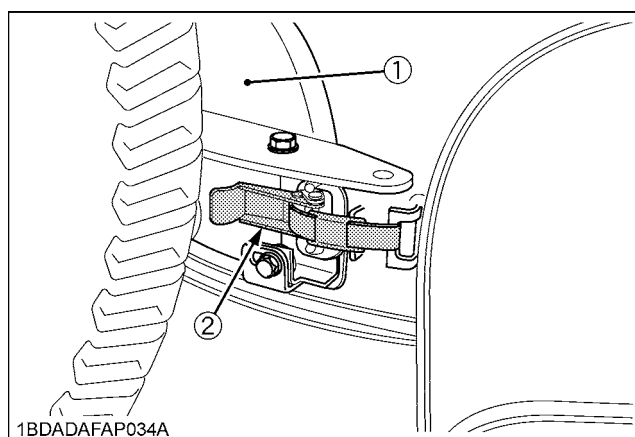
マルチング機能の使い方



注 意

*** エンジンを停止しキーを抜いてください。**

1. 機械は固い平坦な場所に駐車してください。
2. マルチングカバーを押さえている締付けバンドを外してください。



(1) マルチングカバー
(2) 締付けバンド



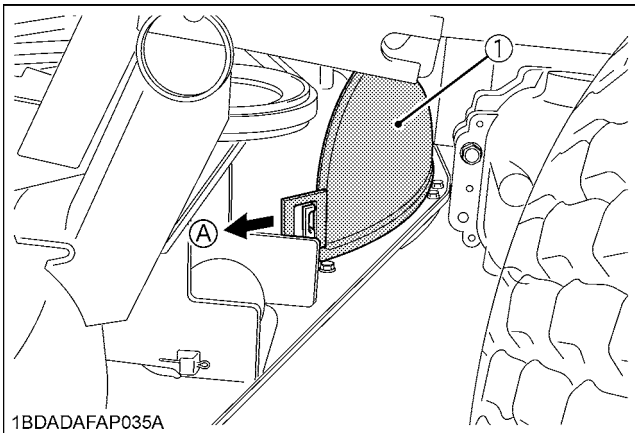
警 告

*** エンジンの部品は運転により非常に高温になっている場合があります。重度のヤケドを防止するため、エンジン作動中や停止直後は、これらの部分に触れないでください。遮熱材や保護装置を取外した状態でエンジンを操作しないでください。**

モーターの使い方

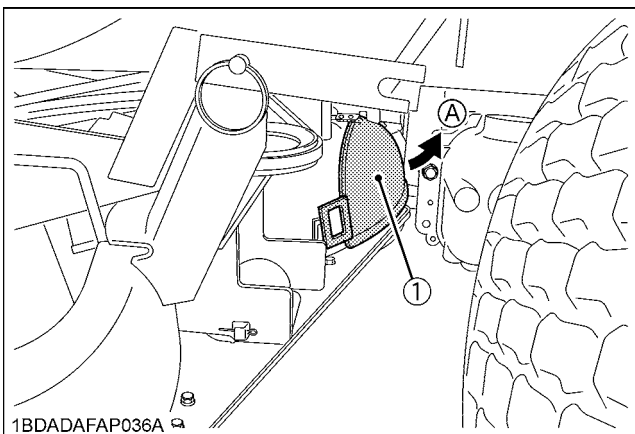
3. マルチングカバーの後ろにあるフックを外してください。

(1) マルチングカバーを少し後ろにスライドしてください。



(1) マルチングカバー (A) スライド

(2) マルチングカバーを少し持ち上げてフックを外してください。

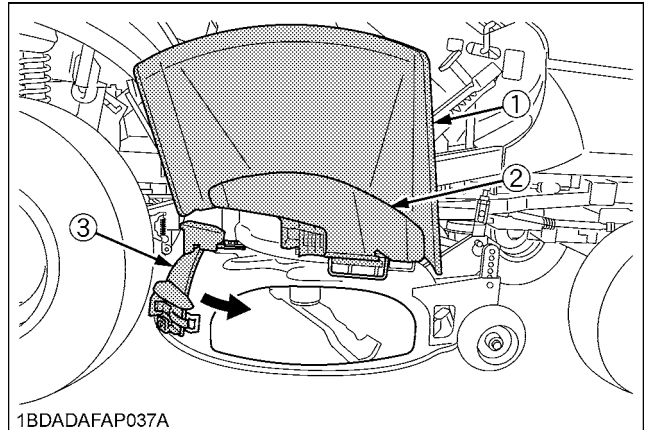


(1) マルチングカバー (A) 上げる

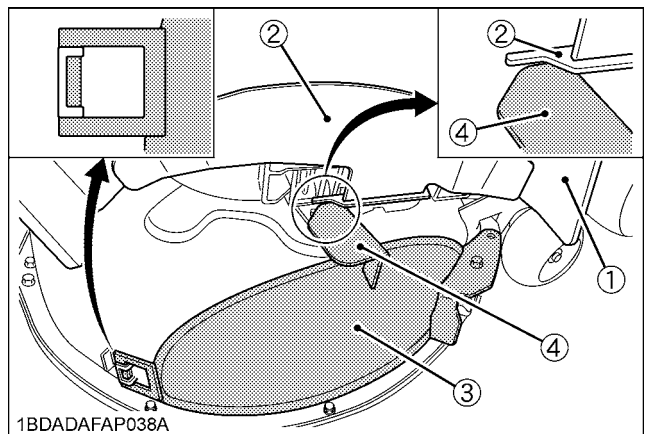
4. 放出部安全カバーと放出部カバーを持ち上げてください。

5. マルチングカバーを少し持ち上げながら、マルチングカバーを前に動かしてカバーの後ろをデッキに掛けてください。

放出部カバーと放出部安全カバーを取外し、マルチングカバーステーの上に置いてください。

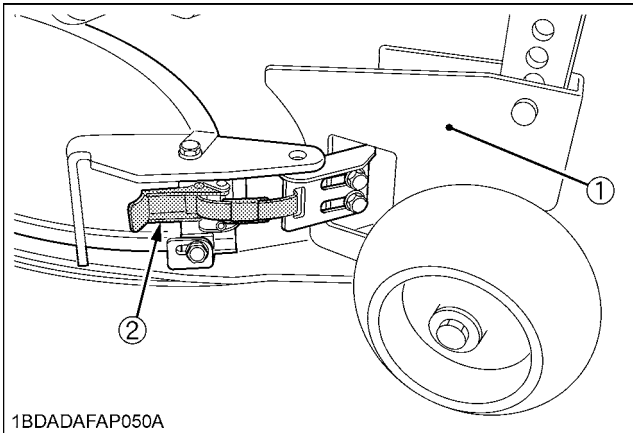


(1) 放出部安全カバー
(2) 放出部カバー
(3) マルチングカバー



(1) 放出部安全カバー
(2) 放出部カバー
(3) マルチングカバー
(4) マルチングカバーステー

6. マルチングカバーの締付けバンドを締め、隙間がないようにカバーをモータデッキにしっかり固定して閉じてください。



- (1) モータデッキ
(2) 締付けバンド



危険

*** マルチングカバーを閉じてない状態でモータを操作しないでください。**

マルチングから右側放出に変更する方法



注意

*** エンジンを停止しキーを抜いてください。**

右側放出に変更するには、“**マルチング機能の使い方**”の手順の逆を行なってください。

1. 機械を堅い平坦な場所に駐車してください。
2. 放出部安全カバーと放出部カバーを持ち上げてください。
3. マルチングカバーの締付けバンドを外してください。
4. マルチングカバーを少し持ち上げながら、マルチングカバーを後ろに動かして後ろ側フックにしっかり掛けてください。
5. 放出部安全カバーと放出部カバーを元に位置に戻してください。
6. マルチングカバーの締付けバンドを締め、モータデッキにしっかり固定してください。



危険

*** 放出部安全カバーを下げていない状態でモータを操作しないでください。**

モータの使い方

マルチングカバー締付けバンドの調整



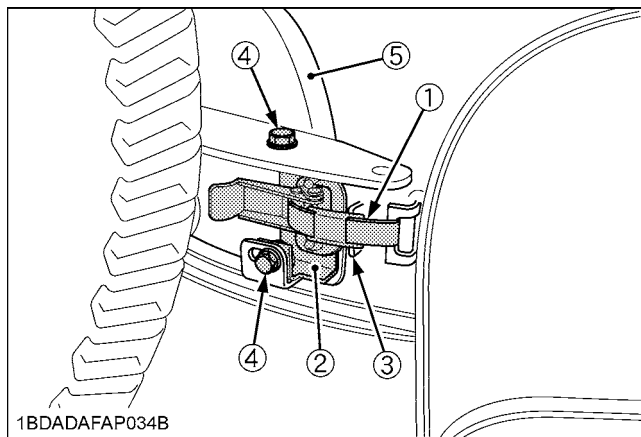
注 意

*** エンジンを停止しキーを抜いてください。**

マルチングカバーがしっかりと固定されていることを確認してください。固定されていない場合は、締付けバンドステーとフックプレートを調整して固定してください。

■右側放出位置での調整

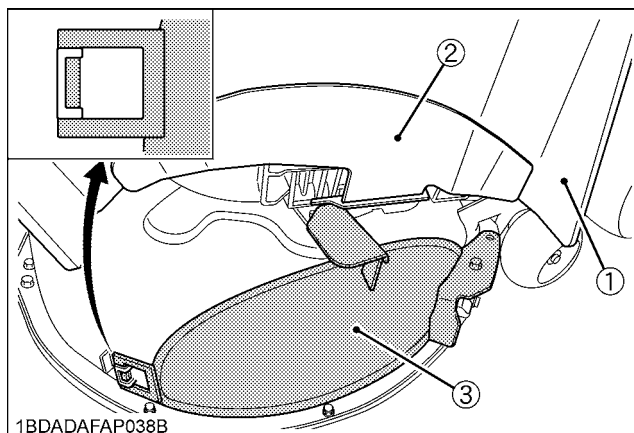
1. マルチングカバーの後部をモータデッキの後部にあるフックに掛けてください。
2. 締付けバンドステーのボルトをゆるめてください。
3. マルチングカバーをモータデッキストッパに押付けながら、締付けバンドを固定してください。
4. 締付けバンドがゆるまないように締付けバンドステーを調整して、ボルトをしっかり締めてください。



- (1) 締付けバンド
- (2) 締付けバンドステー
- (3) ストッパ
- (4) ボルト
- (5) マルチングカバー

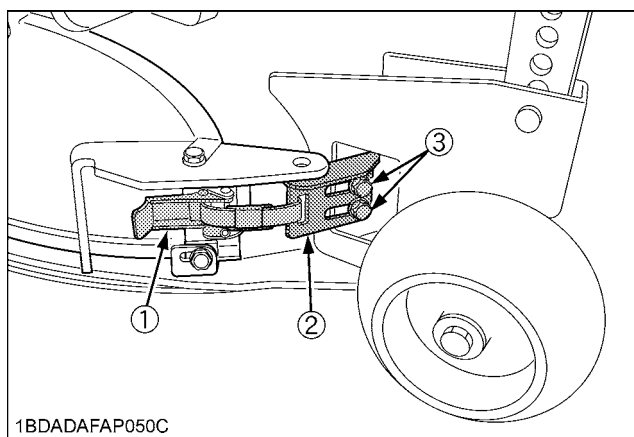
■マルチング位置での調整

1. マルチングカバーをマルチング位置にセットしてください。



- (1) 放出部安全カバー
- (2) 放出部カバー
- (3) マルチングカバー

2. フックプレートのボルトをゆるめてください。
3. マルチングカバー全体を前に押付けながら、締付けバンドを固定してください。
4. 締付けバンドがゆるまないようにフックプレートを調整して、ボルトをしっかり締めてください。



- (1) 締付けバンド
- (2) フックプレート
- (3) ボルト

重 要

- * 締付けバンドをマルチング位置で調整するときは締付けバンドステーで調整しないでください。
必ずフックプレートで調整してください。

メンテナンス



注意

給油及び点検整備するときは

1. 本機を平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き、安全を確認してから行なってください。

そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について



警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

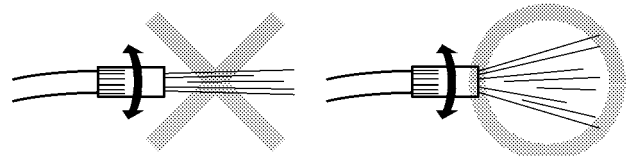


注意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
 2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
 3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
- 例) (1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品、エンジン・ラジエータ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂部品、ガラス等の破損
(4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

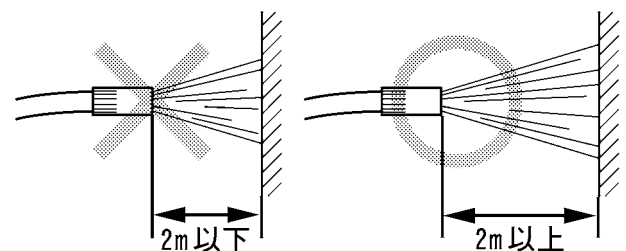


直射

拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

メンテナンス

定期点検箇所一覧表

次の定期点検箇所に従って、定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目		アワーメータ表示時間													点検 間隔	参照 ページ	
			25	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600			
1	PTO ベルトテンション	調整	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間 ごと	38	*2
2	モーターブレーキ	点検 調整		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間 ごと	39	*2
3	ブレーキペダル	点検	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間 ごと	40	*2
4	グリースの注入	-	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間 ごと	41	
5	エアクリーナ	プレ クリーナ エレメント	清掃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25 時間 または 2ヶ月 ごと	37	*1
		エア クリーナ エレメント	交換			○		○		○		○		○		100 時間 または 1年 ごと	47	
6	タイヤ	点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間 ごと	41	
7	エンジンオイル	交換			○		○		○		○		○		○	100 時間 または 1年 ごと	42	
8	エンジンカバー	清掃			○		○		○		○		○		○	100 時間 ごと	43	
9	点火プラグ	点検			○		○		○		○		○		○	100 時間 または 2年 ごと	43	
10	エンジンオイル フィルタ	交換			○		○		○		○		○		○	100 時間 または 1年 ごと	48	
11	トランスアクスル オイル	交換													○	600 時間 ごと	50	
12	トランスアクスル オイルフィルタ	交換													○	600 時間 ごと	49	

No.	点検項目		アワーメータ表示時間													点検 間隔	参照 ページ	
			25	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600			
13	燃料ホース	点検			○		○		○		○		○		○	100 時間 または 1年 ごと	44	
		交換														2年 ごと	50	*2
14	燃料フィルタ	交換			○		○		○		○		○		○	100 時間 または 1年 ごと	48	*2
15	スロットルケーブル	点検 調整			○		○		○		○		○		○	100 時間 ごと	45	
16	バッテリー	点検			○		○		○		○		○		○	100 時間 ごと	45	
17	ベンディクススタータ	清掃					○				○				○	200 時間 ごと	49	*2
18	ヒューズ	交換														必要に 応じて	51	
19	ランプ	交換															51	
20	刈刃	点検 交換															52	

重 要

- ◎はならし運転の 25 時間後に必ず行なってください。
 - *1 通常の状態よりもほこりの多い場所で使用した場合、プレクリーナエレメントの清掃は早めに行なってください。
 - *2 このサービスについては、購入先にお問い合わせください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。

メンテナンス

給油（水）一覧表

■給油（水）

場所	容量 (L)	備考
エンジンクランクケース	1.5 L	●クボタ純オイル（ガソリンエンジン用）G10W-30
HST	2.7 ～ 2.75L	●エンジンオイル SAE 20W-50
キングピン	グリースがあふれるまで	●極圧（万能）グリース
前車軸支点 ブレーキペダルシャフト シート調整装置 速度調整ペダルシャフト スロットルケーブル PTO クラッチケーブル モーアブレーキケーブル モーアリンク	適度な量	●オイルまたはスプレータイプのグリース
燃料タンク	13.5 L	●自動車用無鉛またはレギュラーガソリン

補 足

- * オイルの容量は製品出荷時の値（参考値）です。
- * ガソホル（体積で最大 10% のエチルアルコールと 90% の無鉛ガソリン）またはメチルブチルエーテル（MTBE）と無鉛ガソリンの混合物（体積で最大 15% の MTBE）がこのエンジンに承認されています。その他のガソリンとアルコールの混合物は承認されていません。

重 要

- 油圧システムの重大な損傷を防ぐため、クボタ純正オイルまたは同等品以外は使用しないでください。

■推奨グリース

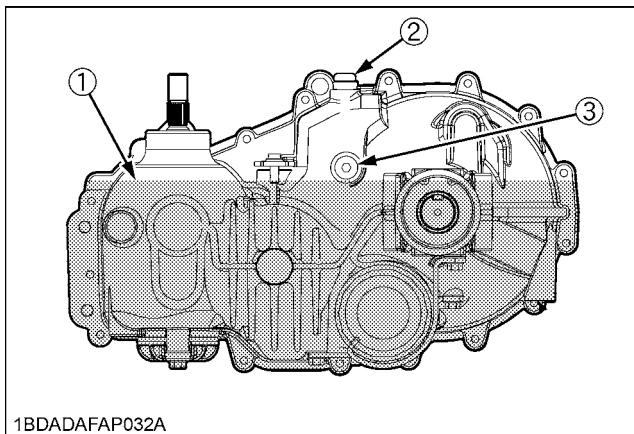
極圧（万能）グリース	クボタ純グリース No. 2 ※入手できない場合は下記メーカー製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 ● JX 日鉱日石エネルギー：エピノックグリース AP 2, リゾニックス EP 2 ● コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックス No. 2 ● 出光興産：ダフニーエポネックス SR 2 ● 昭和シェル石油：アルバニヤ EP グリース 2 ● モービル：モービラックス EP 2
------------	---

■ HST

オイルの量の点検：

必ずトランスミッションが冷えているときにオイルの量を点検してください。オイル量点検ポートを取外します。

正しい量は、ポートの下端と等しい高さです。オイルを加える必要がある場合は、ブリーザチューブを取外し、上部ポートプラグから加えてください。必ず、“メンテナンス”の章の“給油（水）一覧表”の表で指定されている正しいオイルを使用してください。



- (1) オイルの量
- (2) 上部ポートプラグ
- (3) オイル量点検ポート

定期点検

ボンネットの開け方

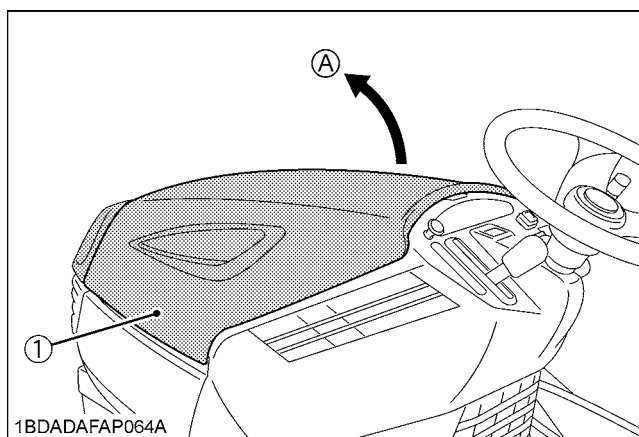


注 意

- * 決してエンジンが始動している状態でボンネットを開かないでください。
- * マフラと排気パイプが熱いうちは触らないでください。重度のヤケドを負うことがあります。

■ボンネット

ボンネットを開くには、下の図のようにボンネットを持ち上げてください。

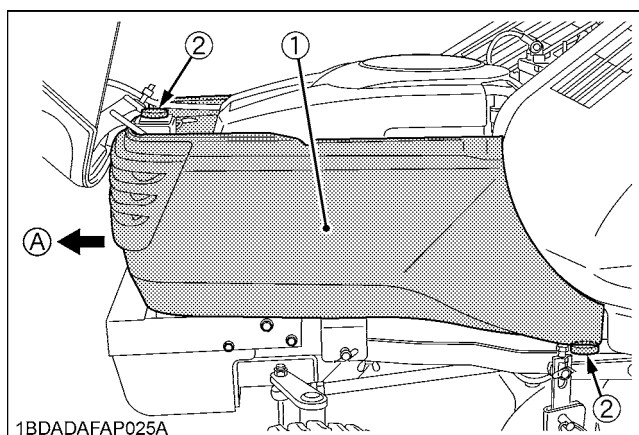


(1) ボンネット

Ⓐ 引く

■エンジンカバー

ボンネットを開き、ノブボルトをゆるめてエンジンカバーを前に引いて取外します。



(1) エンジンカバー

(2) ノブボルト

Ⓐ 引く

日常点検

トラブルの発生を防ぐには、機械の状態を知ることが重要です。始動前に点検してください。



注 意

- * 機械の点検およびサービスは、必ず水平な場所でエンジンを停止し、キーを抜き、駐車ブレーキをしっかりと掛けて行ってください。

	No.	点検項目	参照ページ
機械の周囲を歩いて	1	タイヤ、空気圧、摩耗および損傷	41
	2	燃料とオイルの漏れ	-
	3	エンジンオイルの量	34
	4	燃料の量	33
	5	機械本体の損傷、すべてのボルトおよびナットの締付け	-
	6	冷却吸気スクリーン	35
	7	注油	35
モータ	1	刈刃のボルトが締まっていることを確認	52
	2	刈刃の摩耗または破損の点検	52
	3	すべての装着部品の点検	-
	4	すべてのピンがはまっていることを確認	-
その他	1	以前にトラブルが発生したことがある箇所を点検	-
シートに座って	1	速度調整ペダル、ブレーキペダル	-
	2	駐車ブレーキ	-
キースイッチを“入”に回して	1	ヘッドライト	-

	No.	点検項目	参照ページ
エンジンの始動	1	排気ガスの色	-
	2	安全始動スイッチ、シート安全コントロールおよびその他の安全装置。これらのいずれかが適切に作動しない場合、直ちに購入先にお問い合わせください。	11
	3	異常音および振動の点検	-
	4	イージーチェッカの点検	18
	5	エアクリーナの点検	37

■燃料の量の点検と給油


注 意

* 燃料は慎重に取扱ってください。エンジンが作動している場合は、給油しないでください。エンジンが熱い場合には燃料を加える前にエンジンを数分冷やしてください。給油中または燃料系統を点検しているときはタバコを吸わないでください。給油口の下部より上まで給油しないでください。燃料をタンクいっぱいまで入れないでください。ガソリンが熱いとき、燃料タンク内の空間がガソリンを膨張させるのに必要です。燃料タンクが熱いとき、決して燃料タンクキャップを外したり、燃料を加えたりしないでください。



燃料の量を点検してください。燃料タンクが空にならないように注意してください。給油するときは、機械を平坦な場所に駐車してください。

燃料タンク容量	13.5 L
---------	--------

重 要

- * オイルをガソリンと混ぜないでください。
- * 燃料は、自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。

補 足

- * 燃料は、燃料の品質が劣化しないように、購入後約 30 日以内に使用するか、または燃料安定剤を添加して燃料を新鮮で安定した状態で維持してください。
- * 季節に最適のエンジン性能を発揮するための燃料の混合は季節により異なります。パーパークロックや始動が困難などエンジン性能のトラブルを防ぐために、燃料は購入した季節内に使用してください。
- * 季節内にエンジンを頻繁に使用しないと、機械の燃料タンクの中で燃料が古くなります。燃料が古い状態では、ニス状の物質や詰まったキャブレターによるエンジン性能のトラブルの原因になる可能性があります。
- * 燃料の劣化を防ぐために、燃料の貯蔵容器を密封して、日光や熱にさらされない場所で保管してください。
- * 燃料タンクの結露は、さまざまな操作条件や環境条件により発生します。結露を減らし、機械の運転への影響を防ぐため、その日の作業が終了したら燃料タンクを満タンにして、燃料は貯蔵容器で保存してください。

重 要

- * 古い燃料は使用しないでください。
- * 燃料タンクの結露を防ぐため、その日の作業が終了したら燃料タンクを満タンにしてください。

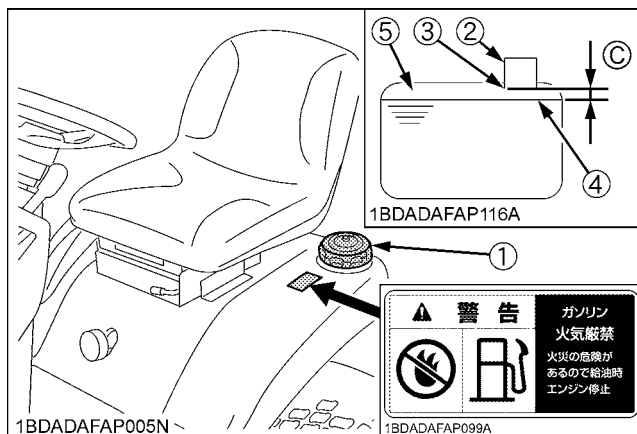
定期点検

ガソリンとアルコールの混合物

ガソール（体積で最大 10% のエチルアルコールと 90% の無鉛ガソリン）は燃料として承認されています。E20 や E85 を含むその他のガソリンとアルコール混合物は使用してはならず、こうした燃料の使用による故障は保証されません。

ガソリンとエーテルの混合物

メチルブチルエーテル（MTBE）と無鉛ガソリンの混合物（体積で最大 15% の MTBE）は燃料として承認されています。その他のガソリンとエーテルの混合物は承認されていません。



- (1) 燃料タンクキャップ (C) すきま（燃料液面は給油口の下にあること）
(2) 給油口
(3) 給油口下部
(4) 最高燃料液面
(5) 空間

■エンジンオイルの量の点検



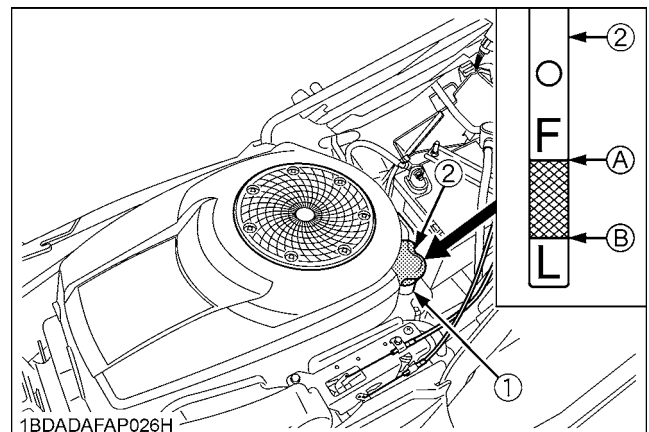
注意

*** オイルを点検する前に必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。**

◆ オイルの量の点検

1. エンジンオイルの点検は、油面が安定するエンジン始動前か、またはエンジン停止後 5 分経過後に行なってください。
2. オイルゲージの先端をきれいに拭いてください。
3. オイルの量を点検する方法は次のとおりです。

オイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭いて差し込み、再び抜いてください。オイルの量が F と L の 2 つのマークの間にあることを確認してください。



- (1) エンジンオイル給油口 (A) 上限
(2) オイルゲージ (B) 下限

4. 必要に応じて、給油口から新しいオイルを規定油面（F と L の間）まで入れてください。
5. 今まで使用していたものと異なる銘柄や粘度のものをを使用する場合、古いオイルを全部排出してください。
異なる 2 種類のオイルを決して混ぜないでください。
6. 周囲温度に応じて適切なエンジンオイル（SAE グレード）を使用してください。
（“定期点検”の章の“給油（水）一覧表”を参照してください。）

■冷却吸気スクリーンの点検



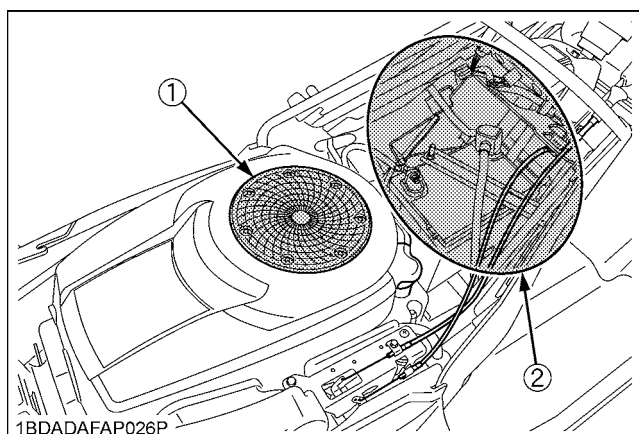
注 意

* 冷却吸気スクリーンを点検または清掃する前に必ずエンジンを止めてください。

重 要

* エンジンのオーバーヒートを防ぐため、冷却吸気スクリーンにはゴミがたまらないようにする必要があります。

1. ボンネットを上げ、吸気スクリーンに刈取った草やゴミがないことを確認してください。
2. スクリーンが汚れている場合は、ブラシや布でスクリーンを清掃してください。
3. ゴミまたはクズがパネルの内側にたまっている場合、パネルの内側を完全に清掃してください。
清掃後、吸気スクリーンを正しく取付けてください。



- (1) スクリーン
(2) パネル内側

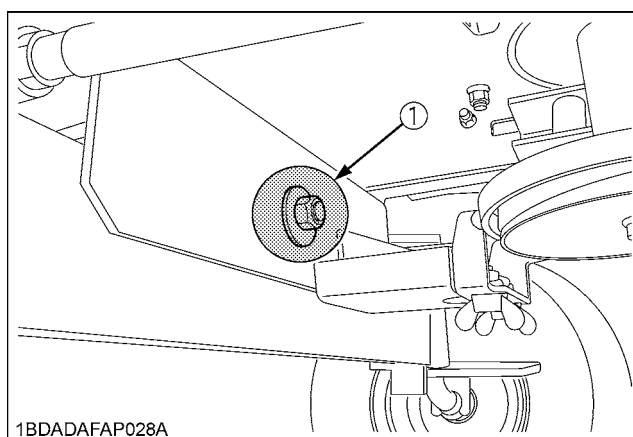
■注油



注 意

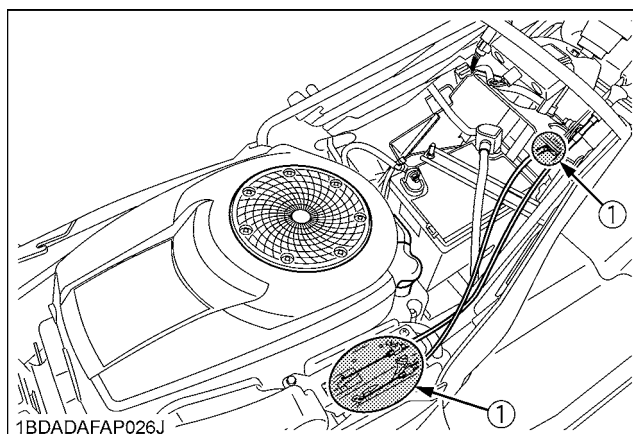
* 注油する前に必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。

始動前に、次の場所に注油してください。



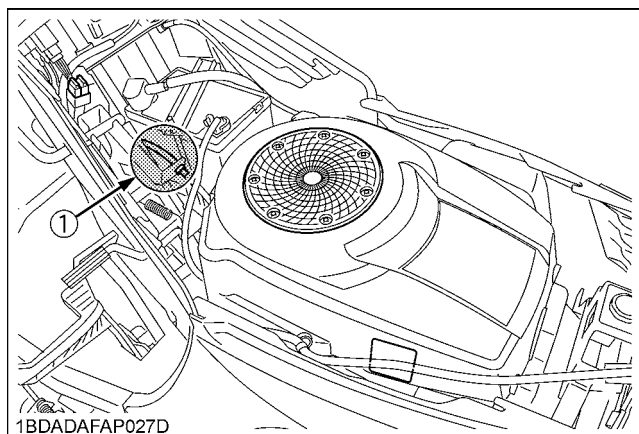
(1) 前車軸支点

ケーブルはアウターワイヤの端に注油してください。

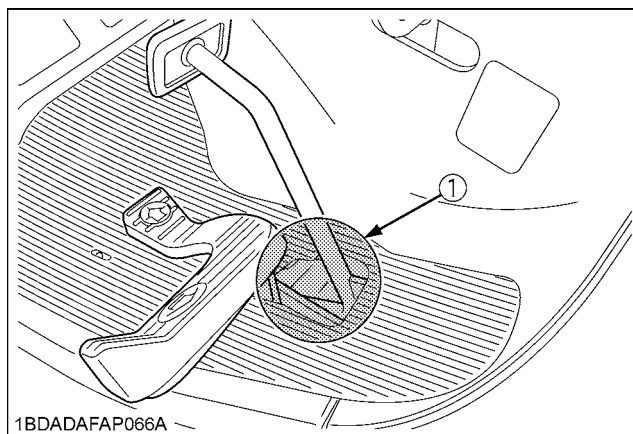


(1) スロットルケーブル

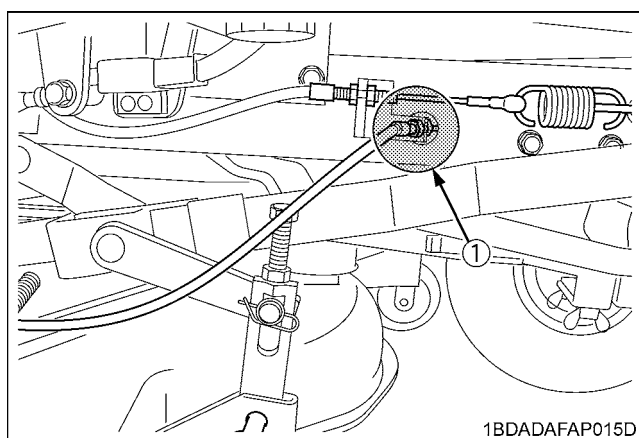
定期点検



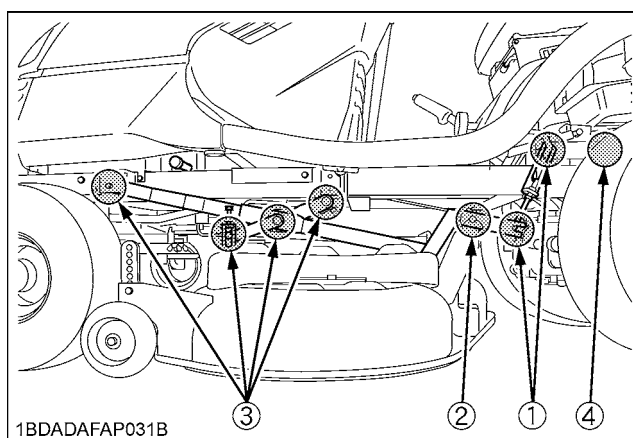
(1) PT0 クラッチケーブル



(1) 速度調整ペダルシャフト



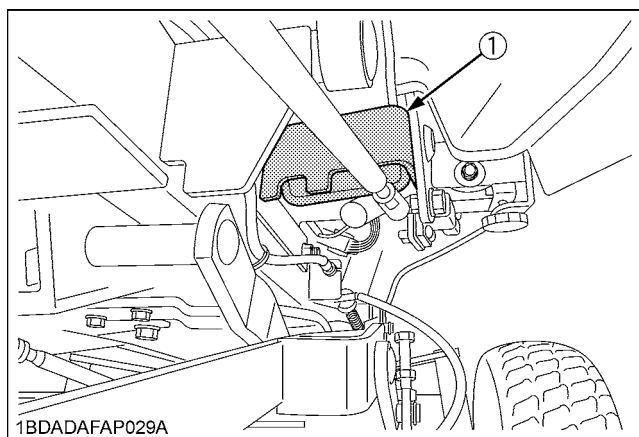
(1) モーアブレーキケーブル



- (1) モーアリンクの穴周り
- (2) ピン周り
- (3) モーアリンクの支点
- (4) 昇降アームの支点

補 足

* これらの場所は機械の両サイドで注油してください。



(1) ブレーキペダル

25 時間ごとの点検

■エアクリーナの清掃

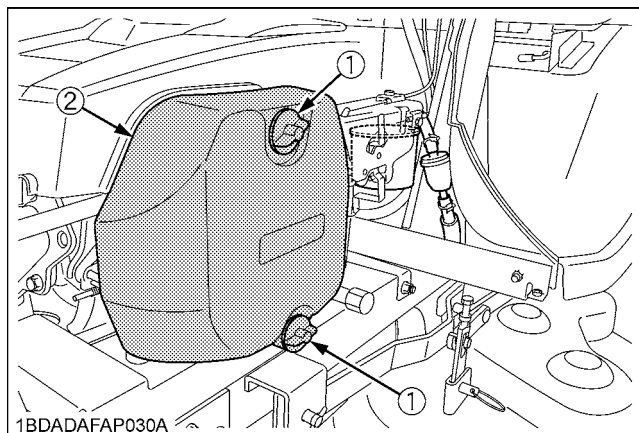
エアクリーナは、“毎日”または“始動前”に点検してください。エアクリーナシステム周りにほこりやゴミがたまっていないか点検してください。この箇所は常に清掃しておいてください。また、ゆるんでいる部品や損傷している部品がないか点検してください。曲がったり損傷しているエアクリーナの部品はすべて交換してください。

補 足

* エアクリーナの部品がゆるんだり損傷したりしたままエンジンを操作すると、ろ過されていない空気がエンジンに侵入し、早期の摩耗や故障の原因になるおそれがあります。

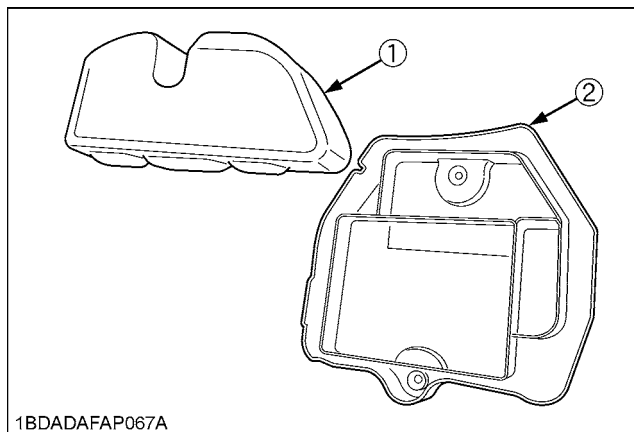
プレクリーナは、“25 時間使用ごと”または“2 ヶ月ごと”に洗浄して再注油してください。（ほこりや汚れがきわめて多い状態では、よりこまめに点検してください。）

1. エアクリーナカバーノブをゆるめエアクリーナカバーを除外してください。



- (1) エアクリーナカバーノブ
- (2) エアクリーナカバー

2. プレクリーナをエアクリーナカバーから除外します。



- (1) プレクリーナ
- (2) エアクリーナカバー

3. プレクリーナを温水と洗剤で洗ってください。洗剤が完全になくなるまでプレクリーナを十分すすいでください。余分な水は絞ってください。（ねじらないでください。）プレクリーナを空気乾燥させてください。
4. プレクリーナを新しいエンジンオイルに浸してください。余分なオイルはすべて絞ってください。
5. プレクリーナをエアクリーナカバーの上部に取付けてください。プレクリーナの穴を上部取付けノブに必ず合わせてください。
6. エアクリーナカバーを取付け、2 個のノブで固定してください。

補 足

* ほこりの多い場所で操作する場合は、上記よりこまめなメンテナンスが必要になる場合があります。

定期点検

50 時間ごとの点検

■ PT0 ベルトのテンション調整および交換

◆ PT0 ベルトテンション

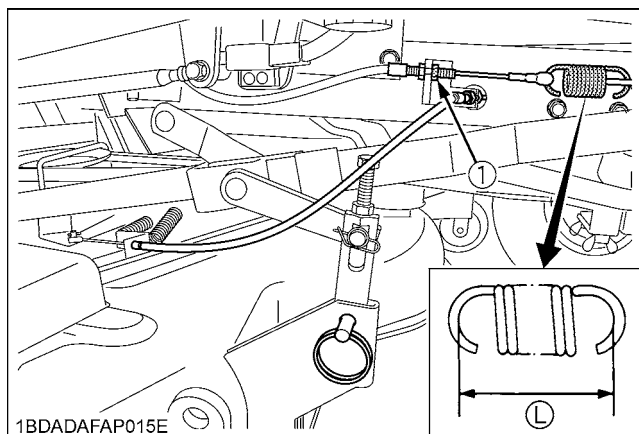


注 意

*** 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーを抜き、PT0 レバーを“切”にしてください。**

PT0 に負荷がかかったときに PT0 ベルトが滑る場合は、以下の手順で PT0 スプリングの長さを確認し、引張りスプリングの長さを調整してください。

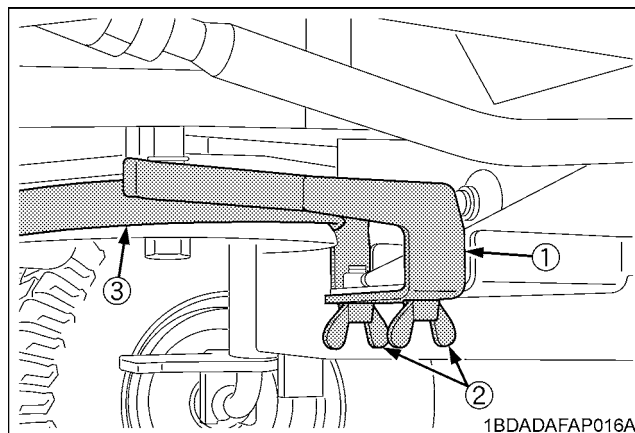
1. PT0 レバーを“入”の位置まで押し下げてください。
2. (L) が 73mm よりも短い場合は、テンションクラッチケーブル調整ナットで調整してください。(L) を 75 ~ 78mm にしてください。
3. 調整後、ナットをしっかりと締めてください。PT0 ベルトを交換するときは、51mm の刈高さで(L)が78~81mmになるようにしてください。



(1) テンションクラッチケーブル調整ナット

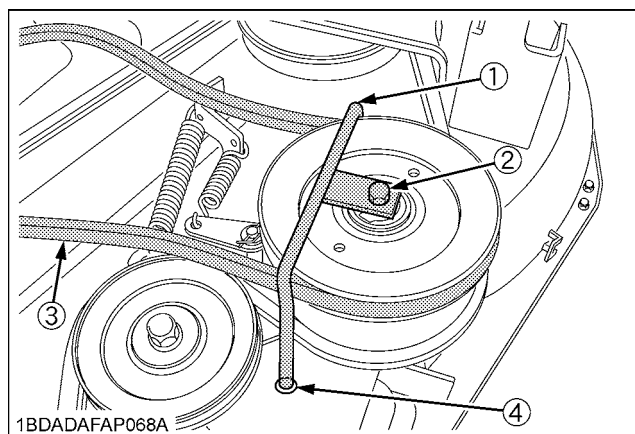
◆ PT0 ベルトの交換

1. ベルトサポートブラケット、ベルトサポート、PT0 ベルトを取外します。



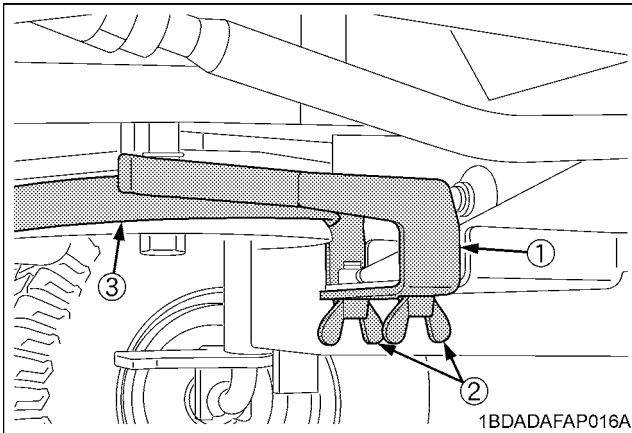
- (1) ベルトサポートブラケット
- (2) 蝶ボルト
- (3) PT0 ベルト

2. PT0 ベルトをプーリに掛けてください。
ベルトサポートをモータデッキの穴に差し込み、ボルトを締めてください。



- (1) ベルトサポート
- (2) ベルトサポートボルト
- (3) PT0 ベルト
- (4) モータデッキの穴

3. PTO ベルトをエンジンプーリに取付けてから、ベルトサポートブラケットを取付けてください。



- (1) ベルトサポートブラケット
- (2) 蝶ボルト
- (3) PTO ベルト

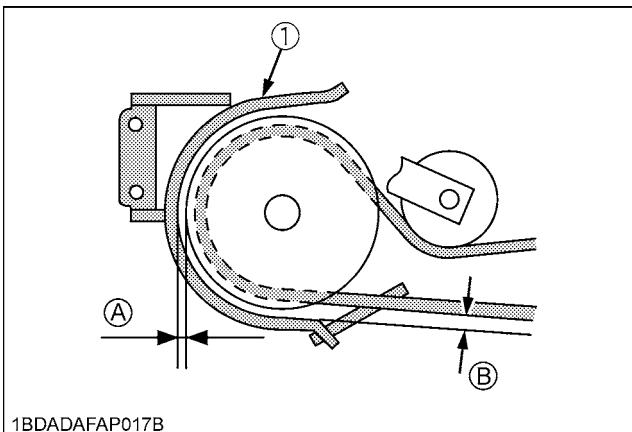
【ベルトサポートブラケットの取付けと調整】

PTO レバーを“入”の位置にして、ベルトサポートブラケットを次の指示された位置に調整して、ベルトサポートブラケットを締め付けます。



注意

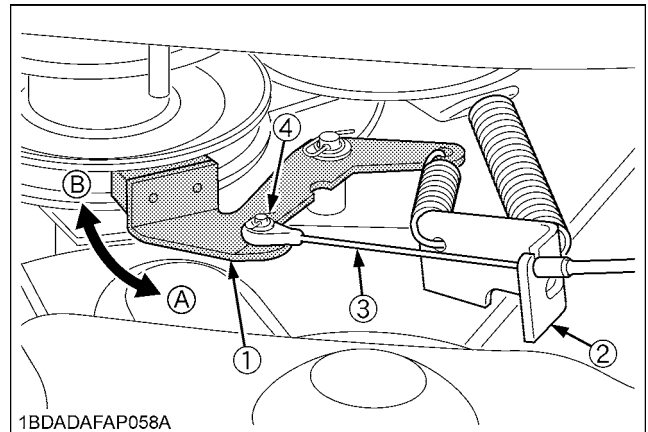
* エンジンが始動していないことを確認してください。



- (1) ベルトサポートブラケット
- (A) ベルトサポートブラケットとプーリの隙間 1～2 mm
- (B) ベルトサポートブラケットとベルトの隙間 6～7mm

■モアブレーキの点検およびモアブレーキワイヤの調整

1. モアブレーキは、刈刃を停止する安全装置です。PTO レバーが“切”の位置のとき、プーリの溝にブレーキが当たり、5 秒以内に刈刃の回転が停止します。PTO レバーが“入”の位置のとき、プーリの溝からブレーキが離れており、プーリは回転できます。



- (1) モアブレーキ
- (2) ワイヤホルダ
- (3) モアブレーキワイヤ
- (4) ルーリングコックピン
- (A) PTO レバー “入”
- (B) PTO レバー “切”



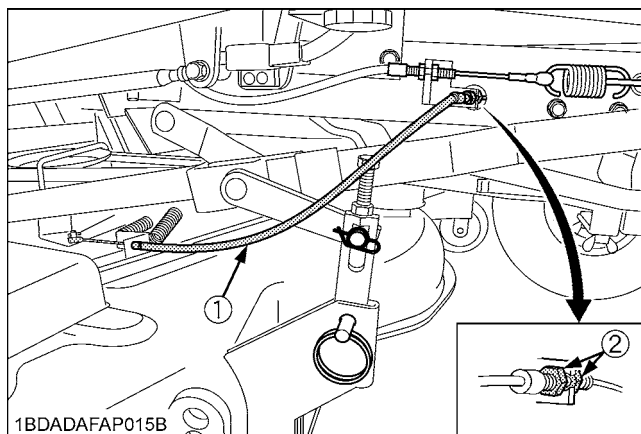
警告

* ブレーキの調整中は、エンジンが始動していないことを確認してください。
* ブレーキが適切に調整されていないときはモアを操作しないでください。

2. PTO レバーが“入”でブレーキがプーリの溝から外れ、“切”の位置ではまるようにモアブレーキワイヤを調整ナットで調整してください。

PTO レバーを数回“入”“切”にしてモアブレーキのきき具合を調べてください。

定期点検



- (1) モーアブレーキワイヤ
- (2) 調整ナット

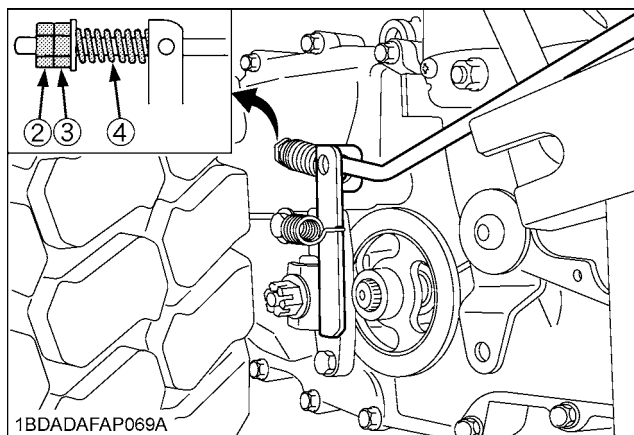
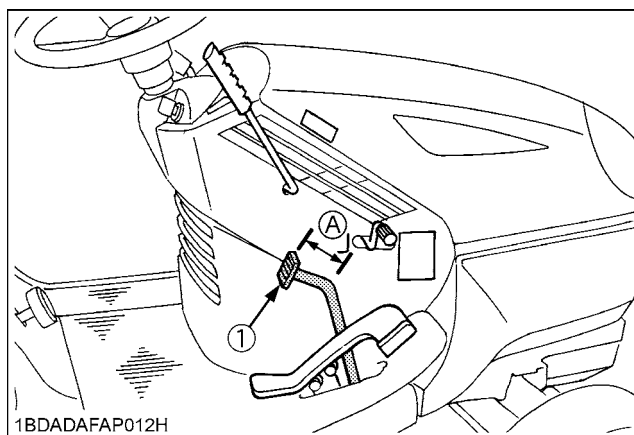
■ブレーキペダルの点検



注意

*** 調整するときは、機械を平たんに停車し、車輪を止め、エンジンを停止しキーを抜いてください。**

正しい遊びの範囲は 40 ～ 50mm です。正しくない場合は、正しい遊びが得られるまで、ロックナット (2) をゆるめ、ナット (3) を必要な方向に回してください。調整後、ロックナット (2) をしっかりと締め直してください。



- (1) ブレーキペダル
- (2) ロックナット
- (3) ナット
- (4) スプリング

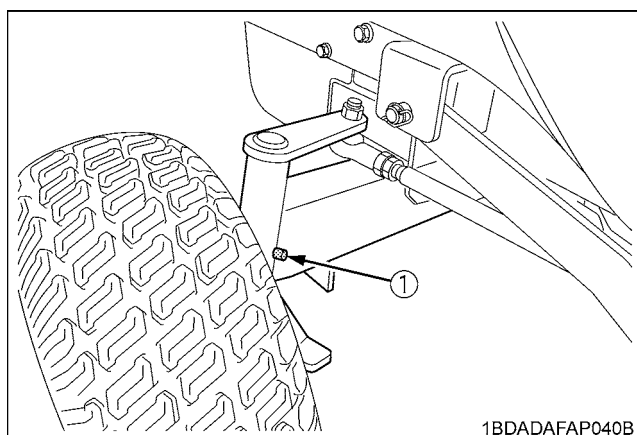
(A) 40 ～ 50mm の遊び

■グリースの注入



- * グリースを注入する前に必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。

次のグリースニップルにグリースを注入してください。



(1) キングピン (右および左)

■タイヤの空気圧の点検



- * タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- * タイヤに傷があり、その傷がコード (糸) に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- * タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)

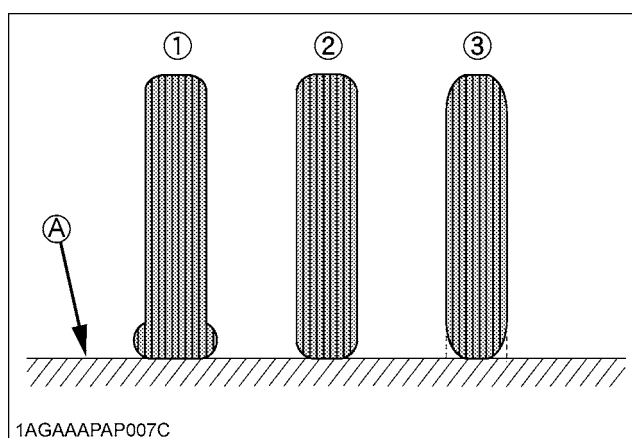
重要

- * 指定より大きいタイヤを使用しないでください。

■空気圧

空気圧は規定圧力に工場でセットしておりますが、時間とともに自然とゆっくり減ってきます。点検して必要に応じて空気を入れてください。

冷えているときの標準タイヤ空気圧	
前輪	後輪
100 kPa 1.0 kgf/cm ²	70 kPa 0.7 kgf/cm ²



- (1) 空気が不足
- (2) 標準
- (3) 空気が多い

(A) 地面

重 要

* 後輪をジャッキで持ち上げるときは、次の点を確認してください。

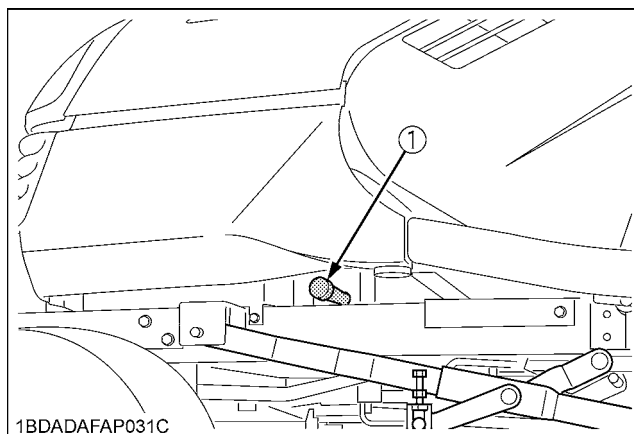
1. 前輪を止めること。
2. いずれかの支持板の横の内側にジャッキをかけること。

100 時間ごとの点検

■エンジンオイルの交換

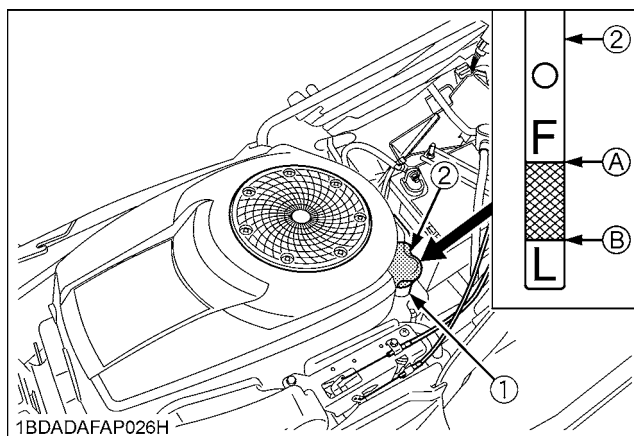
“100 時間使用ごと”または“1 年ごと”にエンジンオイルを交換してください。

1. 使用済みオイルを交換するには、エンジン横のドレンプラグを外し、オイルを完全に抜いてください。エンジンが暖かい場合、使用済みオイルは容易に排出できます。



(1) ドレンプラグ

2. オイルゲージの上限まで新しいエンジンオイルを補充してください。入れすぎないでください。



(1) エンジンオイル給油口 (A) 上限
(2) オイルゲージ (B) 下限

3. オイルの量を点検するときは、オイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭いて差し込み、再び抜いてください。オイルの量が F と L の 2 つのマークの間にあることを確認してください。

■エンジンカバーの清掃



注 意

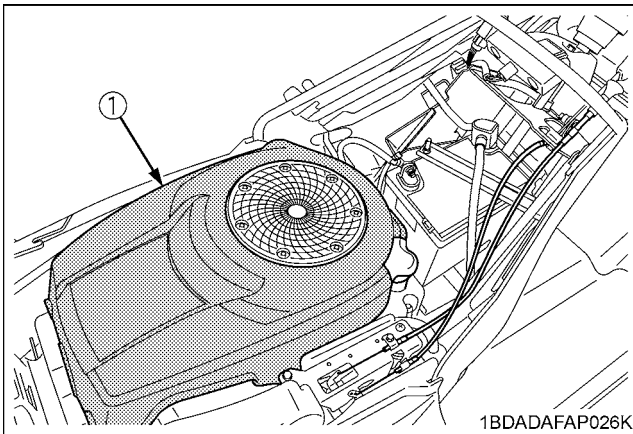
*** エンジンに触れて冷えていることを確認してからカバーを外してください。**

1. エンジンカバー取付けボルトを取外し、カバーを外してください。
2. エンジンの冷却フィンにゴミやほこりが詰まっていないかどうか確認してください。必要に応じて、圧縮空気で清掃してください。



注 意

*** 堆積物やゴミなどが飛散するので、必ず顔を保護してください。**



(1) カバー

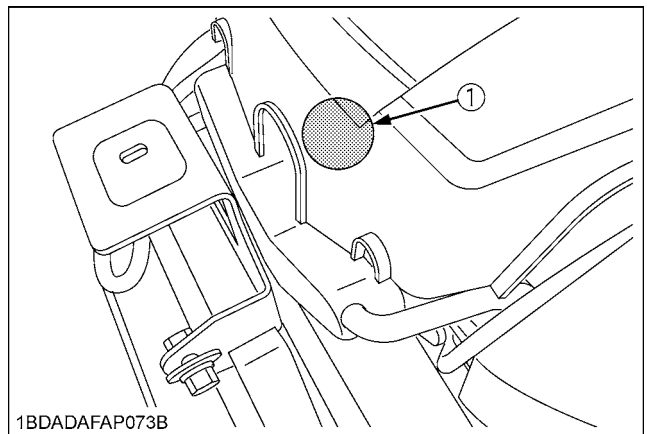
■点火プラグの点検

“100 時間使用ごと” または “2 年ごと” に点火プラグの状態とギャップを点検してください。

1. ボンネットを上げてください。
2. 点火プラグから点火プラグワイヤを取外してください。
3. プラグレンチを使用してプラグを取外してください。

補 足

- * このエンジンは、抵抗タイプの点火プラグを装備しています。
4. 点火プラグに磁器の割れ、電極のくぼみ、その他の摩耗および損傷がないか点検してください。必要な場合は点火プラグを交換してください。

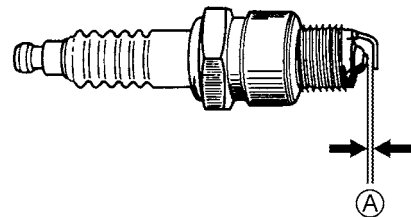


(1) 点火プラグ

5. 点火プラグのギャップをギャップゲージで点検してください。

推奨点火プラグ

CHAMPION RC12YC



1BDABBSAP023H

(A) 0.76mm

定期点検

■燃料ホースの点検



注 意

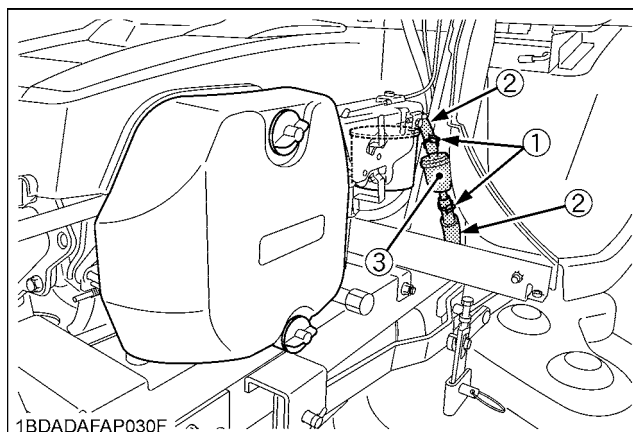
- * 以下の点検および交換を行なう前に必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。
- * 燃料ホースの定期点検を必ず実施してください。燃料ホースは摩耗、劣化します。エンジンを運転しているときに燃料がもれ、火災の原因となるおそれがあります。

燃料ホースの接続部は、“1年ごと”または“使用時間100時間ごと”のいずれか早い方で点検する必要があります。

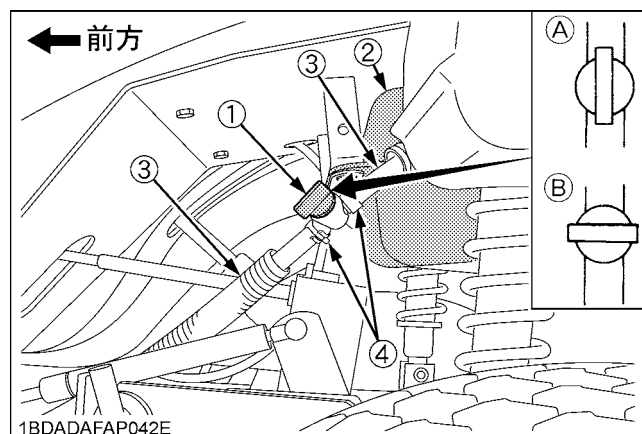
1. 燃料ホースはゴム製品のため、使用時間に関係なく劣化します。
2. 燃料ホースや締付けバンドが損傷したり劣化したりしている場合には取替えてください。

重 要

- * 整備や修理のために燃料ホースを外す場合には燃料ホースの両端をきれいな布か紙でほこりや土が入らないようにふさいでください。また燃料ポンプにほこりや土が入らないように特に注意してください。ほこりや土が入ると燃料ポンプが故障します。



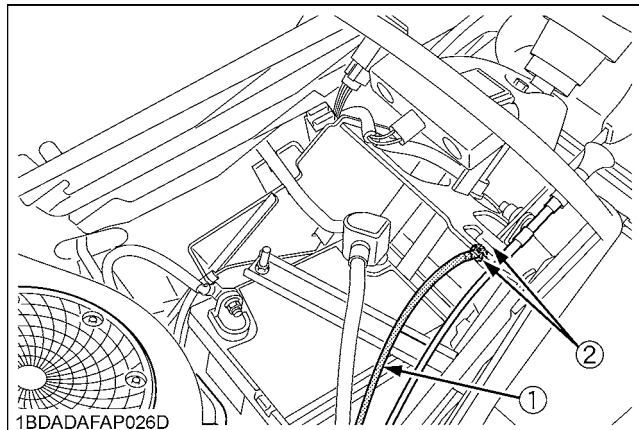
- (1) 締付けバンド
- (2) 燃料ホース
- (3) 燃料フィルタ



- (1) 燃料バルブ
 - (2) 燃料タンク
 - (3) 燃料ホース
 - (4) 締付けバンド
- (A) 開く
 - (B) 閉じる

■スロットルケーブルの点検

スロットルレバーでエンジン速度を加速できない場合、ゆるんでいるナットがないか確認してください。ゆるんでいる場合は締めてください。



- (1) スロットルケーブル
- (2) ロックナット

■バッテリー



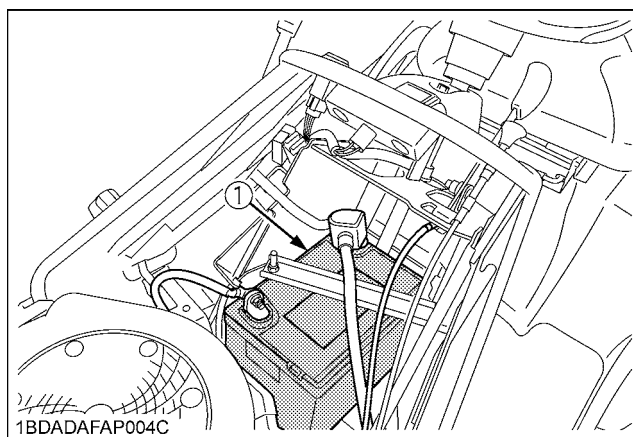
注 意

- * 決してエンジンが始動している状態でベントキャップを取外さないでください。電解液を目、手、衣服に付けないようにしてください。電解液が付着した場合はすぐに水で完全に洗い流して医師の診断を受けてください。
- * バッテリー周りで作業するときには防護めがねとゴム手袋をしてください。

バッテリーは取扱いを誤ると寿命が短くなります。

本機は出荷時には補水不要タイプのバッテリーを搭載しています。

バッテリーに蓄えられた電気量が減ってくると、エンジンが始動しにくくなったり、ランプが薄暗くなってきます。バッテリーを定期的に点検することが重要です。



- (1) バッテリー

定期点検

◆ バッテリーの充電



危険

バッテリーは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。

* LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。補水可能なバッテリーの場合、液の量を定期的に点検して、液量が UPPER と LOWER の間になるように必要に応じて蒸留水を足してください。



警告

* バッテリー使用中はバッテリー内の水素ガスと酸素ガスが特に危険な状態になっております。どんなときにもバッテリーから火花や炎を遠ざけてください。特にバッテリーを充電するときには注意してください。

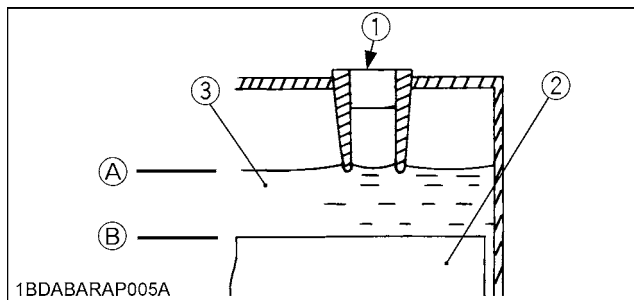
* バッテリーを充電するときにはベントキャップがきっちりと閉まっていることを確認してください（キャップがある場合）。

* バッテリーからコードを外すときにはマイナスの端子から外してください。バッテリーを接続するときにはプラスの端子から接続してください。

* バッテリー端子を短絡させてバッテリーの充電を点検しないでください。電圧計か、液体比重計を用いてください。

◆ ベントキャップが取外せる補水可能なタイプのバッテリーを使用する場合

- それぞれの電解液の量がベント穴の底まである事を確認してください。もし必要ならば換気が十分な所でベント穴から蒸留水を加えてください。



- (1) ベント穴
(2) しきり板
(3) 電解液

- (A) “上限”
(B) “下限”

- 充電中は電解液の水は蒸発します。液体が少なくなるとバッテリーに損傷を与えます。液体が多すぎるとこぼれて機械の車体に損傷を与えます。
- バッテリーの通常充電をするにはバッテリーのプラスの端子を充電器のプラスの端子につなぎ、マイナスの端子をマイナスの端子につなぎ、通常のやり方で充電してください。
- 急速充電法は緊急のときにのみ行ないます。これは短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。急速充電したときにはできるだけ早くバッテリーを正しく補充電することが必要です。補充電しておかないと、バッテリーの寿命が短くなります。
- 電解液の比重が 1.27 ~ 1.29 に達したときに充電はできています。
- 古いバッテリーを新しいバッテリーに交換するときには“主要諸元”に記載されているバッテリーと仕様が等しいバッテリーを使用してください。

◆ 補水不要のバッテリーを使用する場合

補水不要のバッテリーは水を加える必要のないように設計されています。しかし、電解液の量は実際には高温状態やレギュレーターの設定不良による通常とは異なる使用状態により、減少してきます。充電の状態を点検するには電圧計を使用してください。（下の参考表を見て、充電が必要かどうかを確認してください。）

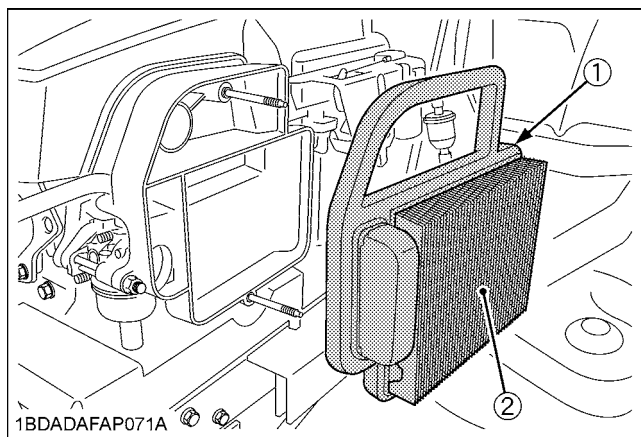
バッテリー電圧	充電状態
12.6	100%（満充電）
12.4	75%
12.2	50%
12.0	25%
11.8	0%

■エアクリーナペーパーエレメントの交換

プレクリーナを搭載している場合は、“100 時間使用ごと”または“1 年ごと”にペーパーエレメントを交換してください。プレクリーナを搭載していない場合は、“25 時間使用ごと”または“1 年ごと”に点検してください。

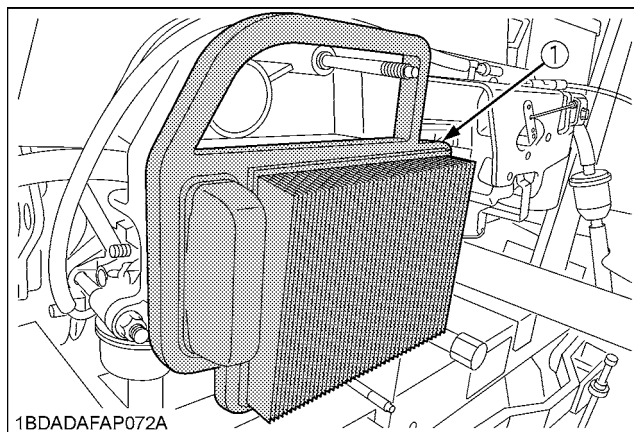
(ほこりや汚れがきわめて多い状態ではよりこまめに点検してください。)

1. エアクリーナカバーノブをゆるめエアクリーナカバーを外してください。
2. エアクリーナカバーおよびプレクリーナを取り外し、必要に応じて点検してください。
3. エアクリーナエレメントと一体型ゴムパッキンを取り外してください。



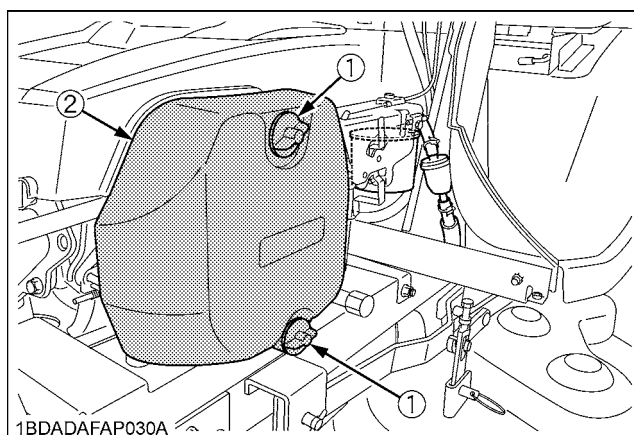
(1) エアクリーナエレメントとゴムパッキン
(2) ペーパーエレメント

4. ペーパーエレメントのひだのある側をやさしくたたいてほこりを落とします。ペーパーエレメントを洗ったり圧縮空気を使用したりしないでください。エレメントが損傷します。汚れ、曲がり、損傷があるエレメントは、純正エレメントと交換してください。新しいエレメントは慎重に扱い、ゴムのパッキンが損傷している場合は使用しないでください。
5. エアクリーナのすべての部品からたまったほこりや異物を除去してください。キャブレターのスロットに一切のほこりが入らないようにしてください。
6. ひだのある側を**外側**にしてエアクリーナエレメントを取付け、ゴムのパッキンをエアクリーナの基部に取り付けてください。



(1) エアクリーナエレメントとゴムパッキン

7. プレクリーナをエアクリーナカバーの上部に取り付けてください。プレクリーナの穴を上部取付けノブに必ず合わせてください。
8. エアクリーナカバーを取付け、2 個のノブで固定してください。



(1) エアクリーナカバーノブ
(2) エアクリーナカバー

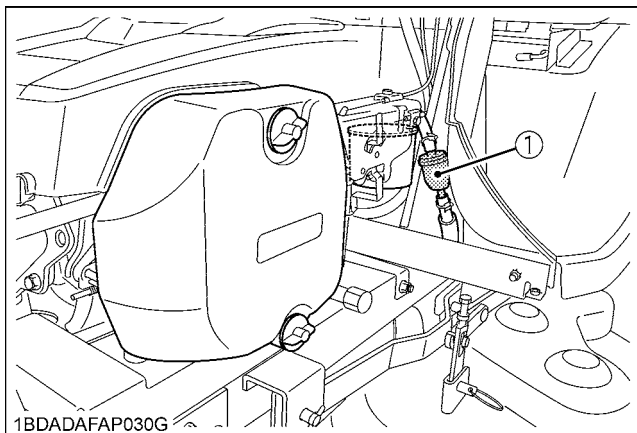
補 足

* エアクリーナの部品がゆるんだり損傷したりしたままエンジンを操作すると、ろ過されていない空気がエンジンに侵入し、早期摩耗や故障の原因になるおそれがあります。

定期点検

■燃料フィルタの交換

交換は購入先にご依頼ください。



(1) 燃料フィルタ

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



* エンジンオイルは有害物質です。使用済みオイルは適切に廃棄してください。承認された廃棄方法やリサイクルの可能性については、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。



* オイルとオイルフィルタカートリッジを交換する前に必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。
* 十分エンジンを冷やしてください。オイルが熱く、ヤケドするおそれがあります。

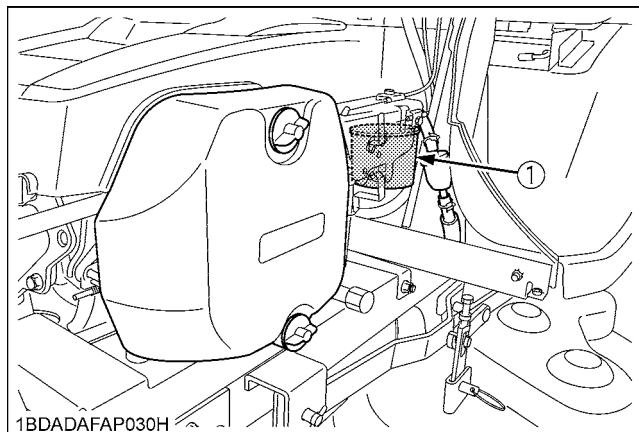
オイルフィルタカートリッジは、“**使用時間 100 時間ごと**”または“**1 年ごと**”に交換する必要があります。必ず純正オイルフィルタカートリッジを使用してください。

- ほこり、刈取った草などがエンジンに入らないようにするため、オイルゲージを取外す前に周囲を清掃してください。
- ドレーンプラグとオイルゲージを取外してください。
排出には十分に時間を取ってください。
- 古いフィルタカートリッジを取外し、取付けパッドを拭いてください。
- ドレーンプラグを取付けてください。
必ず 14 N・m のトルクで締めてください。
- 新しいフィルタカートリッジを開いている側を上にして浅いオイルパンに置いてください。新しいエンジンオイルをネジ山のある中央の穴から注いでください。オイルがネジ山の底に届いたら注ぐのをやめてください。フィルタ材がオイルを吸収するまで1～2分待ってください。
- きれいなエンジンオイルを新しいフィルタカートリッジのゴムのパッキンに薄く塗布してください。

7. フィルタカートリッジを取付けパッドに取付けてください。ゴムのパッキングがパッドに触れるまでフィルタカートリッジを時計回りに回転し、さらにフィルタカートリッジを 2/3 ～ 1 回転させてください。
8. クランクケースにオイルゲージの“F”マークまで新しいエンジンオイルを満たしてください。（“メンテナンス”の章の“給油（水）一覧表”を参照してください。）
オイルを追加する前に、オイルゲージでオイルの量を必ず確認してください。
9. オイルゲージを取付け、しっかり押込んでください。
10. エンジンを試運転して漏れがないか点検してください。エンジンを停止し、オイルが下がるまで 1 分間待ち、オイルゲージでもう一度オイルの量を確認してください。必要に応じて、オイルゲージの“F”マークを超えないように、オイルを足してください。

補 足

- * 広範囲にわたるエンジンの摩耗または破損を防ぐため、クランクケースには常に適切な量のオイルを維持してください。“L”マークを下回るオイルの量や“F”マークを上回るオイルの量では、エンジンを操作しないでください。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

200 時間ごとの点検

■ベンディクススタータの清掃

このサービスについては、購入先にお問い合わせください。

600 時間ごとの点検

■トランスアクスルオイルフィルタの交換



注 意

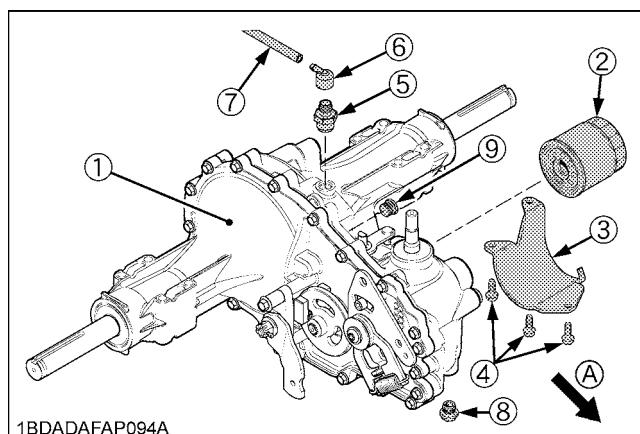
- * 機械は固い平坦な場所に駐車してください。
- * 駐車ブレーキを掛けてください。
- * オイルを交換または点検する前に必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。
- * トランスミッションケースを十分冷やしてください。オイルが熱く、ヤケドするおそれがあります。

1. HST バイパスロッドを引いてください。
2. 六角ボルト (4)、およびフィルタガード (3) を取外してください。オイルフィルタ (2) の周辺にあるゴミを取除いてください。
3. オイルドレーンパン（直径 30cm、容量 7 L が最適）をオイルフィルタの下に置いてください。オイルフィルタ (2) を取外して廃棄してください。

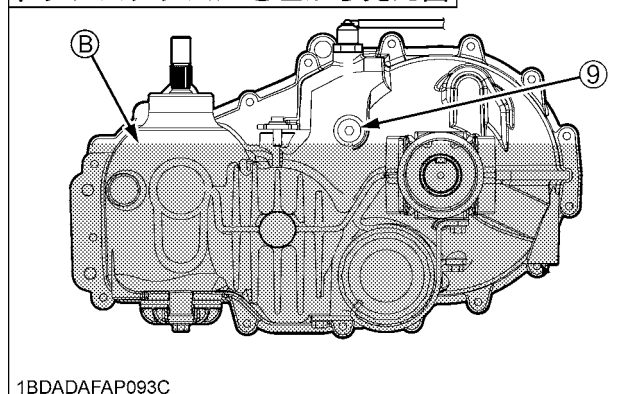
補 足

- * トランスアクスルの内部整備を行なうときには必ずフィルタを交換してください。
4. 金属のオイルドレーンプラグ (8) をドレーンポートから取外し、残っているオイルをトランスアクスルから排出します。
 5. オイルが排出された後、過剰な摩耗または破損がないかすべての部品を点検してください。必要な場合は交換してください。金属のオイルドレーンプラグ (8) をトランスアクスルに取付けてください。
オイルドレーンプラグ (8) を 1.70 N-m のトルクで締めてください。
 6. フィルタ基部表面を拭き、新しい交換用フィルタのパッキング (Hydro-Gear 部品番号 52114) に新しいオイルを薄く塗布してください。
 7. 新しいフィルタを手で取付け、フィルタのパッキングがフィルタ基部表面に触れてから、3/4 ～ 1 回転してください。

定期点検



トランスアクスルを左から見た図



- | | |
|---------------------|-----------|
| (1) トランスアクスル | (A) 前 |
| (2) トランスアクスルオイルフィルタ | (B) オイルの量 |
| (3) フィルタガード | |
| (4) 六角フランジ頭ボルト | |
| (5) 金属継ぎ手アセンブリ | |
| (6) バープキャップ | |
| (7) ホース | |
| (8) ドレーンプラグ | |
| (9) オイル量点検ポートプラグ | |

8. フィルタガード (3) を 3 本の六角頭ボルト (4) で取付けてください。
ボルト (4) を 7.35 N・m のトルクでしっかり締めてください。
9. 注油前にトランスアクスルからオイル量点検ポートプラグ (9) を取外し、ここからあふれるまで注油してください。
10. ホース (7)、バープキャップ (6)、金属継ぎ手アセンブリ (5) を取外してください。
11. オイルがオイル量点検ポートの下部に見えるまで 20W50 モータオイルを満たしてください。
オイル量点検ポートプラグ (9) をトランスアクスルに取付けてください。プラグ (9) を 20.34 N・m のトルクで締めてください。
12. 金属継ぎ手アセンブリ (5) をトランスアクスル (1) に取付け、金属継ぎ手アセンブリ (5) を 20.34 N・m のトルクで締めてください。バープキャップ (6) とホース (7) を取付けてください。

13. エア抜きをしてください。

■トランスアクスルオイルの交換

(“定期点検”の章の“600 時間ごとの点検”の項の“トランスアクスルオイルフィルタの交換”を参照してください。)

2 年ごとの点検

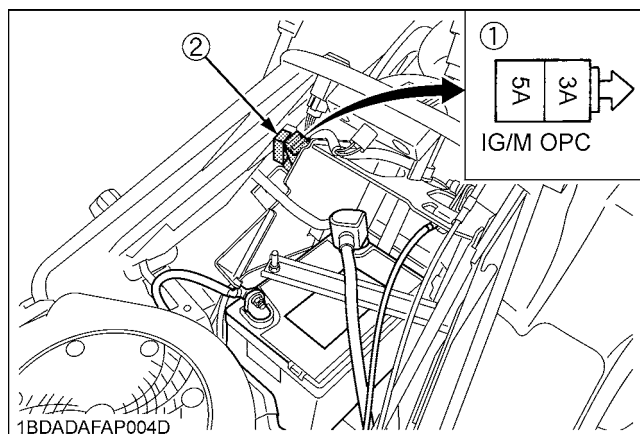
■燃料ホースの交換

交換は購入先にご依頼ください。

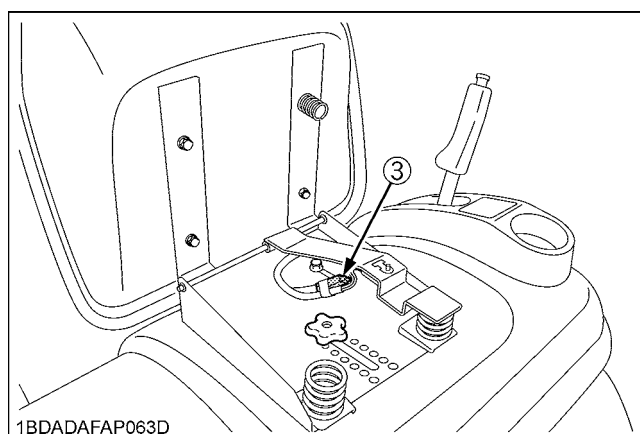
必要に応じた点検・整備

■ヒューズの交換

1. ボンネットを開けてください。
2. 切れたヒューズを取外してください。
3. 新しい 3A または 5A ヒューズを入れてください。



(1) ヒューズの配置
(2) スローブローヒューズ



(3) ヒューズの配置

重 要

- * 新しいヒューズが短期間で切れた場合は、購入先に点検と修理を依頼してください。
決して針金や銀紙などでヒューズを短絡しないでください。

◆ 保護されている回路

ヒューズナンバー (ID ラベル)		容量 (A)	保護されている 回路
(1)	IG/M	5	メインヒューズ
	OPC	3	エンジン駆動回路
(2)	スローブロー ヒューズ	20	バッテリー接続不良 に対する点検回路
(3)	-	3	KRA システム

■ランプの交換

(A) ヘッドライトの電球の交換

1. ボンネットを開けてください。
2. 電球ソケットを回して、ソケットをヘッドライトのハウジングから取外してください。
3. 電球を押して、1/4 回転させ、電球をソケットから取外してください。
4. 新しい電球をソケットに取付けてください。
5. ソケットをハウジングに取付けてください。
6. ボンネットを閉じてください。

ヘッドライトの電球	12.8 定格電圧 / 1.04 AMP/15MSCP
-----------	--------------------------------

(B) インジケータの電球の交換

1. ボンネットを開けてください。
2. 切れた電球ソケットを左に回してください。
取外してください。
3. 電球をソケットから引き抜いてください。
4. 新しい電球をソケットに押し込んでください。
5. ソケットを取付けてください。
6. ボンネットを閉じてください。

インジケータの電球	14.0 定格電圧 / 0.27 AMP/2MSCP
-----------	-------------------------------

定期点検

■バッテリーの交換

この製品には外国製バッテリーがついております。新品の日本製バッテリーと交換する場合には、必ず指定した型式のバッテリー（**34A19R**）を使用してください。

No.	品番	品名	個数	備考
1	07908-2528-0	バッテリー	1	34A19R

■刈刃の点検と交換

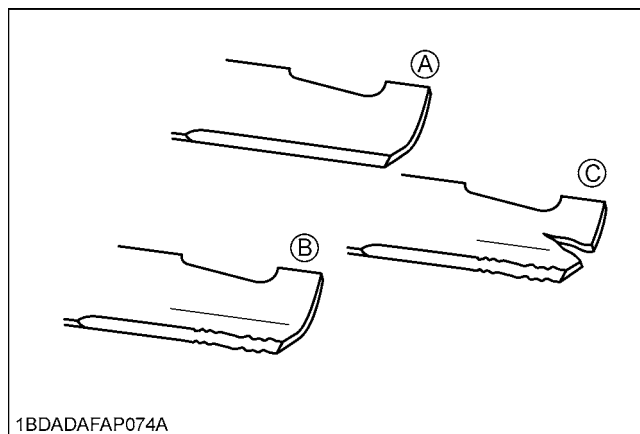


注 意

- * 必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。
- * 刈刃は鋭くなっています。刈刃に触るときには厚手の手袋をするか、刈刃の端を布で覆ってください。

◆ 点検

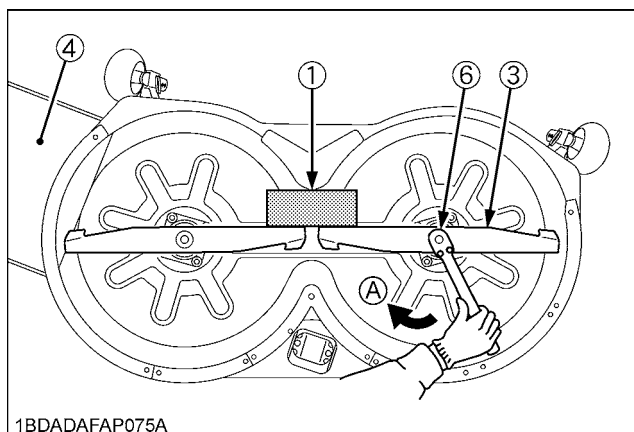
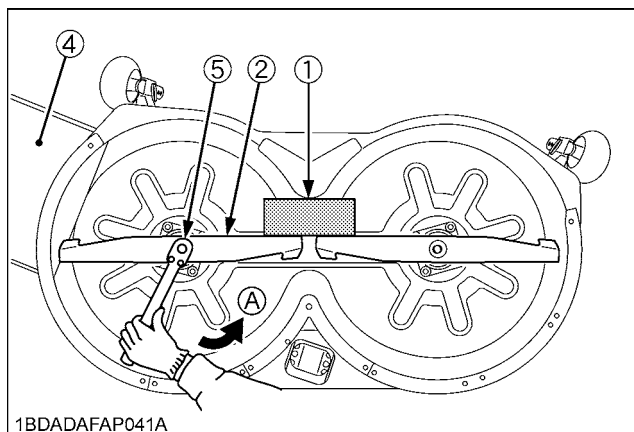
刈刃の刃先は常に鋭くしておく必要があります。刈刃が (B) の様になっている場合には刃を研磨してください。(C) のようになっている場合には刈刃を交換してください。



- (A) 新しい刈刃
(B) 摩耗した刈刃
(C) 破損した刈刃

◆ 交換

1. モーアデッキを機械から外し、刈刃が見えるように仰向けにしてください。
2. 木片を図のように刈刃とモーアデッキの間にに入れて固定してください。
3. 黒い刈刃のボルトは右ネジです。ゆるめるときには反時計方向に回してください。赤い刈刃のボルトは左ネジです。ゆるめるときには時計方向に回してください。



- (1) 木片
(2) 刈刃 (黒)
(3) 刈刃 (赤)
(4) 放出部安全カバー
(5) ボルト (右ネジ)
(6) ボルト (左ネジ)

(A) ゆるめる

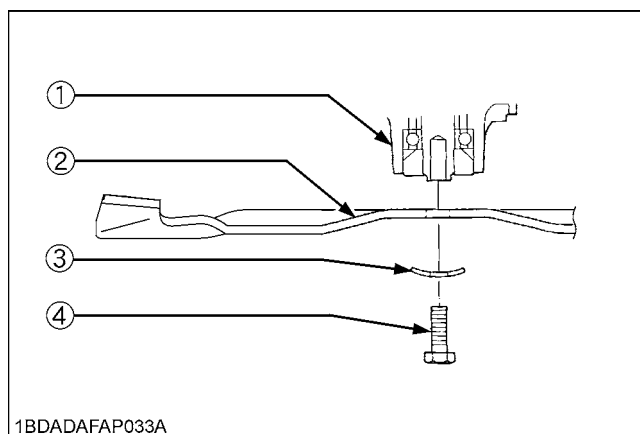
補 足

- * 刈刃取付けボルトの着脱は適切なソケットレンチまたはメガネレンチを使用してください。
 - * 黒い刈刃は、放出部安全カバー（黒）側に取付けます。赤い刈刃は、モーアデッキの内壁（赤）側に取付けます。
4. 刈刃を研磨するときは刈刃をバイスに確実に固定してください。粗い目のやすりを用いて、元の角度に沿って鋭くなるまで研磨してください。
 5. 刈刃のバランスを点検するには中央の穴に細い棒を通してください。刈刃のバランスが取れていない場合には刈刃の重い側をバランスが取れるまで削ってください。
 6. 刈刃を取付けるには、刈刃とボルトの間に皿バネを確実に入れてください。

補 足

* 皿バネが平らになるか、または摩耗していないことを確認してください。このような場合、刈刃が過度に滑ります。
いずれかの場合は、皿バネを交換してください。

7. 刈刃を点検、交換する前に、モータの上と内部の草を取り除き、土を落としてください。



- (1) 主軸ホルダ
- (2) 刈刃
- (3) 皿バネ
- (4) ボルト

重 要

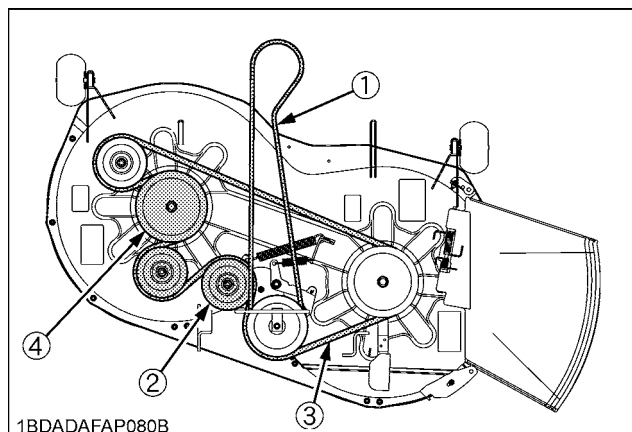
* すべての刈刃のボルトを 103 ~ 118 N・m のトルクで締めてください。

◆ モータベルトの交換

1. モータを機械から外してください。
2. モータデッキから左側および右側のカバーを取外してください。
3. プーリ周りを清掃して、プーリからベルトを外してください。左側のプーリの上部を滑らせてベルトを抜いてください。
4. 新しいベルトを取付けるには上記の手順の逆を行なってください。

補 足

* カバーのボルトをしっかり締めてください。



- (1) PTO ベルト
- (2) テンションプーリ
- (3) ベルト
- (4) 左側のプーリ

定期点検

一般締付けトルク

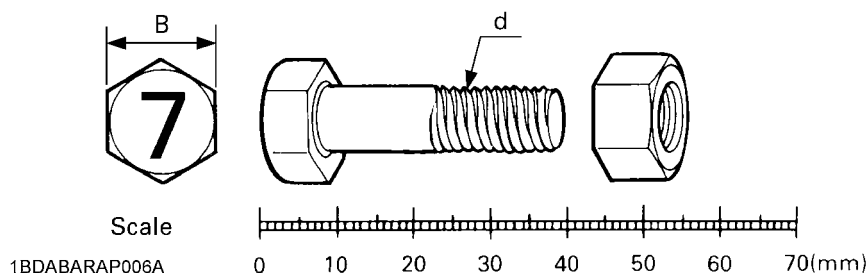
ユニファインネジ (UNC または UNF ネジ山)			メートルネジ		
ねじの呼び	グレード 5 	グレード 8 	ねじの呼び	クラス 8.8 	クラス 10.9 
1/4 (N-m) (kgf-m)	10.7 - 12.9 1.10 - 1.31	16.1 - 19.3 1.65 - 1.96	M6 (N-m) (kgf-m)	9.81 - 11.3 1.0 - 1.15	
5/16 (N-m) (kgf-m)	23.1 - 27.8 2.4 - 2.8	32.5 - 39.3 3.4 - 4.0	M8 (N-m) (kgf-m)	23.6 - 27.4 2.4 - 2.8	29.4 - 34.3 3.0 - 3.5
3/8 (N-m) (kgf-m)	47.5 - 57.0 4.9 - 5.8	61.0 - 73.2 6.3 - 7.4	M10 (N-m) (kgf-m)	48.1 - 55.8 4.9 - 5.7	60.8 - 70.5 6.2 - 7.2
1/2 (N-m) (kgf-m)	108.5 - 130.2 11.1 - 13.3	149.2 - 179.0 15.3 - 18.2	M12 (N-m) (kgf-m)	77.5 - 90.1 7.9 - 9.2	103 - 117 10.5 - 12.0
9/16 (N-m) (kgf-m)	149.2 - 179.0 15.3 - 18.2	217.0 - 260.4 22.2 - 26.5	M14 (N-m) (kgf-m)	124 - 147 12.6 - 15.0	167 - 196 17.0 - 20.0
5/8 (N-m) (kgf-m)	203.4 - 244.1 20.8 - 24.8	298.3 - 358.0 30.5 - 36.5	M16 (N-m) (kgf-m)	196 - 225 20.0 - 23.0	260 - 303 26.5 - 31.0

締付けトルク一覧

ネジ山 サイズ d (mm)	六角ボルト頭 サイズ B (mm)	マークなし		7T	
		N-m	kgf-m	N-m	kgf-m
M8	12 または 13	17.8 - 20.6 (19.2 ± 1.4)	1.9 - 2.1 (2.0 ± 0.1)	23.5 - 27.5 (25.5 ± 2.0)	2.4 - 2.8 (2.6 ± 0.2)
M10	14 または 17	39.3 - 45.1 (42.2 ± 2.9)	4.0 - 4.6 (4.3 ± 0.3)	48.1 - 55.9 (52.0 ± 3.9)	4.9 - 5.7 (5.3 ± 0.4)
M12	17 または 19	62.8 - 72.6 (67.7 ± 4.9)	6.4 - 7.4 (6.9 ± 0.5)	77.6 - 90.2 (83.9 ± 6.3)	8.0 - 9.2 (8.6 ± 0.6)
M14	19 または 22	107.9 - 125.5 (116.7 ± 8.8)	11.0 - 12.8 (11.9 ± 0.9)	123.6 - 147.0 (135.3 ± 11.7)	12.6 - 15.0 (13.8 ± 1.2)

補 足

- * ボルトの上にある数字“7”は、ボルトが特殊材料でできていることを示します。
- * 締付ける前に、ボルトの上の数字を確認してください。





注 意

- * 火災事故の危険性を少なくするため、密閉された空間または可燃物の付近に機械を格納する前に、エンジンおよび排気システムを冷やしてください。
- * 有害な排気ガス中毒の危険を避けるため、適切な換気装置のない屋内でエンジンをかけないでください。
- * エンジンが始動している状態で機械を清掃しないでください。
- * 火災事故を防ぐため、草および木の葉をモーアおよび集草機の中に残さないでください。
- * 格納時は、許可を得ていない人による操作を防ぐために、キースイッチからキーを抜いてください。

機械を2ヶ月以上使用しない場合は、機械を清掃して、次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 必要に応じて部品を修理します。
2. 必要に応じてボルトとナットのゆるみを点検します。
3. さびやすい部分にはグリースかオイルを塗っておきます。
4. タイヤに標準圧力レベルよりやや多く空気を入れます。(約110%)
5. モーアを地面に降ろします。
6. バッテリーを本機から外し、充電し、バッテリー液を適量補充し、乾燥した冷暗所に保管してください。
バッテリーは保管している状態でも放電します。夏季は1ヶ月に1度、冬季は2ヶ月に1度充電してください。
7. 燃料タンク、燃料ホース、キャブレターの燃料を抜くか、または燃料安定剤を使用して、ガソリンの劣化を防いでください。燃料安定剤を使用する場合は、製造元の指示に従って、燃料系統の容量に対して正しい量を添加してください。燃料タンクをきれいで新鮮なガソリンで満たしてください。エンジンを2, 3分運転し、安定させた燃料をキャブレターに送ります。
8. 機械は雨よけのある乾いた場所に格納してください。機械はビニルの防水シートで覆います。

9. モーアや集草機を使用後に適切に清掃しないと、刈り草に含まれる水分によりモーアや集草機が傷みます。
必ずモーアおよび集草機を清掃し、完全に空になっていることを確認してから格納してください。

◆ 格納した機械を使用する前の処置

1. 空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。
2. バッテリーを取付けてください。バッテリーの取付け前に再充電し、十分に充電されていることを確認してください。
3. 日常点検を行なってください。(“定期点検”の章の“日常点検”を参照してください。)
4. すべてのオイル量を点検してください。(エンジンオイル、トランスミッションオイル)
5. エンジンを始動します。エンジンを停止した後で機械の周囲にオイル等の漏れ、飛散がないかを点検してください。
6. 負荷をかける前にエンジンを2, 3分運転してください。
7. エンジンを十分に暖機運転して、駐車ブレーキを外し、前進しながらブレーキが正しく調整されているかテストしてください。必要に応じてブレーキを調整してください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

エンジンの調子が悪い場合は、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	考えられる原因
始動困難な場合	● 燃料タンクまたは燃料フィルタがほこりで詰まっている。
	● 点火プラグが故障している。
	● 燃料系統にほこりや水が混入している。
	● 寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。
	● バッテリーが充電されていない。
出力不足の場合	● エアクリーナエレメントが詰まっている。 ● 燃料の流れまたは品質不足。
突然停止した場合	● 燃料不足。
排気ガスに色が付いている場合	● 燃料の品質が悪い。
マフラから黒煙が出て、出力が低下した場合	● エアクリーナエレメントが詰まっている。
	● チョークが完全に開いていない。
作業中にマフラから青白色煙が出た場合	● エンジンオイルの入り過ぎ。
エンジンがアイドリング状態にならない場合	● 点火プラグが正しくギャップ調整されていない。
	● 点火プラグが不良。
出力不足またはオーバーヒート	● エンジンのオーバーヒート。
	● エアクリーナが汚れている。
	● 燃料ホースやフィルタにほこりや水が混入している。
	● 燃料切れ。
	● エンジン冷却吸気スクリーンまたはエアクリーナエレメントが詰まっている。
エンジンがノックする場合	● 燃料が古いまたはオクタン価が低い。

ご不明の点は、購入先にお問い合わせください。

バッテリーの不調と処置

現象	考えられる原因
スタータが作動しない場合	● バッテリーが充電されていない。
	● バッテリー端子の接触不良。
	● バッテリーの寿命。
上から見ると電極の上部が白っぽく見える場合	● バッテリー液が不足。
	● 充電せずにバッテリーを使用した。
充電をしても充電ができない場合	● バッテリーの寿命。
端子の腐食がひどく、端子が熱くなる場合	● バッテリー端子の接触不良または端子のさび。
バッテリー液が急に少なくなる場合	● 電解槽にひび割れや小さな穴がある。
	● 充電システムが不調。

ご不明の点は、購入先にお問い合わせください。

トラクタの不調と処置

現象	考えられる原因
スムーズに走行しない場合	● トランスミッションオイルが不足している。
エンジンは回転しているが機械が動かない場合	● 駐車ブレーキがかかっている。
	● トランスミッションオイルが不足している。
	● HST ベルトがスリップしている、または破損している。
速度調整ペダルを踏んでいなくても機械が動く場合（エンジンは回転している）	● ハイドロスタティック中立システムの調整が正しくない。

ご不明の点は、購入先にお問い合わせください。

不調と処置

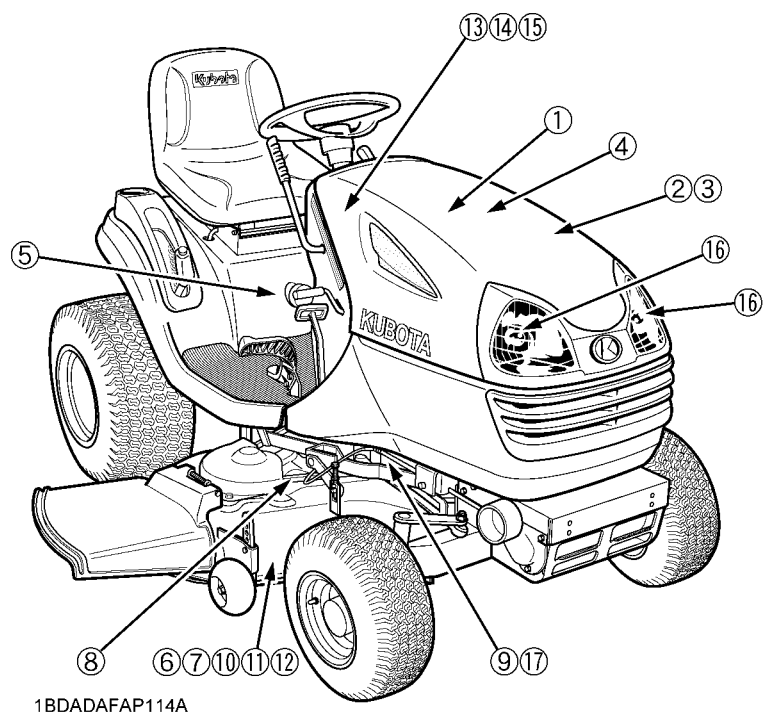
モータの不調と処置

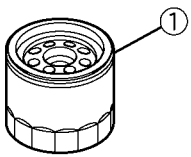
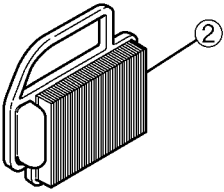
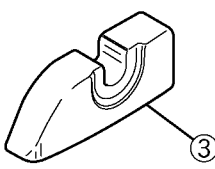
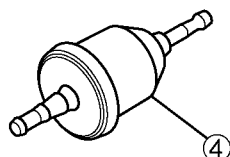
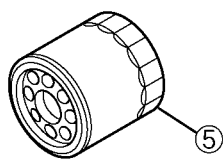
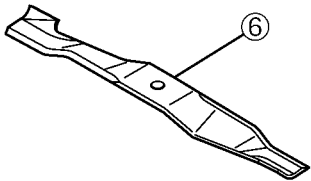
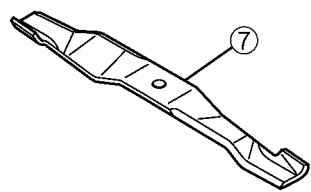
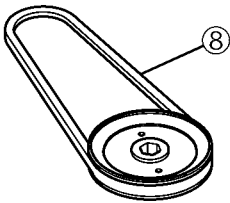
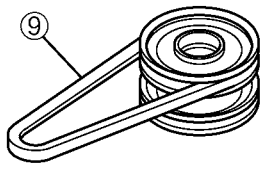
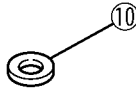
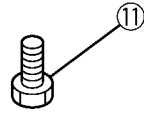
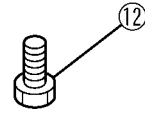
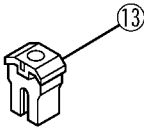
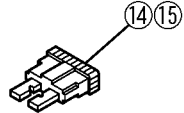
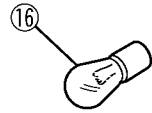
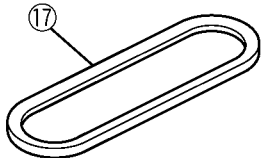
現象	考えられる原因
排出ダクトが詰まる場合	● 芝が湿っている。 ● 芝が長い。 ● 刈高さが低い。 ● エンジン回転が低い。 ● 作業速度が速い。
刈残しが出る場合	● 作業速度が速い。 ● エンジン回転が低い。 ● 芝が長い。 ● 刈刃の切味が悪いまたは破損。 ● モータデッキ内面への草の堆積。
均平に刈れない場合	● モータデッキが水平でない。 ● 作業速度が速い。 ● 刈刃の切味が悪い。 ● 刈刃の摩耗。 ● タイヤの空気圧。 ● モータのローラーが正しく調整されていない。
芝削り（土削り）を発生する場合	● 刈高さが低い。 ● 刈刃の速度が速い。 ● 地形にうねりがある。 ● 地形に起伏（凸凹）が多い。 ● 刈刃の曲がり。 ● タイヤの空気圧が低い。 ● 補助輪が正しく調整されていない。
ベルトがスリップする場合	● ベルトのテンションが正しくない。 ● モータデッキが詰まっている。 ● プーリに草が堆積している。 ● ベルトが摩耗している。
振動が大きい場合	● モータデッキ上及びプーリに草が堆積している。 ● 駆動ベルトが損傷しているまたは PT0 ベルトがねじれている。 ● プーリが損傷している。 ● プーリの調整が悪い。 ● 刈刃のバランスが悪い。
モータの作業負荷が大きい場合	● エンジン回転が低い。 ● 作業速度が速い。 ● モータの回転軸回りに草が巻きついている。
芝の先端がぎざぎざで灰色がかった茶色になる場合	● 刈刃の切味が悪い。 ● 刈刃の摩耗。 ● モータデッキが水平でない。

ご不明の点は、購入先にお問い合わせください。

付表

主な消耗部品一覧表



オイルフィルタ(エンジン) 	エアクリーナエレメント 	プレクリーナエレメント 	フューエルフィルタ 
オイルフィルタ(トランスミッション) 	ブレード(左) 	ブレード(右) 	Vベルト(モータ) 
Vベルト(PTO) 	イタバネ 	ブレード取付ボルト(左) 	ブレード取付ボルト(右) 
スローブローヒューズ(20A) 	ヒューズ(5A), ヒューズ(3A) 	ランプ 	Vベルト(ミッション駆動) 

付表

図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	オイルフィルタ（エンジン）	E7188-3211-0	10	イタバネ	K5112-7133-3
2	エアクリーナエレメント	E7187-1004-0	11	ブレード取付ボルト（左）	K5410-7189-0
3	プレクリーナエレメント	E7187-1003-0	12	ブレード取付ボルト（右）	01176-51230
4	フューエルフィルタ	E7187-8215-0	13	スローブローヒューズ（20A）	K1042-6152-0
5	オイルフィルタ （トランスミッション）	K1042-8108-0	14	ヒューズ（5A）	66426-8001-0
6	ブレード（左）	K5124-7192-0	15	ヒューズ（3A）	48200-5587-0
7	ブレード（右）	K5124-7193-0	16	ランプ	K1122-5421-0
8	Vベルト（モータ）	K5124-7142-0	17	Vベルト（ミッション駆動）	K1023-2613-0
9	Vベルト（PTO）	K5123-7142-0			

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず、購入先へ ご相談ください。

おぼえのため、記入されると便利です

購入先名	担当	電話 ()	—
ご購入日	型式	車台番号	
エンジン型式	機番	その他装着型式	機番

万一ご購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形(庄内地区)	秋田営業技術推進部	岡山、広島	中国営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形(庄内地区以外)	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	中国営業技術推進部(米子事務所)
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
中国営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275番地
中国営業技術推進部(米子事務所)：電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市富合町廻江846-1
本社営業技術部：電(072)241-7247	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号



安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。



陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ

〒556-8601

大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号